易にうせぬと知られたり、舊政府の比、金何萬兩、米何萬石を施せしかば、饑饉の難は、政府の受持のやうに成て、凶荒來らば、御救を仰ぐべし、と心得居るもの多く見ゆ、以ての外の心得違ひなり、昔しより凶年饑饉はあることなり、世の中が開けたりとて、凶年饑饉までも無くなることはなし、平生自身々々が、飢ゑて死せぬやうに覺悟をなし、我が爲めに計り置くべきことゝ思ふ、凶年饑饉は、日本國中の大變なり、大患なり、此豐年の時さへ、火付盜賊狼籍ものなど、種々國家の安寧を妨害する族多くあり、亂暴狼籍を働くは、昔より饑饉の徵ひなり、さあらば政府は、國家を保護し、妨害させぬ樣に手段を運らし、取締をなさしめ、又彼の南京米など買入の爲めに、人民より紙幣と金銀貨の引替を請ふものゝ日に、夥しからんには之を圓滑にする等、其職限内の事務多端なるべきに幾十萬人とも數知れざる飢民まで、一々之を救ふことは叶ふまじ、又其義務あるべしと思はれず、是れ等は國民たるものゝ常に心得居り、自ら用意をなすべき筈なり、左すればそれ來れりと、あはて騷ぐに及ばず、無き智惠も出づべけれ、假令此大難に遭ふとも更に屈せず天に勝つの計を運らし、政府と共に國の大事を治むるは、國民の本分なるべし、但し其本分を盡したりとて、自ら誇るべきことにはあらざりけるが、外國に對しては、帝國日本人民の名譽なるべし、

去りながら日本三千八百萬餘の多人數の内に、此心得あるものは、何程ありや調べて見ぬことは、人數も知れざれども、年々に其人々の多からんことこそ頼母しけれ、斯くあれば、假令ひ又彼の不心得者が己れが不覺悟にて、飢て死すればとて、人を怨むべき筈は無けれども、餓死するとも、我が一分を守る伯夷の流は、時世におくれたりと見て、小人窮すれば亂すは、人情に近しと云ふとも、何ぞ恐るゝに足らんや、

飢の大きなるものは、凶年饑饉なり、古人云ふ凶年饑饉は、近ければ三四十年の間にあり、遠くとも五六十年の内には來ると思ふべし、余が調にては、神龜三年より、天保七八兩年まで、凡そ三十六度の饑荒ありとすれば、平均して三十年目に、一度の饑歲に當る、又寛永十九年より、天保七年まで、其年間百九十四年にして、十度の凶年不作あり、其内寛永、延寶、享保、天明、天保の、天下饑荒の五つを以て之を割れば、凡そ三十八年目に、一度の凶饑に當るべし、舊幕府は、余より五倍ほどの老人なれば、たび〳〵の饑饉に遭ひしが、余は天保七八兩年の饑難を經て、慶應明治の間の不作にあひたり、天保七年より、今明治二十一年まで、五十二年なり、本年より二十一年を引き去れば、天保より慶應の間、凡そ三十一二年計りになりぬ、

今は二十一二年計りも過ぎ去りけるが、絶えて世間に噂さもきこえぬことなりしが、

慶應年間より打續きての不作にて、明治の初、一二三四の年、彼の南京米の輸入高は、二千七十餘圓に及びしとあり、余は尙ほ多しと思ふ譯あり、又其比、和蘭の輸入米價表に據て之を積り見しに、其米價は、一圓に付一斗一二升計りに當りしかば、其高價なるに驚きしことありける、其金高を數字にて記すれば、僅かに五六文字なれども、實物はしからず、例へば金百萬圓づゝを、毎年慥かに積み立つるとしても、二十年餘もかゝるべし、況んや之を儉約するの苦心はいか計りならんか、去れども金は貨物なれば、斯る大金を出しても、饑饉の大患を治したる療治料とすれば、金の用を爲したりしが、其後豐年打續きて、近來民間には金に乏しくなりて、米價の安きに苦しむこそ世の變遷なり、余は見聞廣からず、特に余が小村の古老の傳へに、天保の時、平作二斗の收穫ありしものは、上作は二升の收穫なり、中作は五合の收穫なり、下作は皆無なりしと、彼の富士の山が、俄に五六合目までも無くなりたらば、それだけ日本に食物の不足を生ずれば、必ず外國より輸入し來るべし、之を買ふの金は何千萬圓なるべきや、余未だ之を知るに由なし、只々凶年饑饉は外寇よりも尙ほ慥に來るべし、飢は之を小にすれば、一個人の奇病なり之を大にすれば、天下の奇病なり、飢は誠に恐るべし、

◎本郷駒込駒本小學校に於て

明治二十一年三月講演

一小兒は此世に生れ來るより此廣漠無限の學校へ導かれたる者なり

一故に敎育の役目を爲すものは宇宙なりと知るべし無數の聲音は之れに出會し之れに接するなり即ち之れを見之れを感ずる所の物より來るなり夫れ自然の物なり社會の事なり自ら經驗する等至る所小兒の眼前に打開かれ居る所の事物なり

一小兒の感覺の範圍内に在る各事各物は皆敎訓を與ふる物ならぬは一も無し凡そ是等の事物は一として小兒の心を敎へ之れを勵まし之れを進むる物に外ならざるなりとカンニングは言へり

一右は小兒敎育の本論にして人性に適ひたる立論なるべしと信ずるなり小兒敎育の正面より言へば素より斯の如しと雖も之れを應用して實際に行ふに至りては甚だ難しとす是れは父母や敎員諸君の自ら經驗せられる所にして茲に贅言を費すに及ばず

一凡そ物事には正面あれば裏面あり又一利あれば一害之れに副ふと云ても可なり此敎育論は正面の立論美事なりと雖も其立論の主意のみを知りて一濟に正面に進むときは裏面にはいつか弊を生じて如何とも致方なきことに至るべし故に其

裏面を知ることも甚だ肝要なり茲に一二の例を擧て之を云へば

一教育熱心の過度なるより小兒の身體も精神も衰弱せしむるの恐なきにあらざるべし

一小兒の死亡を促すの憂なきや

一小兒を近眼に致す乎偏視(ヘンシ)にすることなきや其外數へ擧げたらんには多かるべけれども余が父母及教員諸君に尤も御注意を乞ふことあり人間社會には盜の筋を引きて居ると云ふことなり

一幼稚の時兄の物を弟が取り妹の物を兄が取るを初めとして長ずるに隨て體力も強くなり智慧も增すに及んでは他人の物を奪ひ種々の惡意を生じ物を損じ人命をも失はしむるに至るとなり昔しより世間に巾着金など云ふ習ひあり檀那寺などに持ち行きて後生を願ふと云ふ習性と成りて誰れ咎むる人も無く佛も其金の出所をも糾さずに知らぬ顏して受け居る上は他に依賴すべき所なし只家庭の教育に訴へ小學校教員に御注意を乞ふの切なるを覺ふ之れを以て世間を觀察したらんには益々多からんか

一小兒は國家の繼續者にして父母が其子女を養育し保護し看護し四五歲より幼稚園へ入れ小學校に移り卒業まで大抵十一二年の間父母の丹誠教員諸君の勤勞所詮言語の盡すべきことにあらず又其期限內に費す所の金員は生徒一人にして一箇年平均凡そ四十圓ばかりと積るべきか救育場の貧人にても一箇月三圓位掛ると聞く之れを以て府下の小學生徒より全國の小學生徒の入費を推算したらんには年々何千萬圓の高に及ぶべし實に莫大なることなるべけれども後代の繼續者として後日國家の幸福を致すが爲めの基本なれば惜むに足らず

一去れど經濟上より云へば小兒は消費者にして負債者なり故に開明と稱する國にては小學校にて生徒が費す所の無用を省きて一錢なり五厘なり貯金する法を設けたりと聞く思ふに是れ一錢や五厘の錢を惜むにはあらずして生徒が自發して儉約する樣の仕法にして向後國家の大經濟の爲めならん此方法にして客嗇に僻せず惡習に陷らざるやうに注意至れば世の繼續者たるものに經濟上善き教へなるべし之れ等の事を見ても人々善くナロウと云ふ一心の力は亦廣大無限の勢あることを知るべし

一今日は幸ひの事にて教員諸君に御一禮申上度事有り私の子女は誠之學校の生徒なりしが近頃小學用の紙類を成丈け白紙の處を無用にせぬ樣に致して用ふべし

本郷駒込駒本小學校に於て

と先生方の申聞けなされたりとて書學紙の裏又は殘りの白紙に書を寫し字を書し居りしを見たり小兒は正直のものにて教員諸君の御諭しは善く信じて用ふることを屢々實驗せり此事瑣細に渉れども生徒の注意を促し後日の爲めに大に益あるべし是等御注意あるは特に父母の感悅する所ならんと察し乍序生徒の父母に代りて厚く御禮謝申述ぶるなり

◎饑饉の豫備

明治二十一年四月大日本農會講話

一此の題を見れば僅かに五文字なれども其内に各種異樣なる原素あり先づ飢うること、饑饉のこと、饑歲年間のこと、其豫備方法のこと、又幾分のエキストラクトも含有するなり昨二十年十二月二十四日大日本私立衛生會にて饑饉は衛生の大關係なりとの說を演べ去る二月十一日東京學士會院に於て飢の說を講じたり今日は貴會幹事諸君の御勸めに賴り止むを得ざる理由もあれば此の題を述ぶることはなりぬ昨年の冬以來饑饉なる文字を艸稿に筆し淸書に認め口に演べ書籍に見るなど其の數幾千なりや計へも成らぬ程に至りぬ固より愉快の事柄にあらざれば其の一話一語も腦に感徹して倦み果つべき筈なれども今日もまた饑饉の談話に及ぶは如何なる因緣なりやと自問自答を試みたるに彼の天災饑饉なる無情暴力の害を避くることは果して叶はぬことなりやと心中甚だ不滿足を覺へ之れを滿足せんとの念より來ると思ふなり全體人類は生來不滿足の性なれば其の生活の目的は日に自然の造物と力を爭ひ生存競爭して常に滿足せんことを務めて息まず息めば即ち人間の死したるなり生命の存する間は我れ滿足せんことを孜々として勉め居るなり夫れ水力を假りて舟車をやり之れに滿足せずして蒸汽となして其の力を增し熱力を假りて日常の用に供し電氣を發明して醫療に妙功を奏し尙ほ滿足せずして電信となし油火の暗きを厭ふて石油を發見し石油の光に滿足せずして電氣燈を造り出すの類其外今日見る所聞く所の諸事諸物改良と稱し改正と云ふは一として不滿足より起らざるものは無し水や火や電氣の如き我々人類に害も加ふれども其の益する所多く其の害を償ふに餘りあるべし特に空氣の如きは一瞬の間も息むことなく呼吸して我が身體を榮養する無類の滋養物なり更に無錢にして重寶なる之れにしく物は又有るべからざるべし然るに天災饑饉なる無情暴力に至りては何の益する所なくして恣まゝに人類を毒害するのみ誠に恐るべし抑も天災饑饉を懼るゝは何が故となれば飢ゑの懼るべきを恐るゝな

り人類の不幸なるは飢餓より大なるもの無し其の飢るや三つの現象あり食物を欲しがること食物の缺乏より生ずる不愉快なること、胃が食物を欲しがること大抵斯の如し初め食欲の起るとき暫らくは心氣爽かなれども食を斷つことやゝ久しきに及べば愉快は變じて不愉快となり心地愈々惡しく食を得ればまた食欲和して心身ともに爽快を覺ふ若し又胃が愈々飢ゑに沈めば全く苦を覺ふ尚ほ食を斷つに至れば胃内に裂くるが如き苦痛を發し頭痛發熱次で起り又狂氣の如き容體を顯はし終に食ふの欲計りに陷り父母の愛情うせ果てゝ餓人の仲間と共に其の死兒の肉を爭ふに至ると云ふ

一諸君の御承知ある農喩にも天明饑饉の時飢ゑに堪へかねて自ら首をくゝりて死し或は井戸川へ身を投げ親に別れ子を捨てゝ死せしもの幾許と云ふ數限りも無かりし殊にいとけなき子の飢ゑしは乳房をくわゆれども母も食に遠ざかりし身なれば乳も絶へて出でずさあれば子は飢ゑにせまりて乳房を喰ひきり又は父の股なぞに喰ひつきて病み犬の如くなる故詮方なく櫃長持の類に押し入れ置き死するを待ちしと又云ふ徒黨をなし村々にて穀物の蓄ありし家々へは大勢にて押し入り押し借りをなし亂妨狼籍を働き日夜騒動たへずとあり天保饑饉の時余は八九歳の比なりしが聞く所見る所も斯の如きことなるをかすかに覺へ居るなり其時諸國に米穀の蓄なかりせば天下の大亂を釀せしならんと今は松平樂翁公の先見を思ふなり

一是れは饑歳に遭ふて飢の大なるものは其の大なる惡果を結びしことを記したるなり又學科の方法を以て之れを調べたるものは尚ほ其の懼るべきものあり凶饑の時初めに出で來るものは夥多の小供や婦人の乞食なり此の禍ひは假令其後豐作つゞくとも年久しく止まず又老幼不生産の者は少くして中年生産の者多く死し國人の年齢に大きなる穴を生じ之をうめるまでは二十年三十年の月日を經ざれば本に復せぬ故其間は出生力を減じ生産力を失ふことなれば國家の富强に大きなる損失ありと云ふ是れ亦深く考ふべきことなるべし

一元來生物の體は費すと補ふとの二つの原因ありて常に相須て生々の働をなして息むときなし之れを譬れば生體は竈の如し竈の火が薪材の缺乏を告ぐるが如くに飢は食物の缺乏を知らする天慾なり大饑饉の時人心亂れて治まらず弱きものは思ひ〳〵に餓死する者もあれば自殺する者もあり又强きものは徒黨をなして亂妨を働き或は虛に乘じて事を起し天下の騒動を致すに至る其の例多し是れ皆

其大なる天慾の反動を起すより來るなるべし飢の道理を知れば誰も是非なきてとゝ思ふべし又其豫備の必要を感ずるなるべし

一マルサスの説は有名なれば諸君は御承知あらんなれども農事にも關係あれば乍序其の大畧を述ぶべし凡そ人類の蕃殖と食物の增加とは其の割合に於て大きなる相違あり茲に夫婦ありて子を擧ぐ其の子孫の增し方はゼヲメトリックの法の如く二、四、八、一六、三二、の蕃殖にて之れを食物の增し方に比ぶれば大に同じからず農作、牧畜、百種の食品に改良を施し如何に勞すとも人類蕃殖の法には及ばずして食物の增し方はアリトメチック法の如く二、四、六、八の增加なり是の故に人類は忽ち食物の缺乏に遭ふて饑渴に死し疫病に斃るゝ等災害並び起り百難を經て始めて人類と食物と自然の平均に復すと古來未發の論出でしかば大に歐洲人民の睡りを喚び起し之れに注意をなさしめ人世を助け科學の道を開きしはマルサスの功大なり此の説時代に遲れたる所あれども我が國の如き農業國は此の事に付て特に研究せざるべからず尙ほ貴會の御盡力あらば幸なり

一凶年饑歲の來る年間は古人も戒めて云ふ凶年饑饉は近ければ三四十年の間にあり遠くとも五六十年の內には來ると思ふべしと余未だ其の調べの何んに據りしかを知らず余が先年各種の年代記等に載する所に據りて調べたるに神龜三年より天保七八年迄凡そ千百十年斗の間諸國に三十六度の饑饉あり其の年間には遺漏やあらんと疑ふ所多くありけれども姑く之れを平均すれば三十年十ヶ月斗りに一度の饑饉に當る又寛永十九年より天保七年まで(八年は除きて)其間百九十四年にして十度の饑饉あり之れを平均すれば十九年餘にして一度の饑饉に當る又其の內寛永、延寶、享保、天明、天保の五つの饑荒を以て之れを割れば凡そ三十八年目に一度の饑歲あり天保七年より慶應、明治の間凡そ三十年斗にして彼の南京米輸入のことあり凶年饑饉の年間古人の説より余の調べは十年ばかりも短くなりしなり

一我が日本にて寛永以來を取りて見れば凶年饑饉の循還し來るは恰も種々の彗星の現出するが如くに遠きものは五十一、二年より二十年前後に在り天文學や氣象學が實驗を經るに至らば凶年饑歲の理も分明なるべく其の年間も確定すべけれども姑らく之を茲に記しぬ

一今や飢の説より饑饉なる飢の大なるものに及び又其の來る年間のことを演べたり余は饑歲は必ず來るべしと信ずる者なれば饑饉の豫備は我が日本には大事なりと言ふなり然らば其の豫備には何んの方法ありやとの疑問あるべし余が新案

に據れば先づ學科上の穿鑿をなして饑荒不作の力は如何ん、其の廣さは如何ん、食欲力は如何んを知ること第一なり之を知るには如何なる方法に據るべき乎スタチスチックの方法に賴らずんば恐くは他に妙案なかるべし

一今ま假りに食欲の一例を擧ぐれば我々日本人が日に食して三百六十五日の間消費する所の米や麥や雜穀や薩摩芋、里芋、カボチヤ、ポテート、大根、野菜より梨、柿、蜜柑菓物の類又鰯、鯨大小の魚介及豚、牛、馬の肉に至るまで有るとあらゆる食物を消化する食欲の力は最と大造なるものなるべし其の譯如何んとなれば人の口をば横二寸斗り竪一寸斗りに取り我々三千八百萬の人數と見て其口のを集めて之れを楕圓の形ちに作らば其の大きなる勢は富士の山をも一呑にせんずらんと去頃術生會に於て述べしが其後ちに二寸の口を三千八百萬集めて積り見しに其長さ五百八十六里斗に及びしかば自ら其大なるに驚きたり富士の山はさて置き日本國をも呑まんずる勢あり(固より一々寸方を取り調べたるにあらざれば多少の相違は免かるべからず)是等の調は依法式の材料を得れば其力を計ること出來がたきことにはあらざるなり只統計家が其の材料を與ふるを望む

一左の一例も食欲の力を知るの一端ならんか今を去ること二十一、二年斗りになりぬ慶應、明治初年の間不作にて米價の騰貴せし折南京米の輸入高は二千七十餘萬圓に及びしことあり余は尙ほ多しと思ふ譯あるなり又其の金高を數字にて記すれば僅かに五六文字なれども實物の數字は數學書の數字にあらず其の消費した る數字の中には熟々思慮すべき意味を遺しあると思ふ世間に噂さも絶たる程の小不作なれども食欲の大なる一證斯の如し

一次に饑荒不作の力と其の廣さ如何んを知るには之れを調ぶる表式を要すること なれば左に之れを載す

一天保の饑饉は七、八兩年なれば左の通りに調ぶべし但し郡別に調ぶるを良しとす(天保七年前より不作ならば亦た平年と不作年とを區別して調ぶべし)

天保七年の調

何國何郡			
一郡收穫平均	平年	米の收穫	何萬石
		麥の收穫	何萬石
		何々の收穫	何萬石
	(饑歲)	米の收穫	何萬石或は皆無

饑饉の豫備

天保七年何月右郡の人數何人又餓死人何人

但し其餓死人の年齢別乞食の人數(男何人女何人)其男女の年齢又慈善家の施與せし何々の高並押借り等の損失高、無住となりし家數、凶歳後の流行病何々又氣候は舊暦の何月頃何々の衣服を着せし等書類あらば之を書し言ひ傳へあらば之を記すべし

天保八年は前の表式に倣ふ但し天明享保の調あらば此表式に依り記載すべし

一慶應何年より明治何年迄不作の調

何國何郡	慶應何年	
一郡收穫平均	平年の收穫	米 何萬石 麥 何萬石 何々 何萬石
	(不作)慶應何年の收穫	米 何萬石或は皆無 麥 何萬石或は皆無

天保七年	麥の收穫	何萬石或は皆無
	何々收穫	何萬石或は皆無

慶應何年何月右郡の人數何人又餓死人何人或は無し但書前同斷

何國何郡	明治何年		
一郡收穫平均	平年收穫	米	何萬石
		麥	何萬石
		何々	何萬石
	(不作)明治何年收穫	米	何萬石或は皆無
		麥	何萬石或は皆無
		何々	何萬石或は皆無

明治何年何月右郡の人數何人又餓死人何人或は無し但書同斷

一是の如くに表式に從ひ箇條の取調をなし國々より之れを集めて表に製すれば何年の饑饉には何國は何分の不作或は皆無何國は並作なりと種々の事實一表の上に一目瞭然にして饑荒の廣狹を知り其の力の强弱を察し得べし斯くすれば將來饑歳來るとも凡そ儲蓄幾許あり其の食は之れを以て足れり若し其の不足あらば

饑饉の豫備

其の高の幾許は之れを外國の輸入に取り其の金高は何千萬圓程も費すべしとの見積りをなし又豫め外國より買入の商機を計り運送の便否等を考へ其の豫算を立て其の處置を施すの良法ならんと余は考へたり食品の良否を撰み之を儲蓄する方法の如きは農會諸君の學理上實驗せらるゝ所なれば余が如き素人の論すべきことにあらず若し此の調に着手せんとならば尚ほ諸君と協議し表式等改正する所あらんとす一席の演說固より余が意を滿足せしむるに至らず諸君明察あれ」

一或人難じて云く饑饉の說は命を聞く然れども其の豫備をなして金あれば金を蓄へ金なければ食物を蓄ふ可しと慫慂するが如きは甚だ不可なり需用供給の道を塞ぎ百貨融通の用を失ひ經濟の道理に背く其の害更に甚し今や四海交通の盛時にあらずや電信は瞬時に通じ自在に貿易し自在に運輸すれば昔の如くに黃金百兩を懷ろにして餓死するが如き愚かなる世界にあらず人智は日に進み產業は月に盛なり昨日の是とする所は今日の非となる何んぞ無用の儲蓄をなし無用の勞を取らんや臨機應變こそ得策ならんと余は又之れに問はん若し饑歲來らば慶應年間の如く彼の南京米を買ふべし其の購買力即ち金は國內に何程ありや電信の用貿易の利運輸の便は誰れの手に在りや又流行語を以て言へば其の優勝劣敗の理は彼れに在りや我れに在りや豫め此の問題の明答を得ざる以上は余の說は永く存して死せぬと思ふ凶年饑饉は實に我が日本國の大患なり豈に其豫備なくして可ならんや諸君の明宣しく選む所あるべし

◎家と眷屬とに就てスタチスチックの解釋

明治廿一年十二月九日東京學士會院講演

スタチスチックのことは、當院雜誌、第八編之二に、畧々論じたるが如く、社會學なるが故に、一人一家の禍福、幸不幸に拘はらずして、廣く社會全體の、榮枯盛衰に係る事を、解釋する者なれば、先づ此御斷を致し置くなり

家とは、眷屬の住する處を云ひ、眷屬とは、父母子女を云ふ、眷屬は、文明社會の基礎なり、邦は住人の總數に對して、家と夫婦の多きを貴ぶ、然るに人類の弱點よりして、家を有ち、妻子を養ふの勞を厭ひて、生涯獨身を樂み、私慾を專にせんとするもの有り、獨身者の增殖するは、邦に損害多く、其基礎甚だ堅固ならず、一例を擧ぐれば、私生の兒多く生じ、犯罪人亦た多く、租稅を出すもの、漸く減少する等是なり、尚ほ其引證すべきもの多けれども、本論外のことなれば、後日に讓る、

家と眷屬との關係は、邦の大事なれば、臆測を以て論ずべきことにあらず、想像を以て

說くべきことにあらず、之を知るには、其事實を穿鑿するより、外に手段あるべからず、其手段は、如何と云ふに、スタチスチックの方法に依るにあらざれば、知ること能はず、幸に余曾て、太政大臣三條實美公の命を奉じて、山梨縣甲斐國の現在人別調を爲したり、下の表は即ち其奉命の成果にして、今日家と眷屬とに就て聊か說明するの便を得たり、然れども山梨縣人が向後五年目、或は十年目に其調を施行すべき筈なるに、不景氣の變動等に遭ひ中止せしかば、其材料の欠乏少からずして、委しく說明すること能はざるは遺憾なり、

人生は日夜間斷なく變動して止む時なし、止めば死物なり、先づ此第一表を御覽あるべし、表中に揭げたる箇條と、數字を見て諸君は如何に感じ玉ふぞ、同樣の箇條、同樣の數字が、單に並列するのみにして、猶ほ此ヲッチが止て動かぬが如く、何の妙味もなし、死物同樣なり、然れども篤と熟考すれば、人生活動の機、自ら其中に在るを覺ふ、余の說明は此位にして、其餘は諸君の判斷に任すべきものなれども、時を費す恐れあれば余先づ其箇條を說明して參考に供せん、但し世間往々事實なる數字の行列を見るのみにて、其調の方法如何んを問はずして、事自己の論意に適せりとて直ちに取て以て判斷を下す者なきにしもあらず、數字は其方法宜しきを得ざれば、事實を誤ること多し、是の如きの不法式のものを以て、自己の議論を堅固にせんと欲せば、却て己れを欺き大なる誤謬に陷るべし、愼まざる可からず、此の表中の箇條と數字即ち事實はスタチスチックの方法に依て、器械の如くに組立てあれば、何人も吟味することを得べし、若し余の解釋に疑ひあらば、自ら取て調査すべし、疑は散じて事實は分明なるべし、本書は當院幷東京圖書館等に備あれば、就て看らるべし、第一表より說明せん、

甲斐國現在人別調　明治十二年十二月三十一日

甲斐國……郡					
村町	三六九	二八四			
總人員	三九、七四一、六	男	一九、七六六、三	男女比例	一〇〇・
		女	一九、九七五、三		一〇一・〇五
住地に居る者	三九、三三五、五	男	一九、四九六、四	住地に居る者他國に居る者行方知れざる者比例	一〇〇・
		女	一九、八三九、一		〇・七五
他國に居る者	一三六九	男	七八一		
		女	五八八		
行方知れざる者	一五九四	男	一二九六		
		女	二九八		
他國より入寄留	一〇九八	男	六二二	他國に居る者行方知れざる者他國より入寄留比例	一〇〇・
		女	四七六		三七・〇五

一は、甲斐國總人員にして、其中男の數と女の數に差あること明かなり、
二は、住地に居るもの〻人數如斯、而して男の數は女の數より少し、
三は、他國に居るもの〻人數にて、男の數多く女の數少し、
四は、行方知れざるもの〻人數にして、男は尤も多く女は尤も少し、

當院雜誌第十編之一を參看あるべし

五は、他國より入寄留にして、是亦男は多く女は少し、

右の如く、箇條と數字を其儘並べては、混雜して考ふべからず、之に百分比例を用ふれば、忽ち其多寡と善惡とを判斷し得べし、

此男女人員の比例は、男に對して女多し、其多寡あるは何の理なりや、此一例にては未だ知るべからず、然れども男子の働きは總じて危險の業を執るものなれば自然其生命を失ふ者、壽命の長からざる者、女より多からん、若し男子の働き微弱なれば之に反す、

次は同國人中、住地に居る者に對して、他に去りたるもの〻比例なり、之によれば國人の減少左迄のことは無しと觀て宜しからん、

又次の比例は、同國人の去りたる不足を他國より入て、其三分の一强を補充して、其三分の二弱の減少を示したり、

凡そ物は日に生滅變化の理を免かれざれば、其後の變動は如何なりしや、十年を過ぎ去りし今日之れを推知すべからず、

第二表

			比例
住家總數	七、八五一五	持地持家	一〇〇・
持地持家	六、九〇三九（男） 六、六八三八（女）	借家持家 持地借家	三一・五二
借地持家	二〇六四（男） 二〇二〇一（女）	借地借家	一〇・一九
持家借地	三七二（男） 一九一二（女）		
借地借家	七〇四〇（男） 一五二二（女）		
			三三九 三三三
			六四五一 五八九

現在住居の人員と住家數とを比例すれば、其平均は左の如し、

但し寺住居の僧侶、船住居のもの、學校に住する教員、貸坐敷に住居する家族、男女合せて、二千三百三十六人と、其住家とは之を除く、

一家に付　四・九九

家と眷屬とに就てスタチスチックの解釋

一は、住家總數にして、其數如斯、次は其内譯なり
二は、持地持家、同じく
三は、借地持家、同じく
四は、持地借家、同じく
五は、借地借家、同じく

何れも家數は下に記するが如し、其中持地借家は變則なるべし、總じて持地持家に對して、借地借家は更に少く、借地持家は多くなるを、社會の秩序なりと思ふ、此比例は之に反せり、借地借家は大抵貧窮なるもの、多からん、貧窮無産のものは動き易し、動き易きもの多きときは社會の基礎弱し、「コンミュニスト」「ソシヤリスト」「ニヒリスト」「カルボナリスト」等の激論は、少しく道理なきに非ざるも、畢竟する所、貧窮無産者の多きより起れり、此表中借地借家の一軒にして、持地持家の十軒に當れば、社會の基礎も弱きに非ざるべし、之に反して持地持家は漸く減じ、借地持家も減じて、借地借家のみ增加すれば、縱令外見は憂なきが如きも、病已に骨髓に入るを察し、後日何かの變動あるを前徵すべし、東京區内も箇樣なる調は現に必要を感ずべし、勿論全國の調は不用なりと云ふにあらず極めて必要なり、先づ余の見る所如レ此、

右住家のことに就ては、或は人の其調を疑ふものなきに非ざるべけれども、此表の下に說明あるが如く、寺住居の僧侶、船住居のもの、學校に住する教員、貸坐敷に住するものゝ眷屬男女、其他縣廳、警察署、仝派出所、裁判所、製作場等は、勿論省きたるものなり、而して總住家と家族との比例は平均一家に付四人九分九厘なり、(爰に家族を眷屬と改めざる所以は、我邦にては一家の内に他人の同居する風習ありて、必ずしも眷屬と定め難きことあればなり)

右に述べたる如く、一家に付四人九分九厘は、甲斐國全體の家と家族との平均なり、郡によりて其數同じきものあり、異なるものあり、一樣ならず、其少なきものは、西山梨郡甲府のある處にして、平均一家四人二分八厘、其多きものは北都留郡、所謂郡内にして、平均一家五人二分四厘なり、此郡内は、家々織物業の盛なる處なれば、自ら一家族の數も多き譯ならん、

諺あり、佛蘭西にては夫婦に兒二人と云ひ、我が國にては夫婦に兒三人と云ふ、此諺の民間に流傳せしは何んぞ原因あることならん、或は淫風の熾んなる時代ありて、父母の慈愛の心衰へしに因りしや、或は苛政聚斂の時代に遇ひ、父母が家を有ち多くの子女を養ふの勞に堪へざるより、起りしや未だ之を究むるの遑まあらざれども、古來よ

り、民間に實際に行はれしことゝ見え、今に至て佛蘭西の都會外は、一家平均四人に當ること年久し、此平均は邦の基礎たるに於て、甚だ危弱なり、特に羅馬人種と獨逸人種との盛衰の係る所なれば、佛國にて憂國の學者は大に之を苦慮し、百方挽回を計ると云ふ、甲斐國にては、五人に足らず、我が全國は如何なりしや、舊習の弊隱微にして幾百年の後、一齎の結果の此きものを見るに至る、眞に恐るべし、

第三表

右住家の內一人暮の者と家族暮の者とを區別すれば左の如し

	一人暮 男	一人暮 女	一人暮 ♂	家族暮 男	家族暮 女	家族暮 ♂	♀
西山梨郡	五三六	一九一	七二七	七一二六	三三〇	七四五六	八一八三
東山梨郡	三三七	一〇五	四四二	八五二五	二七一	八七九六	九二三八
東八代郡	二〇五	八〇	二八五	七七二三	二七六	七九九九	八二八四
西八代郡	一五四	五九	二一三	六三七四	一八八	六五六二	六七七五
南巨摩郡	一八七	四七	二三四	七七三七	一九八	七九三五	八一六九
中巨摩郡	二五四	五一	三〇五	一、一二二二	三〇二	一、一五二四	一、一八二九
北巨摩郡	三六三	八三	四四六	一、〇九〇六	二四一	一、一一四七	一、一五九三
南都留郡	二五九	九一	三五〇	七四二三	二七七	七七〇〇	八〇五〇
北都留郡	一五八	五六	二一四	六〇五一	一二九	六一八〇	六三九四
♂	二四五三	七六三	三二一六	七、三〇八七	二二一二	七、五二九九	七、八五一五

此表にある如くに、戶主にして一人暮しの男あり女ありて、男は多く女は少なし、又戶主の男女にして家族暮しのものも、男は多く女は少なし、其一人暮しの、男戶主と女戶主、家族暮しの男戶主と女戶主、又一人暮しの男女戶主と、家族暮しの男女戶主との比例は左の如し、

一人暮しの男　一人暮しの女
一〇〇　三一・一〇

家族暮しの男　家族暮しの女
一〇〇　三・〇二

家族暮しの男女　一人暮しの男女
一〇〇　四・二七

戶主にして一人暮しの家は危し、家族暮しの家は堅し、此比例中其危きものは尤も少

家と眷屬とに就てスタチスチックの解釋

なくして、其堅きものは尤も多し、且つ其一人暮しの戸主にして、女より男の多きは、當時徴兵の故もあらんと疑ふ、今は其比例如何になりしや知るに由なし、

此表を見れば、戸主の婦人多くあり、其多き中には家産に富み、多額の租税を出す、婦人もあるべし、若し婦人にあらざれば、財産上公民の資格を有し、撰擧者たり被撰擧者たるは勿論のことならん、此の如き婦人に就ては、後日必ず大に議論を生じ、其權利を爭ふのとき來るべし、

家と眷屬との關係に就ては、種々説明すべきこと多し、今其要を摘で言へば家は他の私有物と異なるものにして、我々の住處なり我々の出生の場處なり、家の持手は夫なり家政の持手は妻なり、我々の家に生れたる子女の成長して人と爲り修身の義、德教の道、學藝の科を修めて、自己の生活を爲し、自己の健康を有ち、又之を他人に及ぼし、人たるの目的を達し、共に人生の快樂を爲さしむるは、父母の務めの致す所なり、一家にして、父母子女相互に生活して、共に努めて共に樂しむものを、眷屬と稱す、眷屬和して家齊ふ、是れ文明社會の基礎たる所以なり、

時既に移れり、今日の講義は爰に止めん、

◉社員諸君に望む

明治二十二年三月二日スタチスチック社例會講演

スタチスチックは事實より道理を知る學科なれば努めて依法式の事實に據りて研究せざるべからず若し夫れスタチスチックにして其事實曖昧なる時は社會百般の事柄を論ずるに方り其是非得失を顚倒し臆斷に陷ゐり大害を釀すものなれば寧ろスタチスチックなきに如かず昔時文化未開の世に在りては事實經驗の一事は棄てゝ顧みざりしが今や此の一事は必要欠くべからざることはなれり是れ誠に當然の事にて例之ばバストールの事實穿鑿の如くフランクリンの電氣實驗の如き皆事物に就て種々の穿鑿經驗を經て遂に其原則の動かすべからざることを發明したるが如し爾來今日に至るまで西洋に於ても東洋に於ても敢て一人も其説を非難するものなし是れ何故ぞや理學の所謂原則なるものは我がスタチスチックの如く一々實地の經驗したるものに據りて得たるの故にあらずや夫の事實經驗の一事は夫れ此の如く必要なり殊に人員の如き縱ひ年々の增加幾許と唱ふるとも出生と常に親密の關係ある死亡とを詳細に對觀したる後ちならでは其增減消長の道理を談ずべからず然るに今日或が邦にて人員を調査するを聞くに昨年は幾許なれば今年は大凡幾許の增加ならんと推測の計數を書き上ぐるゆへ其數に相違多しとの説なり是は左も

あるべき譯にて此の多數なる人員を爭かで斯く容易に調査し得べけんや抑も人員の增加は前に述べたる如く出生と死亡とは親密なる關係を有し出生最も多ければ死亡も亦從て多し是れ天法の然らしむる所にして大に國人の存亡に係はる事なり國家の大計を圖るものは注意せざるべからず

貧富隔懸の弊は目下歐米諸國に行はれ資本の大なるものは益々其大を極め小なるものは益々其小に陷ゐり其有樣は恰も磁石の鐵屑を吸引するに異ならず是れ甚だ國の爲め賀すべき事にあらず我が邦に於ても亦早晩此の傾向の時來るべし今や文明多事の勢例之ば大製作は小製作を兼併し大農は小農を併呑し多數の人は生計の道に窮し心を勞し體を苦しめ自然壽命の短折を促がすものあらん去れば文明は人を殺すものなりとの說あるも强ち謂はれなきにあらず之によりても我が邦人員の增減消長の次第を見るの一事は目下の一大急務なるべし

人生社會には右の如く種々樣々なる關係より種々樣々なる事柄の生ずるものなれば迚も各科分立の學科にては其原因を知ること難し去るを以て歐米諸國にては何人もスタチスチックを以て之が原因を知る事の必要を感じたり政治上に於て殊に然りとす其他商業、工業等の事に至りても皆スタチスチックの事實に就て其利害得失を判然ならしめざるべからず敎育の事も亦スタチスチックに據らざれば其利害得失分明ならず夫の多數の父母が丹誠を凝らして養育する兒女を敎育するに元來人間は生れて何歲に幾許の智慧を生じ何歲に至れば幾許の記憶力を生じ又何歲に至れば幾許の體力を增すものなりや只僅かにケトレーの實驗あるのみ尤も現今大概何れの國に於ても六歲より十四歲までを就學年齡と爲せども六歲より始めては實際少しく早きに過ぐるや未だ知るべからず餘りに幼稚のものを嚴しく敎育する時は反つて心身の發達を害するものなり若し此れ等の點に着目せず濫りに敎育を施す時は學生又は學齡兒の死亡多く增加するやも計り難し國の文明を進めんと欲して反つて文明に背くものなり去れば此れ等の問題を決定するに必らずスタチスチックに據らざるべからず

右の外種々なる中に例之ば我が邦外國貿易品中第一等とも稱すべき生糸を製するに自今器械製盛んに行はれば手製のものは如何に成り行くや又其働く力に如何なる差異ありや又得業せしもの失業せしもの幾許なりや男子と女子との働く力は幾許の相違ありや一人一日の勞働は昔時に勝ぐるしも壽命の上に至りては如何是れ等諸問題は如何なる雄辯家にても決して之を即決すること能はず必らずやスタチ

スチックの事實に根據せざるべからず去れば我がスタチスチック社々友は申すに及ばず政府に於ても亦大に力を盡くして此の學術の隆盛と擴張とを圖らざるべからず學科の開けは即ち國家の光明なり陸海軍の兵卒軍器のみ豈に獨り國家の光明ならんや故に農工商業より政治文藝風俗等に至るまで悉く改良進歩を圖り我邦をして他より畏敬せしむるの覺悟あるは勿論なり今日御來會の諸君は自今一層の熱心を以て此の必要なるスタチスチックの隆盛と擴張とを圖られたし吾輩も及ばずながら益々盡力すべし就ては新聞雜誌等に研究の種と爲るべきものありし時は何卒此席へ持參して相互に研究されたし是は本社の義務なり又諸君の義務なり

◎國家學攻究せざるべからず

明治二十二年五月五日
靜岡國家學會發會講演

此間中から多忙で善く纒めることは出來ぬが色々の反古を持ち出しました皆さん本日は靜岡縣國家學會の開會に當り東京からは和田垣穗積の二學士が參いられまして大慶に存じます私も其驥尾に就て出席致しました私が今日參りたるは國家學のこと斗りでなく諸君の中には御承知の御方もあろーと思ひますが其は丁度二十年あとのことであります私が靜岡に參り國家に關係したる第一の事を取調べたことがある其時分は靜岡の町は九十六ヶ町あつた其を殘らず調べた其調べ方は日本開闢以來初めてのことである即ちスタチスチック人員調のことで御座りますこー云ふことを始めたるは靜岡が始めで緣故があります其頃色々町役を務めて居つた方々の御周旋で餘程本が出來て居る筈である堂か入用であるから反古にせない樣にして貰ひたいと嚴重に申して置きましたが一向其後の模樣も分解りませんそー云ふ緣故でスタチスチックのことを此國家學會で申述ますスタチスチックは世間で統計學と申します統計と云ふ文字は學問の上では妙な名を附けたものである佛者の云ふ菩薩は矢張菩薩でなければならん樣なもので之を譯すると其意味が盡せませぬ併し原語のスタチスチックと云ふは俗に統計と云ふて通つて居るから先づ統計と云ふ名を以て御話し申ます

今は私も二十年あとの私でない餘程年を取りまして氣力もひどく衰へ元氣が無くなり目は半分つぶれかゝつて甚だ憐氣な身躰に爲つたが右申す緣故もあり時勢も時勢である時は止むを得ん仍てつい出席致しました演說中には耳新らしきこともあり又陳腐の說もあろうと思ひますが一つには私より諸君に望んで置きたきこともある私の話は少し混雜して居る社會のことは混雜したものである併し此世の中

には法がある其法を知らずに漫りに造ることは極く惡ひ其故に色々のものが違つて來る法のことは法によらねばならぬ而かして色々の說話の中には混雜が生じますから堂か御不審があれば御遠慮なく承はりましやう其思召で御聞き下さい

初め物は簡單である國家と云ふ其字から見ると譯ない樣であるが善く考へて見ると餘程六箇敷きものである人と云へば世界萬國の人を云ふ一語で分解る即ち動物の內獸類に非るものを人と云ふとは世界萬國の人を盡した語である又國と云ふと海でないことが分解る物皆最初はそんなもので極く簡單なものなれども偖國人となるときは世界の人の中で其國に住まつて居る人と云ふことになります箇樣に餘程狹まく爲つて來る國家と云ふものもそー云ふものである國家學と云へば國家の立方に就ての學問と云ふことであろーかと思ひます其れでは趣意が違ふか知らんが私は其積りで國家と云ふものゝ立て方を御話し申します國家のことを話すには色々のことがある私は國家學のことは不案內のことであるから間違つて居ることもあろうが國家の目的は喩へば航海をするに橫濱から神戶に行くとか上海に行くとか云ふ目的がなければならん國家は其國の人と人と一つの社會を爲して居る日本は日本人と社會を爲して居る一とかたまり三千八百萬の社會を爲して居る其社會を爲したる國人の目的は如何ん國法と云ふものがなければならぬ國を成し人の居る以上は外寇あれば是を防ぐと云ふ國法を立てねばならぬ昔の杓子定規の國法でも內にも刑法民法と云ふ類のものがある外には攘夷と云ふやかましきものが有た國人を治むる國法は性法性法は人の上に立つて居るものである天然自然の法則である誰でも尤もで御座ると承知すべきものであつて確かなものじや性法に據て國法が出來る性法は天理に從つたものである又國法は入り用ではあるが國法斗りあつても亦いけない一軒の家を持つには色々の入用がある箪笥永持も入る鍋釜竈其れから米も味噌も入るやうなものじや

故に國家學には建國の歷史と云ふものが入り用である日本なら日本は堂云ふ譯で出來たと云ふ建國の歷史を知らねばならぬ其から社會學と云ふものがある此一部が國家に入用である其から國家に關する經濟學是は社會學と同じく其大體は國に拘はらず大きなものじやが其一部分が入用である其から前に申した國家に關するスタチスチック是もそーだ人間の上のことを說くから大きなもので國に關せず一般の人を指したるものである然しながら其一部を限ぎつて入用のことがある大略斯の如きもので國家を組織するのじや只國家と云ふ二字で國家の實體を知ることは

出來ない色々のものが集まつて始めて出來たものじや即ち一軒の家には天井、柱其他の諸道具が備はりて始めて人の住居する家と云ふことが出來る樣なものである

國家の道具にて重なるものは國法である人は法令規則に據て人たるの働を爲すことが出來る段々世が開けると人は法の爲に活きて居ると云ふことになる其法は其人々の本性に屬するを以て犯してはならぬに據て能く運動することが出來て來る昔は闕所とか沒取とか云ふものがあつた是は法の進化せざるときで今の世にはそんな事は無い又昔は罪三族に及ぶとか九族とか云ふことがあつたが今は罪は一人に歸することに爲つた

偖立法、行政と云ふものも分れて來ましやう行政學是亦一つの學問で其中に會計、歳入、歳出と云ふ事がある是れ等は國人の經濟などを監督するため政府が入用である人は慾の强きものじやから色々の欺きを起し善い人の營業を妨げることがある故に其時分は政府が監督せねばならぬ保護せねばならぬ人の運動を妨げてはならぬから是を防ぐため司法や警察がなければならぬ又海陸軍が入り用で海軍には海軍の學問あり陸軍には陸軍の學問があります諸方に砲臺を築き防海の備を爲さねばならぬ土地に關することは法律あり無暗に人の地面を取ることは出來ないように並べ立ると際限無く色々面倒であります

經濟學には一人一己に欠く可らざることがある即ち衣、食、住の三者が必要である此三者は肉體を保養するに必要なもので此外に又精神の保養に必用の物もある私抔は他人が入らないものを注文して遠く西洋から取寄て日間を掛て調て見ると誠に面白い是は精神の養生である本を見て餓を凌ぐ譯でもなく暖な譯でも無いが精神上の愉快である其には只では取れない錢が入る手數が掛る讀で仕舞ふて未だ足らないと其先をほしくなる衣類にせよ食物にせよ學術上にせよ皆な足つた者はない金持の人が己はもし是でいゝと云ふことが無い樣なものじや爰に經濟の大道がある學問が溜つたら人に授くるがよろしい金が貯たら活用するが宜しい只貯めた斗りではいけない如何となれば之を貯ふるは用ある故なり國人の手より己れの手に集めたる財寶じやが集めて用ひねば死物になる流通させねば經濟の大道に適ふものと云ふ事は出來ませんさて學問上から云ふと法があるから自由がある譯ではなく自由があるから法もある譯だ又「勝手が自由の範圍を犯す」と云ふ言がある世間の人は兎角自由と勝手と取違へて居るものがある故に成丈け自由の中に勝手が這入らぬ樣にせねばならぬ又法があれば順序がある順序がなければ法は無い狂人や畜

生には此順序がない

次に政術是は政畧を云ふに非ず政事を施す術を云ふ色々の藝術に上手、下手のある樣なるものなり政術は誰某と云ふ人の名で出來るものにあらず大體の輩は人の名で驚く人の名で驚いてはならぬ事を爲す上に就て其術の巧拙を見ねばならぬ人はどんな面でも術が拙なれば其人も拙である術がよければ其人は巧者である人は默まつて居つては分明らない此の寺の佛樣には金箔を着て活きた樣にするが人間に金箔を着けた處が有難くない人種論を爲すに非れば人の顏は堂でも人は働らく上を貴ぶさて其政術を施すは何の爲にするかと云ふに日本國人の子々孫々の生々活動して行くに妨ないやうにすると云ふことを心掛ねばならぬ將來を慮らねばならぬ即ち一國の上から達觀して御同樣に生きて居るが此日本人はどの位增殖て來るかと云ふことです若し減るならば前途の望はない過去の事は仕方がないから是から先の世の事を慮らねばならぬ一昨年學士會院で我國人の殖へることを說たことがある毎年三十六萬二千餘人づゝ增殖へてくるそこでどの位になれば倍になるかと積つて見るに今から百四年の先になると三千八百萬の倍に爲るかく人員は增加するも土地を增殖することは出來ぬ富士の山を以て伊豆の海を埋めた處が知れたるものである之を堂かする策を廻らさねばならぬ內に斗り退つこんで居ると米が無くなり始舞には喧嘩を始め修羅場を演ずることになるより外は無い優勝劣敗で無茶苦茶のことが起るして見ると先のことを考へねばならぬ是れ政術の上である又先を計つて貰はねば皆困る私なぞが學術の上から講ずると確實である近くて一爲るぞと云ふことなる程と云ふことが分解る

其から社會學と云ふものは色々調べたが詳しいことは知らぬが日本は立官政で社會を爲して居る處が性法の理道に據て尤もなとと思はれます土地や財產を平均して行くとか云ふ社會說や「コンミニユスム」是は社會の上で政治には關まはぬ社會學は人間を善くせよーとするものである人間は不滿足勝のものであるから是から平均に滿足せよーとするのである諸君は今日の社會にて滿足して居るか不滿足なるか滿足した人なら私なぞの演說を聞に來る必要はない人間は其でも足らぬ是でも足らぬと云つて色々不滿足だから是を研究する學科が起りつまり無政府になると大變である日本は立官政の下に社會を爲して居る其事は其々學者が御說になりましやう此スタチスチックをなぜ國法の中に入れなければならぬと云ふに過去現在の人の有樣を知つて居らねばならぬ近く云ふと維新前日本人は幾何居つたか女は幾

何男は幾何と云ふ事を調べ又死んで行く人は幾歳の人が多いとか男は堂なつて行くか壽命は堂だ短いか長いか外國と比較べて堂だと云ふことを知らねばならぬ日本人は此位の法を施しても耐へるか堂だかと云ふ事を研究せねばならぬ經濟の事、貿易の事は堂であろう靜岡の茶は明治元年にどの位出たか開港前は三萬兩と聞ひた其後は八十萬兩も出ると云ふが當時は堂なつたか段々增加すればどの位金が貯まつたか丁度農商務省で遣る樣な者じや大な農作は善いとか惡いとか云ふ論じやが安いもうちつと米を高くしよー身代限の多い場合は政府が能く注意せねばならぬ日本の銘產製茶絹糸を造る力は女の力が多いか男の力か多いかと云ふことも調べねばならぬ堂でしよー堂も男の力は女に負はしないかと思ふ伊太利なぞは一體男が柔弱だから何時でも男の數が女より多く日本は矢張そーじや今日の働を見てもそーじやないかと思ふ又犯罪人はどの位あるとか懲役場を構造へて犯罪人は是丈け這入つて減つたとか增したとか云ふ事を調べ猶進で再犯三犯四犯となれば罪惡が强くなる英吉利人は佛蘭西人より犯罪の力が少ない日本は是に比較して堂だか只罪を言渡す斗ではいかぬ是皆スタチスチックに關係するものである凡てこー云ふもので人間社會と云ふものは私の友人加藤弘之君が天則を書いた私は是を天法とも云ふ人間世界は天則に從つて自由に働らき自由に行なつて居る自由があれば必ず順序がある順序がなくては叶はぬ順序のなきものは自由でなく能く學問の上で極めたことがある故に其法に背けば惡くなる其に順つて行かねばならぬ又窮屈なものでなく自由に働くものじや惡事をした者は自由に働らかない耶蘇敎では暗黑と云ふ惡い事をするものは白晝には出來ぬ是は天法じやして見ると人間の力の及ばぬ法則がある箇樣に動ごいて居る此法則に據て動く處のものは强き國である處がもと國は生物じや石ではない是非病が起る無事に死ぬものはない皆病氣に罹つて死ぬ其病氣と云ふものは一家、一町村、一鄕、一縣或は全國に涉りで其病を感じて居るだからそー云ふ病を國家病と附けました國家だから國家病が起る誠に是を研究せねばならぬ事と思ふです是を研究し病根を治すれば健固に爲る信義を立て勉强をして互に快樂を爲すことが出來る私は此病狀を察するを以て己れの任と致します其病を見て直に療治を行つたら健康になろうと思ふ物は正面から見た斗りではいかぬ醫者の脈狀を診察して其病氣の經過を問ひ藥劑を盛る如くせねばならぬ

◉靜岡國家學會に於て

明治二十二年七月講演

一國家學の國家とは國と家との二字なるべし去れば其國とは如何んの義、家とは何んの意味を含むものなりや之れを講究するは此學會の必用なりと思ふなり

一家齊而后國治まると云ふによりて今日の講談は先つ家の事より始むべし家齊ふとあれば其家は何に一つそろはざることなき住居なるべし其住居の人々は智も德も兼ね備はり財産も饒かなるべし一國の士庶人の家皆斯の如くに齊ふときは天下治り齊はざれば天下も亂ると云ふ意か或は堯や舜の如き聖人の夫婦家に居れば天下も治まると云ふ意か甚だ解釋に困むと雖ども家齊ふときは天下も治まる家齊はざるときは天下も治まらざる者なりと云ふことは古人も善く知れり

一古は知らず我々の實社會は想像の社會の如きものにあらず我々の社會には持地持家あり借地持家あり借地借家あり其内には又種々の家あり矮陋にして小屋の如きものあり九尺二間の長屋住居もあり坐敷をしきりて家とするものあり舟を家とするの類あるなり

一家に住む人の類も種々あり家主にして家族暮しの男あり家族暮しの女あり一人暮しの男あり一人暮しの女あるが如し其一人暮しの家は實に危し家族暮しの家は危からずして慥かなり

一家は我々眷族の住處なり我々出生の塲處なり我々の家は他の建物と異なり彼の學校や寺や病院、貧院、製造塲、役所、兵營、懲役塲、貸座敷の如きものにあらず我々の家は親子俱に住み俱に生活し俱に樂み人生の自由を得人生の快樂を得るの生境界なり西より東より我が家より善きものなしと故人もいひけり此の我々の家は文明社會の本なり末にあらず國人の數に對して家を保ち眷族あるもの多きは其國の基礎堅固にして其品位も高く貴し假令又家の數は多しと雖ども矮陋にして小屋の如きもの多くあり眷族の數は多しと雖ども家なきものしあるは其國の基礎脆弱にして其品位も隨て卑く賤し

一凡そ人の生は男と女と此世に生れて年比になれば夫婦となるのみにては尚ほ足らず缺乏のこと多し其住むべき家を需めざるべからず飲食衣服も缺ぐべからず寵も入れば薪炭の日用あり膳椀の類も粗末ながらに一と通りは備へざるべからず家を有つの費是の如し其費は天より落ち來るにあらず地より湧き出づるにもあらざれば勞心勞力の二業によりて日に稼ぎ日に勞して其償を得て之れを購はざるべからざるものなり是れ尋常一般の人の務むる所にして非常の利を得非常

の僥倖を獲るものは例外とす今其收入の目を云へば賃錢又は田畑の上高、公債證書、諸株券、商賣の利益等にして數件に過ぎざれば其調も容易なるべけれども常費の目に至りては數多くして其類別の次第等容易ならずと思ふが故に畧々其箇條を左に申述ぶべし諸君がよく之れに注意せば其益する所甚だ少なからざるべし

第一　生養の費則ち食と飲なり

一　穀物則ち白米、搗麥の類
二　小麥粉、蕎麥粉、其他糯類
三　芋類
四　乾物類
五　野菜(大根、菜の類)
六　鮮肉及鹽肉の類
七　鳥肉及鷄卵の類
八　鮮魚、干魚、鹽魚の類
九　鹽
十　味噌、揚油の類
十一　醬油、酢の類
十二　香味(胡麻、芥子、薑、山葵、燒鹽の類)
十三　嗜好物(茶、砂糖、味林、菓子、菓物の類)
十四　飲物
　　水及氷
　　清酒及濁酒
　　燒酎及各種酒精
　　麥酒
十五　其他飲物の雜費
十六　園圃を有するものは其培養及手間賃等

第二　身裝の費

一　各種の虜衣
二　夫の衣服妻の衣服小兒の衣服
三　股引足袋の類
四　手袋の類

五　帽及頭巾の類
六　髮の飾(櫛釵半掛の類)
七　傘及蝙蝠傘の類
八　旅衣、雨具の類
九　其他身裝種々の費

第三　住家の費
一　家賃及地代
二　夜具、蒲團、蚊帳
三　坐敷道具、居間道具、臺所道具
四　敷物類
五　洒掃費
六　修繕費
七　其他住家の費

第四　温暖及光明に必用の費
一　居間、臺所及浴室等に用ゆる薪炭

二　光明器及光料(行燈、提燈、洋燈、燭臺、燈籠、油、石油、蠟燭ノ類)
三　瓦斯燈
四　電氣燈
五　其他温暖光明の費

第五　衛生の費
一　水道、下水等
二　身體清潔法
三　醫師の謝儀
四　看護料
五　種々の藥料
六　藥湯
七　病に係るものゝ助成
八　其他衛生に係る種々の費

第六、智惠の養、家庭教育、學校教育、智識交換の費
一　學校費及學校外の修行料

二　小兒教育等の貯金
三　書籍新聞紙及學術雜誌音樂費の類
四　學會及藝術會の助成
五　學校稅
六　其他右の類の費

第七　靈魂安養神佛信心の費
一　說教及讀經
二　神社祭禮佛事供養
三　墓所及埋葬
四　其他社及寺に係る諸費

第八　外防及內安の費
一　國稅府縣稅市町村稅
二　登記及裁判等
三　地所家屋田畑山林保護等
四　其他右等に係る費

第九　豫備用心の出費
一　生命保險料
二　火災保險料
三　養老及孀孤保險料
四　節儉預け金等貯金の類
五　其他右に類する出金

第十　罄散遊獵娛樂旅行等の費
一　烟草及香の類
二　富閥其他遊事
三　劇場及能等の類
四　遊藝
五　右等會社の助成
六　祝事
七　遊覽及保養の爲めの旅行等並に遊獵
八　遊樂の爲に用ゆる庭園及諸器具其他園丁の給料等

九　其他右等の事に係る諸費

第十一　家事手傳費

一　男雇人の給料心附等の費

二　女雇人の給料心附等の費

三　臨時雇人の費

四　其他の出費

第十二　交通及臨時の費

一　郵便端書書狀小荷物等

二　人力車馬車汽車及船等の入費

三　慈善施與等の費

四　他の子供及緣者等の助成

五　其他臨時の費

一先づ十二箇條の大別を說き次ぎに其の大別中一條每に小條數十を述べ終りたり其の小條の如きは人に因りて異なるものなれば自ら調査して自ら知るを要すなり

一我國や支那にては斯の如きものありしや否や余は見聞狹ければ知らず西洋の學者が深く人生社會のことを講究するより遂に家事經濟の收入と消費との大目小目を類別せり右消費の大目十二箇條の外小目八十餘種あり之れを作りしは今より三十五年前のことなり世が開くるに從て社會が學者の注意を促し之をして夙夜に人生社會の爲に思考を費さしむるは莫大のことなり隨て其利益も莫大のことなり此箇條も其思考の一小結果にして事小なりと雖ども一家にして之れを活用すれば一家を益し一家一村一郡一縣一國に及ばゞ實に其益する所大なるべし世間には往々高慢の人あり自ら考へ出すことはかなはで是れ式のことは何のこともなく誰にても作り得べし大層に說くに及ばずと放言するもあらんなれども廣く種々の學科に渡り深く社會のことに通せざれば是れ式のことをも作り出ずことは出來ぬものと云ふことを自ら知らざるべからず

一靜岡縣も管內廣し家主數十萬に及ぶべし我國開進の變遷に際會し舊物去て新樣興るの時節なれば人情の常として新を好み時風に趨るより或時は狡猾詐僞の手段にかゝり出すものは多く入るものは少くなり既にして家產の傾くに及で守らんと欲して守ること能はず富まんと欲して富むこと能はざれば家を亡ぼし子孫

を無智文盲の境に陷れ他人の財産に損害を及ぼし又之れを苦むる等のことあるべし此等はなきや前會に述べたるが如く是等は國家病中の家病なるべし家病多きは、國の進歩に大障害あるは勿論のことなれば家主たる人は右の箇條に注意して家政を執らば禍を未萌に防ぐの功なきにあらざるべし廣く之れを此地方に行ふ工夫はなきものなりや會員諸君の思慮を煩すなり

一今や市町村自治の制も始まりたり一新事興れば一新規則出づ費用之に隨て生ずるは當然のことなり市會町村會は家治に必用なる夥多なる消費の箇條あることを知り能く之れに心を用ゐて家主の負擔に重きを加へざる樣に務むべきことなるべし又明年は帝國議會も創まるべし帝國議會は我が日本人の心術技倆を始めて世界萬國に披露し普く世界の評判にかゝるべし是れ我が國未曾有の大事なり又聞く道路の說に內地雜居も近きにありと是れ天下普通の道理にして實に我が國運の進歩を喜ぶべきなり唯之れ口舌に喜ぶのみならず躬自ら國事を負擔すべきの責任之れに添ふなり其責任を負ふものは誰ぞや余は思ふ今の公民たる家主後の公民となり家主となるべき人なるべし家主は國の中心に位する者にして我々家主の勢力は我が日本國の勢力を示す者なれども幾百萬の家主の內には名は家の主たりといへども實は他の厄介となるもの又他に損害を加ふるもの幾十萬なるを知らず是の如きものを除き去らば眞の家主たる人は意外に少數ならん是れ等眞の家主は實に國事に大なる關係あり大なる責任あれば之れを逃かれんと欲して逃るゝこと能はざるなり殊に內外の事情を觀れば其責任は益々多く益々重きを加ふべし

一抑も家は國の本なり物質の分子にあらず智德の分子なり其分子の集合一致の力堅固なれば國も亦堅固なり故に之れを堅固にせんと欲せば智德を養ふべし智德を養はんと欲せば家を重ずべし家を重んせんと欲せば家の經濟を齊ふべし家の經濟を齊へんと欲せば先づ其家の消費の箇條より始むべし前會に述べたるが如く政術は仔細に之れを吟味して家主の勢力を振起するの妙策を運らすべければ我々は學科に據り家を以て社會の原素となし聊か說を附して諸君に問ふ

◎社會の事實は方法によらざれば知るべからず

明治二十二年九月東京學士會院講演

社會の事實は方法によらざれば知るべからず

今日私の述ぶることは社會の事實は方法によらざれば知るべからずと云ふことであるが議論などと違ひ至ッて不活潑な演說でありますが併し御同樣の斯うやッて居る社會と云ふものは毎日見たり聞たりする通り又新聞紙で御覽なさる通り實に混雜したものでありますが其混雜したものを見ると社會がどういふ工合になッて居るものか分ッて居りませぬが其れを分るやうにして我々社會の幸福を得るやうにしなければならぬ其れを分るやうにするには書物の上の議論ではむづかしいから方法を以て事實を知ッて行かうといふのであります故に國事を論ずるのでも方法を以て事實を知り事實によりてすることは必要のことゝ思ひますので其譯を申述べますから其積りで御聽き下さるやうに致したい

今申します通り社會のことを一見すると混雜したもので新聞紙で見ても日々に斯ういふことが起ッたとかどういふことがあッたとか云ふやうに混亂して居ります私などの所へ話しに參る人の中でも社會はどうなるものであらうかと心配して話す人もありますが外でもさうでありませう併し能く考へて見ますと決して混亂したもので無いと云ふことが分ッて居ります併し其れを混亂したもので無いと云ふのは其事に就て調べる方法が整ッた上で分ります御同樣に種々の業を起し色々な事をやッて居るのは法則といふものがあッて其れが運動して行くので順序も有るので決してむやみになッて行くものでは有りませぬ其法則の有ることゝいふものは人間の全體の上に大きな法則があり其れによッて社會が種々樣々になッて行くのであります今一例を擧げますが誠に平易なことで誰にも分ッたことであります

が先づ男と女と云ふものが世の中にあります處ういふ譯で其れがあるかといふと至ッてむづかしいことである大切なことである併し天から落ちたものでも無く地から湧いたのでも無く木の股から生れたのでも無く母の腹から出たのであるが其腹から出た數即ち男女の生れた數の割合が整ッて居ッて規則になる位まで分つて來て居ります其れのみならず出生と死亡との比例が能く分ッて居ります箇樣に揃ッて行きますが誰が其れを揃へて行くかと云ふに誰も作ッたと云ふ人もなし又誰も其れを爲したと云ふ人も有りますまい

また婚姻の數も其通りに見ゆるが婚姻といふものは年の豐凶によッて變則を起して行くもので日本なら作物でも澤山出來て人々の工面の宜い時には婚姻が多いし又不作饑饉にでもなると婚姻が少ない樣の事がありますし又罪を犯す者は我儘勝手の働きを爲す樣だが其數は豫算が出來る樣に揃ふまた農工商のことでも其通りで

少し餘談に渉るやうでは有りますが分業のことでも自然に出來て居るもので何もアダム、スミスが敎へ出したのでも無いアダム、スミスの前から日本でも分業が行はれて居る例へば提灯を作るにも竹を切りヒゴを拵へ張り繪をかくも分業の仕方また針を拵へるものでも其通りで何でも分業の法が自然に出來て居るのであります また東京あたりでは大工でも左官でも家根屋でも鍛冶屋でもそれ〳〵きまッて居ります維新以來西洋の事が流行して來て色々の工藝製作ものなどが殖えて來ましたがこれも需要供給の道理分業の自然で出來るのであります

この二三年前に西洋の女の服が流行り又束髮が流行りましたが近ごろはちと流行らなくなりました色々になッて商賣人や仕立職などが困るといふことであります が箇樣に人が乘り氣になッたりまた流行に脅される氣味が有ッたりするのはどういふことかと云ふとこれは人作が社會の上に手傳ッて來る社會のちひさい流行病でありますが若し今申した樣に規則だッて順序の整ッて居るものを毀して見ると（秦の始皇の樣な人があッたと假定めて）社會が忽ち紛亂して來ますさうなると本當に眞面目に働いて居る者が僞りの働きを起して來まして正しき業をして居ッた者が爲すべからざることを爲したり賣淫女が殖えたり犯罪人が多くなッたりして色の變ッた奇態の現象が世界に現はれ來る樣になりて社會が亂る併し亂極れば治に復すと云ふやうなもので人間と云ふものは亂をする爲めのものでは無いから必ずまた段々と順序立ッて來るものであります其れを一つ例へて見ますと近い例が有りますが今から二十二年前維新の時に舊社會と云ふものが實に舊く成り亂れて來て總てがしまりがなくなりました其れぢやによッて維新復古といふことになッて來たのでそこで復古の勢といふものは破竹の勢を爲し其勢の烈しかッたことは此間の十一日の暴風よりもひどい位でありました斯の如く破竹の勢で物を破毀するやうな勢を爲したので切らずとも宜い樹木まで切り散すと云ふやうに餘波が及んで來ました其れからして中ごろは其れを修繕するやうな風になッて來ました敎育のことでも他の事業でも其傾きになりましたところが修繕が全く成就せぬ中に段々と社會を整理して行くやうなことになッて來ましたさうして本年の始めに憲法が發布になり帝國議會が來年から開かれることになッたのは誠に結構なことであります私などは以前から佛國の大顚覆の歷史などを見て居ッたから維新の頃これは此の形を爲すわいと思ッて居りましたが腐ッた時代が改まるときにはどうしても維新の時の樣な有樣になるものと見えますが其甚だしくならぬのは我國には有

社會の事實は方法によらざれば知るべからず

難きことがあります其有難きことは今日は陳べませぬがこれには又世界の勢をも承けて來るのであります其證據には鎖國の時なれば帝國議會や鐵道の樣な出來事はありますまい其れなれば世界の勢といふものは風の樣なものかと云ふと大變な法の有るもので其法によッて動くのであります丁度引力があッて地球や天體が動くやうなものであります其れなら其法はどこにあるかと云ふと色々の方法や何かから見ると分ッて來ます其れ故に人間の大法を能く知ッて其れに則ッて善くして行くと國が盛んになり社會の幸福となります其れに遠ざかッて來ると國が衰へ社會の不幸になります故に大法を目當てにして社會を善くして行かなければなりませぬこれは本題の前置きに申したのでありますから是より方法のことを申しましよう

社會と云ふものは一つの現象が現れるには數種の原因より生ずることがあり又數種の現象にして一つの原因より生ずるものが有ります此事は今日の學問をしない人でも能く心得て居ると爲めになることでありましやう一つの原因より數種の現象が現はれて來ると云ふのは例へば饑饉の樣なもので誰でも食へさへすれば變は無い苦は無い樣なものであるが飢ると云ふことが一つの原因になる歐羅巴にも隨分有ることで有ります日本にも有ッたのであるけれども能く穿鑿が屆いて居りませぬ歐羅巴の方では社會のことを能く穿鑿して居るから分ります先年私が「飢の說」を述べたときに委しく申しましたが一つの飢と云ふことから數種の現象が現はれて來るものであります先づ饑饉があると子供の乞食が先きに出て來ます其れから平常無い女の乞食が出て來ますし其れから强い奴はぶちこわしを始めたり放火をしたり何か色々の惡い事をする者が四方八方に起り饑饉が止んで少しは物が出來て來ても當分は止まぬものであります其れから一年もたつと死亡の數が非常に增して來ます斯ういふ樣に一つの飢といふことから種々樣々の現象を起して來ます

其れから一つの現象が或る數種の原因から起ることが有ります例へば家と云ふことは色々の原因から起ることで一人では出來ませぬ先づ父母といふものが出來それから子供があると云ふのが當り前で何か家業をすると云ふことがあるそうして家といふものが出來て來るのであります他のものにも當てゝ見るとさういふことに成ります併し世間に一つの道理を以て色々の說を立てる人があるがさういふのは空理になッてしまいます若し原因がいくつかあッて起ッて來ることもあり其一つの原因からいくつもものごとが起ッて來ることも有るのを構はずに論ずると折角の說が無用になりますから能く注意しなければなりませぬ其れ故に一つの現象が起

社會の事實は方法によらざれば知るべからず

ッて來たら其原因はどういふものか能く尋ねなければなりませぬ又其現象は一時のものであらうか又は續いて來るものであらうか考へなければなりませぬ併しこれを考へるにはどうしても開けた學問の知識によらなければ出來ませぬ其れゆゑにスタチスチックの學問の中に現象を見て原因を探ることがあります事實なしには道理は解けませぬチョッと御話し申しますと指を見ると何れも五本づゝ合せて拾本あるのが人の持前であるのに若し其れが四本あるか六本あれば其れは間違つて居るのであるがどういふ譯で斯ういふことが起ッて來るのかと云ふ樣なことを知るには知識を要し學問を要せぬと分りませぬ東京府で東京の人員を調べたのと警視廳で調べたのとは二十何萬人違ッて居りますが其れは調べる方法によらぬから違ッて居るから平均したら宜からうと言で有りませう其れを譯を知らぬ人が兩方違ッたと云ふことであります

が本當か知れぬものを增減などするのは間違ッた上に足をかけるので尙ほ分らなくしてしまふのであります

さういふことであると人員によッて事をするに大變な間違が起ります國の事は何をするにも國民の多い少ないに據ることとなれば其の人數を委しくせねばなりますまいその方法はいくらも有りますが其の中でこゝに掲げた方法は學理によりて作りたる方法である

が之れを行ふには事實を集めなくてはならぬ事實を間違はぬ樣に集めて類を分けなければならぬ其れから種類に從ッて能く並べなければならぬさうして其れを表に製さなくてはならぬなぜにさういふ鹽梅にしなければならぬかと云ふと書にも書けず寫眞にも撮れず一目して瞭然と分る樣に直に其れに心付く樣にといふものは白い青いものは青い赤いものは赤いとしなければならぬさうすると其道理が分ッて來ますそこで種類を組み立てますとさうすると一目して直に分ります其れには何が宜いかどういふ仕方なら宜い趣向が出來やうかと云ふと其れを表に製するのに有ります表にさへ製すれば幾千萬でも其中に這入ります一體表は貴ひものでた〻數字を拾ふて猥りに書き入れるものでは無い表と云ふものは全體を見るに最も便利なもので白いものは白いもの赤いものは赤いものと云ふ異同がチャンと分り又此の中から赤いものと青いものを取らうとすれば混雜しない樣に取れるのであります

もう一つよい事があるとこれは誤ッて居るか誤ッて居らぬかと云ふことが能く知れる知れなければなりませぬ

そこで又表中で事實を並べるにはどうするかと云ふと目的が有ります事實の現象といふものは定則に從ッたものであるか變動の方に向ッたものであるかと云ふこと

社會の事實は方法によらざれば知るべからず

と米價の樣に動き易いものであれば動くのは當り前であるといふことが分ります
さうして增減がどうなッて來るか又場所はどこなるか時は去年と本年とどうなる
かと云ふこと今日は明治二十二年の九月十五日なら九月十五日と定め場所は東京
の上野公園の內の文部省の一つの講義堂だといふことを定めなければならぬ樣な
もの又其變動の道理を發見するには運動學の技術を兼ねて知ッて居らなくてはな
らぬ人間の仕事は運動して行くもので其學科の熟練の効を要して行くものであり
ますから熟練して行かぬと分らぬものであります
表を見るならば表中の事實はどういふやうに增して行くかどういふやうに減ッて
行くかどれが平分かといふことを知らなければならぬ此第一表の中には色々の事
がある數字を見ると何でも無いが素と事實を表したもので其數字の中には道理の
種子又學問の爲めの種子があるまた表は大部の書籍よりも優ッたことが有ります
から表の中からは財寶を見出す心得で無ければならぬ能く味ッて御覽なさいいつ
かも御話をしたかも知らぬが凡そ國人の總體を年齡より見ますと其三分の一は生
れてから十五歲までの人で總人數を百人と見ると三十三人餘に當り其十分の一は
十五歲より二十歲までの人で百人中九人餘に當り其半數は二十歲より六十歲まで
の人で百人中四十八人餘に當り其二十分の一は六十歲より七十歲までの人で百人
中五人餘に當り其四十分の一は七十歲以上の人で百人中二人餘に當ります
それを判斷するとどう見えましやう御同樣に生れてから十五歲位までは無職業で
父母や他人の厄介になりまして十五歲より二十歲迄は少しは厄介を免かれ二十歲
から六十歲までが一番人數も多く又勢力もあり專ら業を爲す時と見まして六十歲
より以上は我が一生の務も終る樣になり又一體に人數も減り勢力も衰へ物を生せ
ぬ方に傾むき七十歲以上は我國でも小供に歸ると申しますから我々社會の上では
育てられたり育てたり相互に其義務を負ふ樣に見えます我國に養老の典を行はせ
られるのは此道理から見ても有難きことであります尤も老人にて大業を爲す勝れ
たる人もあるが是れは世に數すくなき人にて數外でこゝは唯々我々社會の總體の
年齡より解釋するのでありますが其他經濟上にも衛生上にも敎育上にも國政上に
も種々の必要がありませう
左にある表は本當のものを知る爲に拵へたものでありますから何處へでも用ふる
ことが出來るものであります日本國中でも宜しい一つの區域でも一國でも宜しいが
此中にイロハニホヘトチと云ふ各種の現象が現はれて來ます是は一國の住民にで

も一年の犯罪人にでも用ひられます又幾十年の食物の價を知るにも用ひられます」

	伊	呂	波
い	チハチチチチ ニイニハイ ニハニヘヘ ハハニハニ	ハヘヘハニハ イハトイハ ニニ トロチチト	ハチトヘヘイ ハトニニニ ホホ イトトト ヘハ ハ
は	ニニニチト ホイイヘヘ トホホハハ ホトトト	チホホチチ イハホホト トニニハイ トトトヘヘ	チトチホホホ ホホホニホホ ハホホトイイ ホホトホホ
に			
ろ			

仁　保　邊

いろはにといふものがてれが一國内のことしすると伊呂波仁保邊は州になります武藏なら武藏としても上總なら上總としても宜しいまた半年の出來事にしても宜しい又四時に分けても宜しいそこで中の現象のイロハニホヘトチの現はれて來た現象を集めるとイが十二　ロが一つ　ハが二十一　ニが二十一　ホが三十　ヘが十三　トが二十四　チが十五ありて次の通りに現はれて來ます

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
	一二回	一回	二二回	二一回	三〇回	一三回	二四回	一五回

そこで現象の中で最も多いのはホである　ホはチとヘの二倍餘に當りイの三倍に近い　ハ及ニの一倍半に當りトの一倍餘に當る又一位なるものはロで之を一位と取ると云ふ樣に現はれて來ました

其れから各種の現象が伊呂波の區域の中にどうなッて來るかと云ふことを能く吟味せねばならないさうしますると次の表の樣になります

	伊	呂	波	仁	保	邊
イ	二	二	二	二	二	二
ロ		一	一	一	一	一
ハ	六	五	四	三	三	九
ニ	六	四	四	三	三	一
ホ		二	二	四	五	一
ヘ	二	三	三	五	六	五
ト	二	二	五	三	三	二
チ	五	二	一	一	四	二

社會の事實は方法によらざれば知るべからず

これは見方が有るので能く見ると表中の總體の事實が順序を爲すものであります
から心を留めて見なければなりませぬ　イは伊呂波仁保邊の各部とも二つづゝ能
く揃ふてありますさうして他の現象と更に關係の無い樣に見えます　ロは呂の部
にて一つの現象を示して居ります　ハは調査區域の各部共に現はれて居りますが
或は多く或は少く現はれました即ち　伊の部には六つ　呂の部には五つ　波の部
には四つだから　ハの現象は　伊の部では最高に至り　邊の部では最低に至りま
した　ニは何れの場合でも　ハと揃ッて　ハの增して居る所は自から增しハの減
じて居る所は自から減じて居ります實に此兩現象共に規則正しく揃ッて見えます
から何か此兩現象の間を結び付けて居る原因がありましやう　ホはニやハの現象
とは違ッてニとハとの多い所に現はれずしてハとにとが少なくなるに從ッて增し
て來て居ります　ヘは又違ッて一つでなく二つか三ッづゝ重なりて現はれ能くイ
に似て居るなれども其は又自から固有する結合があると見てよろし　トは調査區
域中で多くの部分に現はれたれども殊更に下の方に向ッて集合するの勢がありま
す　チは上の部の方に向ひ　トの數の多き所より己れを離れ去らんとする有樣を
見せる樣に考へられます

斯ういふ鹽梅に社會の現象は現はれて來ますからどうしてもたゞは分りませぬ斯
うして多いものと少いものと比べて見ると分りますこれだけのチョイとしたもの
だけれども斯うすれば確かであります
箇樣に說明すると定則に從ふものと變則に從ふものとが能く分ります これは人間
社會の有形無形について變遷發達する有樣を知るので丁度バロメートル抔で氣象
を見る樣なものと同樣先づ斯ういふ工合で種類が多ければ種類に從ッて類を分け
るのであります我々社會の動いて行くことが種々樣々になッて居るから斯ういふ
方法がなければ社會の事實は知れませぬで是非とも斯ういふ方法で知る樣にして
行かなくてはなりません因て今日社會の事實は方法によらざれば知るべからずと
云ふことを諸君に御話し致したので有ります

◎精神の養生　明治二十三年

衛生とは身體の健康を保護增進するの道にして、各人其健康を保持して、天壽を全ふ
し、人生の生活を爲さんと欲せば、此の道に賴りて其身を處せざるべからざるものに
て、須臾も離るべからざるものなれば、處世に必用なるは、固より論ずる迄もなきこと

なるが、近年我邦にも、衛生の道大に開け、健康保護の點に注意するもの漸く多きを加へて、衣服は清潔を貴び、食物は滋養あるものを撰び、體軀を洗淨し、適宜の運動を爲し、其他住居の掃除、溝渠下水の清潔等に注意して或は襦袢にはフラヂルを用ふべし、滋養の爲には肉食すべし、或は脚氣は米食の致す所なりと云ひ、又は魚毒に中ると云ひ、清淨の空氣を吸ふべし、海水に浴すべし抔と、衛生の法日に研究して盛なりと云ふべし、是等のことは醫學的にして深く衛生家の研究を要する所なり

衛生の道漸く進歩するに從ひ、體格の增大を致すは、和蘭に實例あり、其原因未だ明らずと雖も、要するに職業に俄かの變動なく物價の平均等、凡そ社會平等の進歩に依ることとなるべし、然れども只其體格にのみ偉大にして健康なるは、未だ全しと云ふを得ず、之に伴ふに精神の健康を以てせざれば、完全の衛生と謂ふ可からず、先づ一例を擧ぐれば、身體矮小にして精神の偉大なる人亦敢て少きにあらず大なるアレキサンドルは小なる身體とあり、我國豐臣秀吉の如きも亦然り、今日に在りても、身體矮小にして精神の偉大なる人を數へ來らば、指を屈するも遑あらざるべし、故に身體の偉大健康のみを求めて、精神の如何を顧みざる如きは誠に宜しからざることなり

余は固より、衛生の專門家にあらず、醫士及び衛生學者等の云ふことは、感服して聽くことなるが、一體醫士は身體の方を主として、精神のこと抔は、案外等閑に附するの嫌なきに非ず、故に余はいま精神の養生のことに就き一言せんとす

精神の養生法は忽にすべからざることにて、社會の進歩するに從ひ、益々必要を感ずるものなり、夫の癲狂者の如き、其身體は隨分健康なるもあり、體格亦偉大なるもの少からず、而して其精神は常を失して人事に關することを能はず、社會に向ては實に無用の長物となれり、抑々此の如きは世人之を一の病氣と認め、精神病專門の大家ありて、其病原治法等を講究し、又立派なる癲狂院等もありて、世人も亦その療養を要することをも知り居れり、然るに外觀には無病息災なるが如くに見えて、尙ほ其精神に病氣を有する所の人間あり、此種の精神病は、大に世間に流行し、無暗に西洋の事物を崇拜して取捨の道を誤るものあり、豚や兎の流行病に罹りて財產を蕩盡するものあり、舞踏熱に浮かされて跳ぬ廻るものあり、其氣候稍々減せんとすれば、又會社熱、株券熱等の流行を促し、愈々出でゝ愈々妙に、將に又如何なる流行を促さんとするか、知るべからざるなり

凡そ是等は皆精神の健康を失ひたるものにして、之を一の精神病と爲すべし、其他にも尙ほ同樣の例ありて、精神病にも色々の種類を見出すべし、金を欲するは良きこと

なりとするも、正當の道にありて之を取らず、他人を踏倒して之を貪るが如きは其一例なり、其罪彼の詐欺取財なるものと何ぞ擇ばんや、自分のみを利すれば他人は構はずと云ふが如きは、即ち健康の精神にあらずして、「マンチェスター」「スクール」の派より傳播し來るものと思ふなり

俗に渡世と云ふことあり是は甚だ面白き言葉なり、實に我々は一寸先は闇黑なる世路を渡りつゝあるものなり、而して此世を渡るは、獨り目、足のみの能くせざる所にして、畢竟精神なるものを要することなれば、人間の生活に於て健康の精神の必要なることは益々著明なり

余嘗てエッチングンの書を讀みし時、面白しと覺えたる所を抄し置きたることあり、今精神の養生を談ずるに就ても、亦面白き節あれば、序に之を一言すべし

人間各人の死は皆病を現はすものにして、病は人間の罪の勢力を示すものなり、是れ死は罪の償ひと云ふ格言ある所以なり、而して罪は一人一己のことにあらず、即ち人間一體の不幸にして、人間の始めの父母より傳はりて、子々孫々に至りたるものなり

夫れ人の命脈の長からざる所以は、其不行狀にして、意に任かせて自ら損害を招くに因るなり、而して人間の心の發動に於て、其知の進むと否らざると、德義の起ると起らざると、即ち人間開化の高下、風儀の良否は、殊に疾病と死亡とに關係あるものとす、然るに近來開化の進歩するに從ひ、種々の趣法を設くると、又社會の改良するとに因りて、人間の壽命を保つに大なる關係あることを發見し、人間の讎敵たる死を防禦することを勉め、人間壽命の平均數少しく增すことを得たり

此功勞は即ち世界の死の勢を挫ぐものにして、之を人間智識の勝利と稱するなり、其死の勢を挫ぐの趣法は、救濟警察及衛生警察等の法善く備はること、又汚水の疏通に注意すること、健康なる住居の模樣に注意すること、種痘に注意すること、病人の療養に注意すること及救濟に係る種々の設立等にして、即ち人間社會の幸福を增進し、其生活上に大なる安全の關係を及ぼすものなり

又家内の齊ふこと、不潔ならざること、赤子養育法の開くること、兒童教育法の整ふこと、互の救助會社の設、學校の趣法、職業時間の定め、體操運動等のこと、是等は皆壽命の平均數を增すの望あるものとす、

大都會は人民稠密にして健康に害あるより、死亡多きのみならず、又風儀の惡しきより死亡の多きを致すものなり、又村落の生活は概ね自然に適ひ、大都會の生

活は大に自然に戻るものあり、大都會は遊惰、淫逸、不行狀等各種の惡事行はれ、憂苦多くして心常に安からず、或は怒り或は怨み、或は貪慾の事村落よりも多く、從て其壽命も亦村落よりは長からず、

凡そ壽命の短きは、獨り一人の損のみに止まらず、一家の損、一郡の損、一國の損なり是れ人間の死亡は、犬猫等に於けるが如くそれぎりに放擲すること能はずして、人々の厄介となればなり、殊に親の死亡は、其子に取りて誠に不幸なるものなり、親無き子供は精神亂れ易く、終には精神狂ふて放火、乞食、掏摸等の惡事を働くに至るもの多し又精神の健康を損するは即ち一國社會の損失なれば、政事家も實業家も皆大に意を注がずんばあるべからざることなるに、世人多くは之を輕視し、平氣に濟まし居るが如きは、豈に怪しむべきことにあらずや

近頃廢娼の論盛に行はれ、之を贊するものあり、之を駁するものあり中には窮して娼妓學校を建てゝ之が改良を圖らんとするものあるに至れり、然れども賣淫其物にして既に不良のものならば、之を廢するは素より當然なり、されども數百年の弊風一朝にして之を廢止せんことは、爲し得らるべきことにあらず、今よりして漸次に之を減却し、十年二十年の後に至りて、自然に消滅せしむるを可とするのみ、今談話の娼妓に及べる序に又梅毒の事に就て云はんに、其毒質は果して顯微鏡を以て能く視得べきものなるや、又此は人體に向て如何に働くものなるや、未だ詳に之を知らずと雖も、其猛毒は實に恐るべきに相違なし、若し之を其儘に放擲し置く時は、終に人類を滅盡せしむるやも知るべからず、而して獨逸の學者某氏の說に、梅毒を獸類に植うるも感染せずと云ふ、是れ尤も研究すべきことなり、然らば其猛毒は唯々獨り人類のみに遺存して、他の動物には感染せざるものなるや、若し果して然らば是も亦人類が道德に違ふて自ら招くの罪と云ふべきなり、又ライプチック府某學士の說に人間の卵精未だ一二日を經ざるの間は、混沌として知るべからざるのみなるが故に、此時には之を潰すも敢て罪なしと云ふ、縱令眼に見えざるものとするも、其卵は後來如何なる人物となるべきものなるや釋迦も此卵より出たるべし、孔子も此卵より出たるべしワシントンもニュートンも亦皆同じ、故に之を潰すも罪なしとするは、唯物家の暴說と云はざるべからず、畢竟是れ醫學者は、マテリアリズムなるか故に、案外に精神を度外に置くの致す所なり、精神の養生に於て是等は大に關係あることなれば茲に一言するなり

我國に於ては昨年憲法の發布あり、立憲政體の國となり、本年は初期衆議院議員の選擧を各選擧區に行ひしに、先づ無難に選擧も終りたれども、選擧の際には憂國の志士

と稱するもの競爭の極過激の擧動なきにしもあらず、傍より之を見れば、隨分精神病を發したるものと云ふべきもの多し、蓋し議院制度の實施は、我が國體上未曾有の大變革にして、政界に於ける人士の精神は、頓に變動を受くるものなり此際には動もすれは、失望、愁憂、憤懣、嫉妬、怨望等の諸感併び起りて、其精神の健康を害ひ、爲に劇しき精神病を起すに至る、其例少きにあらず、是れ秩序ある進步なれは、精神も亦從て之に慣るゝと雖も、今日の如き大變革に逢ふては、精神は容易に之に伴ふて轉換すること能はざるものなるが故なるべし

今や衛生の道、日に月に進步す、獨り身體的の衛生のみならず精神的衛生の方法をも共に講究するの必要を感じ書して世に問ふ

◎家は、國の本なり

明治二十三年十一月九日東京學士會院講演

當年もイヤなコレラが流行し、其爲めに隨分貴重な生命を奪はれた者もありましたが、皆樣は御壯健で誠に結構で御坐います、ドウかコレラも、日本に着いて居る治外法權の樣に、いつまでも存して居つては困りますから、人々で注意して、逐拂ふ樣に致したいもので御坐います、コレラの爲めに當院の講演も一箇月休みまして、其爲めに私の演說の題も大分古くなりましたが、漸く今日御話申す樣な譯になりました

私の申すのは、「家は國の本なり」といふ題でありますが、よく考へて見ると、國といふことは、どふいふ意味かといふことが、少し分り兼ねるかと思ひますから、先づ私の國と云ふことは、斯ういふものであると云ふことを一言申しませう

國といふことは、字引を見ても分りませぬが、先づ私の解する所では、西洋の學說の通り、土地と人民があつて、獨立したものが國であると云ふことであります、世間には人民ばかりで、國の無いのがあります、洋行した人に承りましても其通りで、彼のジュデヤ人、ジプシー人の如きは、餘程古いものでありませうが、國といふものは無く、亡國の人民でジプシー人は馬車の樣なものを家として、方々歩いて居ります、其間には賊などをすると云ふことであります、支那にも馬賊といふものが有りますが、是れは賊だから、亡國の人民とも違ひます、さういふものがある所から、土地と人民とあつて獨立を爲して、外に侵されぬものが國であると思ひます

それで西洋では、土地と人民で國の論を致すから、國を重ずると人民は輕くなり、人民を重ずると國が輕くなります、何れも大切なものであるから、其論を確めると、どうしても極端になります、昔のスパルタの人民の如きは、非常に國を重じて、小兒などの弱

家は國の本なり

い者は、器の中に投じなどし、人民は相集つて會食をすると云ふ如く一致し、婦人が強くなければならぬと云つて、女を強くしました、これは彼の有名なるリキュルギューなど主張してやりましたことであります、これなどは國を重じ過ぎたものであらうと思ひます、夫故にどうしても人民の方が輕くなりました、又佛蘭西革命は、人を重じたのでありませうから、御承知の通りの大變なことになりました、どちらに致しても、極端に偏ると害があります、近頃新聞紙などに國家主義個人主義などと云ふことが見えますが、國家主義はスパルタ流に陷り、リキュルギューの方になりはせぬか、又個人主義もマンチェスタースクールと云つて、面白からぬ利己主義の方に陷り、人は搆はぬ我一人と云ふ樣になつては、國を爲すに害が有らうと思ひます、一體スタチスチックで見ると、人間は鎖で繋がつて居る樣に見えますもので、日本人は日本人で、相互に無形に繋がつて居ります、罪人などのことでも能く分りますが、一人が惡いことをすると、どこかに其れと關係を有つて來ます、其れは丁度水の中に石を投げた樣なもので波及する所、關係する所が廣くなります、故に何れも極端に馳するのは宜くない、どうか斯ういふ論者も中を得、中和の道を得る樣に致したいものであります、極端論は何れも歴史上で弊が起つて居るから、中心によらなければならぬと云ふのが私の考へであります

畢竟西洋では、人民と土地の二つを以て、立國の理を論じますから、偏頗になりますのでありませう、ところが我日本ではさうでなくて、建國の本が三つの基礎の上に立つて居ると思ひます、其三つとは何であるかと言へば、一は日本の土地、一は日本の人民、一は我國の開闢以來帝室の神聖なること、此の三つが日本の基礎になつて居りませう、これから學問が段々開けて參りますから、此の三つが立つて行つたら宜くなりませう

總て二つのものは動き易い舟でも帆をかけても、舟と帆では覆り易いが、舵と云ふものがあれば旨く行きます、五德でも足が二つでは行かぬ、三つだと宜い、若し二つだと、藥鑵がひつくりかへる樣になります、家でも夫婦と子と三つ立つて居ますと確であり、又貴いものであります、懸物でも三幅對と云ふと、餘ほど貴う御坐います、日本は今申した通り、三つの基礎であるから、國論などといふことは流行らぬが追々西洋の學派が流行り、國家主義個人主義などと云ふものが流行ると、極端に馳せて無用な辯を費し、無用なことを起す樣になりませう、私の思ふには有形なものは西洋と日本と違ふことが、地圖でもチャント分り、人も西洋人と比べても、違ふことが能く分りますが、帝室の神聖に至つては、只盛德を感するのが、是れが以心傳心を以て、開國以來今日まで

家は國の本なり

維持したる大なる綱だらうと思ひます、故に外の國に無く、西洋人が肝を潰すほど、速に維新の改革も出來ました、さういふ鹽梅に行くのは、全く以心傳心を以て繋いで居る大綱（オホツナ）であると考へて居ります

私の國と云ふのは、そんなものでありますが、委しいことは國體專門の學者が說きませうから、私は此の位に致して置きます

それから「家は國の本なり」と云ふと、大學にでもありさうに見え、孟子にでもありさうに思はれますが、さういふものから引出したのではありませぬ、字は支那の字だが、支那の書物から出たのでは無く、私の聊か學んだスタチスチックの上から氣が附いたのであります、日本の民心に深く感じ奉る、彼の炊煙の歌、即ち「民の竈は賑ひにけり」と云ふ御歌から考へ付いたのであります、竈と云ふことは家と云ふことに解しました

一軒二軒と云ふことを一ト竈二タ竈など云ふのでも明であります、其れに付て民既に富めば則ち朕亦富むと仰せられました、これは誠に盛德の有難いことで、無限の感情を生じ、容易に言へる言葉では無く、實に高尙な言葉で、文者が作らうと言つても、出來ることでありませぬ、全く高尙なる心から出たことであります、斯ういふ言葉は、日本ばかりかと云ふと、西洋にもあります、二十七八年前に歷史で見たことがあります

が、（或は間違つて居るかも知れぬが）其れに英吉利のエリサベス女王の申された言葉に「英吉利は朕が夫なり」とあり、又普魯西の大王と稱するフレデリッキ第一世は、大變な學者で、事務が多くて暇が無いと云ふので、七日七夜寢ずに事務を執られ、寢ると云ふことは入らぬものである」と言つて居られたが、大熱を發して其れからして寢るのは必要だと感ぜられた人であるが、其の人が、「朕は國の大なる臣僕なり」と言はれました、又有名なルイ十四世は、「國は朕なり」と言はれました、支那でも「民の父母」と云ふ樣なことがあります、是等は皆只口で言つたことで無く、熟考の上出た言葉であります、併し我仁德帝の「民の竈は賑ひにけり」と言はれ「民既に富めば則ち朕亦富む」と仰せられた御言葉の如きは、他の三王の御言葉と比べれば、何れが貴いか、どうか、直に分りませう、又民既に富めば則ち朕亦富むと云ふ言葉の中には、二つの大元素があつて、其れから組立つてあると思ひます、其れは何かと云ふと、一つは仁愛の德であり、一つは經濟の大道であらうと思ひます、そこで餘計に貴く思はれますのであります、其れだから貴いことだと思ひました、故に我皇室の世々の盛德は、萬世に亘つて、大御國の民心を維持したまふのは、恰も天地の化育窮りなきが如きものであります

家の說の原づく所は、さういふ譯であります、併し家といふことは、餘ほど面倒なこと

家は國の本なり

で、學問の上で說いて見ると、甚だ複雜したものであります、又複雜しなければならぬ道理のもので、種々の論があります、其れだから此家と云ふのは、明家ではいけず、家屬の備つた家で無ければならぬのであります、これは諸君と共に講究しなければならぬ一問題の積りで、御話申しますのであります、故に惡ければ駁して下さる樣に願ひたく、又善ければ同意して下さる樣に願ひたい、社會の問題も隨分多いが、これも其中の一つであります、先づ問題を出して置くと人が氣を附けて、成るほどこれは可笑い、斯うしなければならぬとか云ふ樣になり、多數を得て固まつて來ます

國と云ふものは、種々樣々の無量の原素から成り立つて居りますが、家は國の中心になつて、最も勢力ある原素で、我々社會の最も大切な意味を含むものであります、假令何ほど可なりに活計して居つても、獨身者では信ぜられませぬ、例へば學校に這入るにも、東京に地面と家を持つた人で無ければ、證人になることは出來ぬと云ふことになつて居るのでも分りませう、これは學理から說いたのでも何でも無いが、自然にさうなつて居ります、上野の大きな松や杉の樣になると、拔きたいと云つても容易に拔くことは出來ませぬ、醫者などは別して獨身では宜くないと言ひます

孟子に、天下之本在國、國之本在家、家之本在身とあり、大學の開卷第一に古之欲明明德於天下者、先治其國、欲治其國者、先齊其家、とあります、私も子供の時に素讀をして貰つたが、其の時には分りませんでありましたが、段々氣が附いて參りました、家齊ふとあるから、此家と云ふものは、夫婦も子供も財產も、何一つ揃はないものは無いほど齊つたものであると思はれますが、其れは天子より士庶人に至るまで、斯の如く揃ふときは天下治まり、齊はざれば天下治まらぬと云ふ意か、又堯舜の樣な聖人の夫婦が家に在れば、天下も治まると云ふ意か、甚だ解釋に苦みます、併し私の愚意な人で、學才も德も高い人があるが、さういふ譯に行かぬ人があつて、家がガヤガヤして居ります、どうも大學の家が齊へば國が治まると云ふのは、疑はしい樣であります

さりながら昔から家と云ふものは、大切に思つたに違ひない、家の無いものは、チョット考へて見てもどうでせう、若し家の無いものが集つたら實に大變な混雜を生じます、せう、安政の大地震の晩に、私は八代洲河岸を歩いたことがあり、其時分今の勝伯が長崎に行つて居つて、私は其留守宅に居つたが、あの地震の晩に、辰の口まで、家根の下を通つて行きましたが、其時八代洲河岸で、地にひゞわれが出來て、其中に誤つて足を入れかけ、死ぬかと思ひました、其の時は人が皆家の中に居ませぬで、戸板抔で圍を造りて其中に居り、ワーワー言つて居りました、實に恐ろしいことでありましたが、家が無

家は國の本なり

かつたら、先づ誰でも斯の如きものと見て、たいした間違ひはありますまい、

又古人の齊家のことは、能く考へたものではありますが、想像から起つたことが多い樣であります、黄金時代と云ふことがありますが、丁度そんな類かと思ひます、黄金時代と云ふのは、色々論がありませうが、餘ほど古いものと見えます、而して太古は事物が皆人の共有に屬して居りまして、開成を務めざれども、物が自然に出來まして、いつも缺乏することはありませんで、世の中は善の支配する所となり、惡と云ひ欲と云ふものは毛頭も知らず、獅子も羊も共々に群をなし、牛乳蜂蜜到る處に充溢して、饑へず渴へず、互に親み互に愛し、天下太平の盛世であつたと云ひます、其後希臘羅馬に至つて、說が違ひました、併しこゝに一つ不思議なことは、大學でも、黄金時代のことでも、世が段々宜くならうといふことの人間の思想は、今日まで續て居て、今日は益々それが強くなつて居るは、實に不思議であります

然るに我々の實社會は、餘ほど違つて來て居ります、我々の社會には、持地持家と云ふものがあり、又借地借家があり、又持地借家などと云ふものもあります、又借家と云ふ中に、種々なものがありまして、矮陋にして小屋の樣なものあり、又九尺二間の長屋住居もあり、又坐敷を仕切つて家として居るものあり、或は船を家として居る者もあり、又穴居して居る者もあります、近頃日本新聞に出て居るが、大我居士と云ふがあつて、貧民の中に立入り、危難を侵して歩いたと云ふことでありますが、誠に仁愛あり勇氣ある貴い人で、穿鑿が善くて、此樣の人を實に貴いもので、あの樣な人がスタチスチックの學問をもしたら、社會改良の爲めに、立派な材料を製り出すで御坐いませう、實に得難い人と思います、實に大阪の名護町、東京の萬年町、割下水、鮫ヶ橋などや、又私の近所の餌差町などと云ふものは隨分貧民の多い所であります

家に住ひ人も亦種々ありまして、家主にして男ぐらしの者があり、又女ぐらしの者があります、又一人ぐらしの男があり、一人ぐらしの女があります、其一人ぐらしの家と云ふものは、家とは云ふものゝ甚だ危く、家族ぐらしの家と云ふものは危からずして、確であります、私は先年政府の命を承けて、甲斐國に參り、十二月三十一日夜の十二時に、一度に寫眞を撮る樣に、甲斐國の人別を調べましたが、實に其の通りのことがハツキリして居ります、何れの所でも別に變つて居りませぬが、只東京のは種々錯雜して居り、家も種々な家があり、家族も種々な家族があります、これは統計年鑑などにも出て居りますが、戸主で家の無い者があります、それで戸主はどれだけあるかと云へば、

家は國の本なり

男戸主七百六十三萬二千〇七十、女戸主四十二萬四千四百四十四あつて、其れを合して見ると、戸主の總數が八百〇五萬六千五百十四あります、實に澤山なものであります、併し今も申した通り、戸主で家の無い人が澤山あります、これを以ても日本の家は是れだけあるといふことは言はれませぬ、名こそ戸主でも、家主では無くて、其實名前主であります、斯ういふことは、帝國議會などが出來るときは、充分に穿鑿をしなければならぬことゝ思ひます、

一體家と云ふものは、我々の眷屬の住ふ所であり、我々の出生の場所で、至つて貴い所であります、我々の家は、他の建物即ち學校だの、寺だの、病院だの、貧院だの、製造場だの、役所だの、兵營だの、懲役場だの、貸座敷だのゝ類とは違つて居りまして、親子共に住み共に生活し共に樂み、人生の自由を得、人生の快樂を得て生きて居る境界であります、西洋にも西より東より我家より善きものは無いといふ諺がありますが、實に尤もなことで、旅行をして見て、どれほど面白くても、我家に歸て見れば、我家の方が宜いのでも分つて居りませう、其れはどういふ譯でさういふ貴いものであるかと云へば、我々の家は文明社會の本になりますもので、國人の數に對して、家を保ち眷屬ある者の多きは、其國の基礎が堅固で確で、又其國を一目しても、其國の品位が高くなり、從つて國が貴くなります、併し其れに反して家の數は多いが、矮陋にして小屋の如きもの豚小屋の如きものでは困ります、又眷屬の數が多くても、家のなきもの多くして、六部行脚杯が、子を連れて物を貰つて歩く奴が多いときには、國の基礎が脆弱であり、國の品位も亦隨つて卑く賤しくなります、これは日本人では、平常目慣れて居りますから氣が付きませぬが、外から這入つて來ると評をされます、どうか成るたけ善くなる樣にしたいもので御坐います

偖人の生は、動物學者は何と云ふか知らぬが、人の生は男と女と此の世に生れて、年頃になると夫婦になる、或は一人ぐらしが宜いといふ人があるが、其れは間違つて居ります、釋迦も出家して乞食坊主となつたが、人を濟度しやうと云ふ人であつたから、其れでも宜からう、耶蘇なども其れで宜いが、さういふ樣な人ばかりなら宜いが、さういふ人は何千人に一人も無い、孔子も妻があり、マホメットなどは金持の後家さまを妻にしました、チョット其事に付て言ひますが、佛蘭西で財産を平等に分けることになつて居るが、其れが爲めに獨身者が段々殖えて來ます、財産があると、宿屋へでもどこへでも泊り、今は昔とは違ひ、我儘勝手の便利が利き、無税にて居ることが出來、取つた錢を使つて行けば宜いといふ樣になる、佛蘭西にても其弊が起つたから三十以上の男

で獨身の者は、稅を課すると云ふ說がありましたが、これもスタチスチックの功能であります、我東京でも善く調べて見たら、此の如き類が澤山あらうと存じます

ところで此世に生れて年頃になると、夫婦になるのは當り前であるが、夫婦になつたばかりでは足りず、住むべき家も無ければならず、食事もしなければならず、衣服も入り用であるし、竈も薪炭も入り、米も入れば、醬油も入り、手では食へないから、膳椀の類も無ければならぬ、家を有つには斯ういふ鹽梅に金がかゝります、彼の佛者の言ふ樣に、甘露が天から降つて餓へなつたとか、黃金時代の話の樣に、牛乳が地から湧て出ると云ふ樣な譯には行けませぬから、總て働いて食ふ樣に體が出來て居ります、黃金時代や、甘露の降る世で無いから、是非勞心勞力の二業によつて、日に働き日に勞して其賃を得て必要なものを買つて行かなければなりませぬ、ところが一攫千金とか言つて、非常な僥倖を得る人があるが、さういふ人は例外で、又さういふ人ばかりあつては大變であります、又さういふものは決してあてにならぬものであります、どうしても勞心勞力の二業によるより外に仕方が無い、私の家と云ふ說が起つたのも、こゝからであります、家を齊ふるに付ては、氣が附いて居る方があるか知らぬが、私は西洋の本の中から見付け出して感服したのであります、是れから私の申す樣にしたら、家を齊ふ樣にすることが出來やうと思ふのであります、段々女學校などが出來て、家を治めることも、都合よくなりませうが、家政のことは教科書の中にも無い樣に思ひます、其れゆゑ知慧が增しても、家を持つことはむづかしいと思ひます、實に家を治めることはむづかしいが、其れでも是れだけ日本で家を持つて居られる人のあるのは、感心なものと思ひます、私の今日申しますことを守られたら、尙ほ立派な家が出來やうと思ひます

收入の方を言へば、賃錢又は田畑の上り高、商賣の利益か、公債證書諸株券を持つて居る人は、其利子位であるが、出て行くものは大變にあります、昔江戸で金持は、金を三通りに使つたと云ひます、其れは三萬圓の金を、一萬圓地面を買ひ、一萬圓貸金とし、一萬圓で商賣をしたと云ひます、斯うすればどれが損をしても、外で償ふことが出來ると云ひます、兎に角取るものは僅で、出るものは多く、這入つて來るものは少くて、歲出は多く、誰も誰も足らぬ足らぬと云つて、細君に小言をきくことが、常になつて居ります、今其出て行く方の大綱を擧げますと十二ありまして、其細目が八十餘あります、これに付ても前の仁德帝の「民の竈は賑ひにけり」と云ふ御歌や、民旣富則朕亦富と云ふ御言葉は、實に無限の感があります

家は國の本なり

偖此箇條は學士會院で申すは、餘り低い樣であるが、學問の上のことであるから仕方が無い芋だの大根だの、蒟蒻だのと云ふと、下品の樣だが、食ふから仕方がありませぬ、因て一と通り御話し申しませう、日本で云ふと、マー小使帳の樣なものであります

第一　生養の費即ち食ひ物と飲み物

一　穀類即ち白米搗麥の類
二　小麥の粉、蕎麥粉其他糯類
三　芋の類
四　乾物類
五　野菜類(大根、菜の類)
六　鮮肉及び鹽肉の類
七　鳥肉及び鷄卵の類
八　鮮肉、乾魚、鹽魚の類
九　鹽
十　味噌、油揚の類
十一　醬油、酢の類
十二　香味(胡麻、芥子、薑、山葵、燒鹽の類)
十三　嗜好物(茶、砂糖、味淋、菓子、菓物の類)
十四　飲物
　水及び氷
　清酒及濁酒
　燒酎及び各種酒精
　麥酒

水は昔は無料で飲めたが、是れからは衛生法で錢がかゝります、(稅と云つた方が宜いかもしれませぬ)又亞米利加などでは、氷は澤山にあるのであつたが、去年暖な爲め、氷の出來は少く、今年は氷のことを「ダイナマイト」だと云つた位であると云ひます、箇樣に一つの種類に付ても細に調べると調べるほど、細かになつて行きます、それから

十五　其他の飲物(ラムネだとか何だとか色々)
十六　園圃を有するものは、其培養及び手間賃等(密柑だとか栗だとかが出來たとすれば、其の培養の費銀が出て居るので、只は出來ない)

第二　身裝の費

家は國の本なり

一　各種の肩衣
二　夫の衣服、妻の衣服、小兒の衣服
三　股引、足袋、靴足袋の類
四　手袋
五　帽子、頭巾の類
六　髮の飾(櫛、釵、半掛の類)
七　傘及び蝙蝠傘の類
八　旅衣、雨具の類
九　其他身裝種々の費

第三　住家の費
一　家賃及び地代
二　夜具、蒲團、蚊帳
三　坐敷道具、居間道具、臺所道具
四　敷物類
五　洒掃費

六　修繕費
七　其他の住家の費

第四　溫暖及び光明に必要なる費用
一　居間臺所及び浴室に用ふる薪炭
二　光明器及び光料(行燈、提燈、洋燈、燭臺、燈籠、油、石油、蠟燭の類)
三　瓦斯燈
四　電氣燈
五　其他の溫暖光明の費

第五　衛生の費
一　水道下水等
二　身體清潔法(湯に入るとか石鹼の代だとか)
三　醫師への謝儀
四　看護料
五　種々の藥料
六　藥湯

家は國の本なり

七　病に罹る者の助成
八　其他衛生に係る種々の費

第六　智恵の養、家庭教育、學校教育、智識交換の費
一　學校費及び學校外の修業料
二　小兒教育等の貯金
三　書籍、新聞紙及び學術雜誌音樂費の類
四　學會及び術藝會の助成（二錢ばかりの雜誌の爲めに二十錢の會費を拂ふも仕方なし）
五　學校稅（日本には學校稅といふものは無いが「寄附金」をせよと云つて來るのは先づ學校稅の樣なもの）
六　其他右の類の費

第七　靈魂安養、神佛信心の費
一　說教及び讀經
二　神社祭禮佛事供養
三　墓所及び埋葬

四　其他社及び寺に係る諸費（これは坊さんが袋を持て來たり何かするので取られる費用など）

第八　外防及び內安の費
一　國稅府縣稅市稅村稅
二　登記及び裁判の費
三　地所家屋田畑山林保護の費
四　其他右等に係る費

第九　豫備用心の出費
一　生命保險料
二　火災保險料
三　養老及孤保險料
四　節儉預け金の類
五　其他右に類する出金

第十　鬱散遊獵娛樂旅行等の費
一　煙草及び香の類
家は國の本なり

二　富籤其他遊び事
三　劇場及び能の類
四　遊藝
五　右等の會社の助成
六　祝事
七　遊覽及び保養の爲めの旅行等幷に遊獵
八　遊樂の爲めに用ふる庭園及び諸器具其他園丁の給料等
九　其他右等の事に係る諸費

第十一　家事手傳費
一　男雇人の給料心附等の費
二　女雇人の給料心附等の費
三　臨時雇人の費
四　其他の出費

第十二　交通及び臨時の費
一　郵便葉書、書狀、小荷物等

二　人力車、馬車、汽車及び船等の入費
三　慈善施與等の費
四　他の子供及び緣者等の助成
五　其他臨時の費

此通りになります、皆收入の中から拂出して行くから、いつでも勘定が足りなくなるのであります、私も經驗して見たが、どうも餘りませぬ、此箇條を守つて行くやうにしたら、箇條によつて餘計に出るものは、省いてしまふことが出來ます、政府の會計なども、斯うすると國會議員に見せても能く分ります、何も彼もごたごたして置いては、何の爲めに金が入つたか、少しも分りませぬ、ところが誠に淺薄なことの樣で御坐いますが、素人では考へ付くことが出來ませぬ、これは全く學者の力で出來たもので、深く人生社會のことを講究するより、遂に家事經濟の事に及び、其消費の目を作つたのは、今より百年ばかり前にチヽウスと云ふ人であります、此人は獨逸のウヰルスブルグのプロフエッソルで、此事を考へたのは、千七百八十年のことで御坐います、其れから千七百九十二年にゲッチングンの大學の先生で、プロフエッソルベックマンと云ふ人が、其れを改正し、段々修正しましたが、委しいことは一席に述べ盡せませぬ、箇樣なもので、素人家は國の本なり

の手に成つたものでありませぬから、能く分り能く感じませう、段々世の中が開けて參るに從つて、社會が學者の注意を促し、夙夜に人生社會の爲めに、深く精神を凝して、どうか人々に利益を與へてやらうと云ふので、其中の一小箇條として、注意を促したので、一家に行へば一家に得があり、一郡でやれば一郡に得があり、一縣一國に及べば、其費を省いて益する所が少くありませぬ

ところが世間には往々高慢な人があります、自分で考へ出すことは出來ない癖に、是しきのことは何でも無いことだ、誰にでも出來る、つまらぬものだ、大層に言ふには及ばないと言つて居る者があります、併し何にも物事は氣が附くのが第一であります、氣が附かなければ僅なことでも作り出すことは出來ませぬ、さういふ人は聞て始めて知るのだから、自分もなるほど、閉口しなければならぬ、若し閉口したくない積りなら、其事だけに閉口して、外に立派な發明をするが宜い是等のことは何でも無いことの樣だが、能く物事の手本として慎むべきことゝ思ひます、若し諸君の中で私の申したことを御用ひになつて下されば、大慶で御坐います

日本でも自治制が行はれて參りますが、どうも一家の治まりが付かぬと、旨く行きませぬ、これが能く出來れば、從つて町村も能くなる譯でありますから、戸長役場などの如き、公務にかゝる役人は、知つて居つて呉れぬと困ります、斯ういふことを注意して行くと云ふと、鑑みることが多く起つて來ます、政事を執る人なども、能く心得て居て呉れなければなりませぬ、ところが本年は御同樣に知つて居る通り、帝國議會と云ふものが開け、議員諸君が、始めて日本人の心術技倆を世界萬國に披露し、世界の評判を取らうと云ふ、御目出たい初會の議事をされ、むづかしい國事を負擔されることでありますが、定めて目出たく閉會を告ぐる樣になるでありませう、さうして今の人も、段々年を取つて來て、跡繼ぎが出來ませうが、今年の國會より來年のが宜くなり、來年より來々年のが宜くなる樣にしなければなりませぬが、併し十年の後から見ると、明治二十三年には、斯ういふことであつたと云ふ樣に、立派にしなければならぬ、其れに出る人は何かと云ふと、公民と云ふ家のある人から起つてあります、公民はいやでも此責任を負擔しなければなりませぬ、だからして、家の主となる人は、國の中心に位するものであると言つて宜い、我々家主の勢力は、日本の國權を左右する位のものであり、外國に對しては、日本の勢力を示すものであります、ところが幾百萬人の家主中には、名は戸主でも、實は他の厄介になり、又他に損害を加へる者も、幾十萬あるか知れませぬ、さうして見ると、眞の家主と云ふものは八百何拾萬と云ふ戸主の中にいくらも

有らうか、揣定したら僅しか有りますまい、實に意外な少數なもので有りませう、ところが少數だと、日本を負擔することが重くなり、多いと輕くなりますから、戸主たるものは能く身を修め家を治め、國を大事にし、國の中心力たる勢力の益々盛なるやうに、骨を折らなければなりませぬ

家に夫婦がある、さうして始めて此國の本を爲すことであるが、其事に就てはシルレルと云ふ人が歌を作りました、私は其れを譯しました、譯したことは譯しましたが、文が出來ませぬから、分りませぬか知れませぬが、先づ譯したものを讀んで見ませう

夫の業は世間に立ち、己が業を務め勵みて、生活の競ひに堪へ、產を殖して自ら備ふ、時に危を蹈み、難を冒して己が繁榮を求むるは、我が幸榮を得るの道にして、家を興し財を積へ、限り無きの天福も、求ずして自ら來るなり、是れぞ夫の家を保つの實なり

妻としては實に子供の母として、賢く家事を取り扱ひ、女兒を敎へ、男兒を守り、常に端なく稼ぎつゝ、手にする仕事もまめやかに、家齊ふて益多し、積もる寶にはひあり、絲とる車の音のよく、輝く簞笥の其內にかさなる衣裳の淸らかに、色つやなすも家の榮の光りにて、妻の務めの花ぞかし

誠に粗末な文でありますが、斯ういふことを書いたものが無いから譯しました、斯ういふ人が、私共の知つて居る人の中にもありますが、さういふ人が多くなれば國がよくなり、國の中心が勢力を有することになります、因て心ある人は、家事經濟の消費に注目し、家を齊ふものが益々多ければ、國の基礎も益々堅固になりませうと思つて、一と通り御話し申したのでありますこれが家は國の本なりと云ふことの大趣意であります

◉富國强兵

明治二十四年四月東京學士會院講演

余が今日諸君の淸聽に達せんとする所のものは、富國强兵の問題なり、此問題に就き一片の疑團常に余の胸間に横はりて未だ釋然たらざるものあり、されば此富國强兵の語の稍々古めきたる感あるにも拘はらず、爲に今日茲に一問題として講述することゝはなりぬ

全體此富國强兵の文字は甚だ品格の高尙に且つ壯美にして、誰人も此文字を視、此音節を聽かんには、知らず〳〵愉快なる感情を惹起するを覺ゆるものゝ如し、而して富國强兵なるものは、偶然に現はるゝものに非ずして、人智の進步文化の發達より來る

結果なることを忘るべからず、又此熟語は西洋の書中に余は未だ見當らず、未だ此の如き珍重なる文字あるを知らざりき、今此熟語の世間に顯はれたる時代を考ふるに、管子中に見え、餘程往古に屬するものにして、殆んど二千餘年前に現はれたるものと思考せられたり、余は少年の時より富國强兵の文字を視もし聽きもして大に愉快を感ずると共に、亦一の疑團を生ずる茲に年あり、故に今日諸君と之を講究せんと欲するなり而して此富國强兵には其因りて起りたる本源なかるべからず、於是余は其本源に遡りて聊か說明を試みんと欲するものなり、抑々富國强兵なるものは唯一の原因に基くものにあらずして、數多の原因より來るものならざるべからず、之を花に例せんか、彼の爛熳愛すべきの花、團々歡ぶべき實は、其始め種子より芽を生じ、莖を長し、幹を成し枝を岐し花を開き終に實を結ぶ、其間數多の歲月を經過し、數多の境遇に遭逢せざるべからず、此の如く種々の原因種々の事情相集まり相積みて、一個の結果を呈するに至りしなり、今や富國强兵を講述する、亦其本源其原因の數々を述ぶる必要あり、されば一席の講演に其全體を說明し得べき限りにあらず、今日は其一端を辨ずるに過ぎざれば、豫め之を諸君に告知し置くべし

富國とは國を「プゲン」にすることなり、「身代をよくすること」となり、貧乏にならぬ樣にすることとなり、强兵とは敵に對して負けず、戰ふて强きことなり、西洋に於ても「ストラテジー」なる書あり、此は孫子の如きものなり、其中に說く所を見れば、軍は相撲の如く對手を「ギユー」とまでいはするものなり、即ち敵を負かすと云ふことなりと云へり、管子の治國篇には、民事農則田墾、田墾則粟多、粟多則國富、國富則兵强、兵强者戰勝、戰勝者地廣、是以先王知衆民强兵廣地富國之必生於粟也、云々とあり、荀子の富國篇の中には、足國之道節用裕民而善藏其餘節用以禮裕民以政、彼裕民故多餘裕民則民富云々、上以法取焉、而下以禮節用云々、輕田野之稅平關市之征省商賈之數罕興民役無奪農時、如是則田富云々、上好利則國貧、士夫衆則國貧、工商衆則國貧、又云先王明禮義以壹之、致忠信以愛之、尙賢使能以次之、君子以德小人以力云々とありて、其書中實に最高至深の議論甚だ尠少なりとせず、此の如く富國强兵の趣意を陳べたり、此等は皆多少の差異なきに非るも、概言すれば二子共に治國平天下の一大良案は、禮義廉恥の至尊至貴なることを、國民全體の腦髓に刻して、之を實踐躬行せしむるの勝れるに若かず、富國强兵と貧國弱兵との、一は愛すべく樂むべく、一は忌むべく悲むべき境界を表はすものは、唯々此禮義廉恥の履行せらるゝと否との差異に在りと云ふものゝ如し、以上は古代の狀態に過ぎざるものにして、直に之を今日に適用せざるべからずと云ふにあらざれど

も、其時代の有樣より考察すれば、誠に然もあるべきことゝ思はるゝなり

然るに吾人人類世界の常理として、古今の差異は歲月を經るに隨て變轉し、恰も別世界の觀を呈するに至り、し、我日本の如きは海國にして接壤の國あることなし、特り別天地を爲して久しく世界列國と交親の道を絕ち、開國三十年にして、俄然歐米各國の文化交通の競爭に遇ひ、內外の事情に因り、勢ひ國家の富饒を增益して、兵の强盛を計、盡せざるべからざるに至る、然りと雖も富國强兵は建國の目的にあらず又立國の大本にもあらずして、其目的たり其大本たるものは、其國土をして野蠻の境域を去り文化の高度に達し、以て人民の福祉を享受せしむるにあり、故に富國强兵は治國の一手段に過ぎざるのみ、國政の一方便に止まるのみ、別に一大目的の存するあり、今日世界の文化開明の大勢なるものは、敢て人力の知、悉し得べきものにあらず、敢て學術の研究し盡すべきものにあらず、否人力を以て悉く知るべからざることを知るは却て、學問の効用ならん、故に此大勢は人力の得て動かすこと能はざるものなり、此知るべからず見るべからざる大勢は、常に世界に流行し、社會を支配して、廣大なる社會を建設せんとするものゝ如し、それ大なる社會は大なる欲なり、大なる欲は大なる社會なりと云ふ如く、小欲に安じ小社會に止まるべからず、此大欲なるものは文明開化の原則人類の本分として、爲し得べく造り得べきだけの事を成就せんと欲して常に孜々たり、凡そ學問技術を進むるは何の爲めなりやと云へば、能を用ひ智を竭し德を大にして、人生文化の道を開きて以て人々「ヨクナラウ」とするに在り、亞米利加の發見なり、引力の發明なり、鐵道汽船電信凡百の奇機妙法等、是れ皆「ヨクナラウ」とする工夫に外ならず、物を以て宇宙を解釋せんとする唯物論者も、心を立てゝ自然を說明せんとする唯心論者も、物心二元を抱容して非物非心の本體を立て、無形無象の理想を主張する哲學者も、此「ヨクナラウ」を離れて將た何物をか求めんとする乎、人類は常に其能力の及ぶ限りよくならんとし、啻に自己の爲に計るのみにあらずして、又他人の爲に計らんとするものなり、其自らの爲に計るもの他の爲に計るもの、畢竟自他互に「ヨクナラウ」とするに在るのみ、故に大欲なり、出來得べきだけの事を爲すなり、苟も人類として社會に生存する以上は、斯の如くならざるべからざるものならん

而して社會に現はれ來るものは、固より一定の形象を以て出沒するものにあらず、種々雜多の模樣を呈するものなりと雖も、此大欲を發し、文明を致さんと欲し、幸福を求めんと欲し、「ヨクナラウ」と欲するに外ならず、然れども人世の常情として免れ難きものは、一利一害一得一失亦如何ともなすべからざる人世の境界にして、此大欲を成就

せんとする途中に於て、種々病弊なるもの生じ、色々の妨害なるもの起る爲に、之を除き之を禦がんとて、又種々の學問起るなり、然れども學問の智識のみ發達して、道德衰頽するに於ては、決して此病弊妨害を除去すること能はずして、遂には必ず富國の源流を壅塞し、必ず强兵の根本を薄弱ならしむるに至るべし、人類は未だ完全無瑕なるものにあらず、甚だ弱點多きものなるが故に、其間に現出する事柄は、悉く善行美事のみにあらずして、色々の害惡病弊を見るに至る、此弊害を掃除するにあらざれば、人間は充分に能力を運用して、文明に進むこと能はず、國も富まず、兵も强からざるなり、依て智識の發達と共に感情の發達を計り、平等一樣に進步せむことを要する所以なり、此妨害此病弊は、既に前進なる文明國先覺者なる歐洲學士の發見する所にして、後進なる日本國人は、宜しく之を鑑みざるべからず、宜しく之を戒慎せざるべからず、日本の開明は歐羅巴より後れたり、爲に其病弊妨害を發見するに於ては、漸次に之を除去するの方法を盡して、成るべく之を減縮せざるべからず、之を除去し之を減縮して、ますべしと信ずるなり、之に依りて以下邦國の常態及び其病弊妨害の次第を追ふて列載し、試に拙解を附するなり

〜文化の境域に進步するときは、國も富み兵も强きに至るは、甚だ視易き道理なる

○國とは土地と住民とに因りて成るとの普通の學理に據りて言へば

我が日本國の地球上の位置世界の關係　それ人の健全なる模樣を知るにあらざれば其疾病の何物たるを認むるに由なし、故に今弊なく累なき單に國と云ふ所謂健全無病なる國に就て一言せん、此國のことは昨年十一月本院に於て講述せしことなれば、其詳細は姑らく之を措くべし、全體國とは土地と人民との二者相待ち相依りて成立するものにして、其一方を缺かば國にあらざるは誠に視易き道理なり、此普通の學理に基き、日本國の地球上の位置如何を考察するは必要なり、土地は一定不變なるものにあらずして、始終增減ありて地質地脈は多少變化するものなり、去れば數千百年の後は果して如何の狀態を見るべき乎、是れ地質學者の宜しく研究すべき問題ならん、兎に角其位置を知るは甚だ緊要なることにして、併せて世界交通の關係をも知悉せざるべからず、又其關係の便否如何をも認知せんことを要するなり、近く例せばスエスの地峽開鑿以來、歐米各國の東洋諸邦に及せし影響はそれ如何ぞや、其土地人民に何等の趨勢を感觸せしめしや、其風俗習慣に何程の變動を現出せしめしや、其他航海交通貿易は、我が日本國に如何なる關係ありや、我が國利民福の上に如何なる利害ありや、是れ吾人日本國民の宜しく深思熟考せざるべからざるところなるべし、又既

にバンクウバーの航海も始りたり、而して數年ならずしてシベリヤ鐵道の成功を見んといふ加之パナマなりニガラグワなり、航路開通するに至らば、東方亞細亞の海岸、年に月に航海交通の頻繁なる其狀勢其結果は果して何邊に波及すべきや、是れ我國の大問題ならん、此影響此結果は、歐米支那の人民が益々我國に關係を及ぼし、東西人の交際錯雜を致し、隨て種々の出來事を生ずべし、故に此航路は東西の交際を頻繁にし、大に我國の盛衰に關係あるとにして、近來新聞紙上に續々論載する所なり兎も角も我に於て第一着に、海外貿易の隆盛を計畫する大手段起らん、機失ふべからず、機再び來らず、實に今日は我國に於ける一大好機なり、我國人は此好時機を看過せず、此機會を利用するに敏なるべし、是れ豫め事の視易きものなれば或は、我が海濱を相して大に至便の港を開き、荷物貨藏を建設し、各國の船舶に便利を與ふる等大計畫あらん又我が一個の商人にしても、物産工藝雜品等の販路を開き、功ある者には、勸賞を與ふる樣の方法、種々奬勵の事も興るべし、今日は官吏のみならず一個の商人をも尊ばざるべからず、是等のことは自然に起るものなるべきも、政府より之を勸めざるべからず、而して是等の手段方法は、固より多々あるべし、又一方よりは、天文氣象ジオデシー造船機械等の諸學士を奬勵し、其研究の功によりて邦家の光榮を赫灼たらしめ、國民の福祉を增進せざるべからざるなり、

○茲に一國の住民に就て學理上の論を措き、其實際上より政治に關係することを左に述ぶべし

住民は國の重みなり、國の目的なり、土地ありて移民なければ國にあらず、住民ありて國に重みあり、又國の目的とするところは國民に外ならず、國の威權は國民の上に存するものなり、又一國の重大事件を施設せんとには、國の住民に據らざるべからず、此故に國民の員數國民の有樣(例へば男女婚姻、夫婦、出生、死亡、の類なり)及び國民の諸職業諸事業は、政治に於て最も必要なるものなり

國民の經濟上相互の關係　是亦重大なるものにして、國の住民と土地自然の位置の關係は、此國民經濟の活潑を致す基本なり、源流なり、山よりは鑛物木材を産すべく、海には魚鹽を出すべく、田よりは米麥を獲べく、畝にには桑茶ありて、混々として涌き來るにあらずや、若し又我が海を大に利するに至らば、無盡の富を開くならん、此富源を利用する吾人の能力未だ充分ならざるも、將來遂に其盛況を視るに至らん

國の富　は國民自から造るものにして、其富により國民相互の生活を經營して其繁榮を致すものなり、今日にして譬を取らんに、我が國人の年々消費するところ、其幾十

億萬金なるを知るべからずと雖も、假りに一人一ヶ月三圓とするも、之を四千萬の人民と見做すときは、實に巨大なる金額なるべし、今政府の歳入を假り來りて、其一ヶ年の額平均六千五百三十餘萬圓とするときは、廿三年間にして十五億萬圓餘となる、若し之に府縣税町村費を加ふれば、更に幾億萬を增加すべし、是れ我國人が年々此富を作りしは疑ふべからざる事ならむも、又其大半は今日文明と稱する物の價と云ふも强ち不可なかるべし、去れど我が國人にして、誰か今日の文明の程度に安んずるものあらむ、益々進んで文化を求むべければ、向後其幾十億の富を要すべきか、又是れ我が國家の大問題にして、種々の改革を來すべし

個人は孤ならず自己あり、故に他人あり、他人無かりせば何れにか自己を求めん、自己と他人とは相對的のものなり、相對物なるが故に必ず自他の關係あるは論を待たざるなり、人々其生活する場所に關係あり、其生活する時代に關係あり、其共に生活する他人に關係あり、人類の此社會に生存し、此國家に棲息する間は、此關係を免かるべからざるなり、

○個人所作の關係

身體の躾方　は我が國に於て何れの時代に始まりしか知るに由なきも、男女共に膝を屈して坐し、小兒を背に負ふ習慣となり、又尊者に對して平身低頭を以て禮讓の厚きものとし、此禮を享くる者も自尊の風習をなす、自ら脊僂み膝屈して身體自然の發育を妨げ、身の長けも二三寸許りは短くなるべし、世開けて歐米の腰掛け風の人種と交通するに至て、比較的に國人の身體不恰好なるを發見し爲に識者の其弊害を論じて之を改良せんと企てたることあるも、古來因襲の久しき容易に此風俗習慣を矯正すべきにあらず、且つ外界の事物皆之に伴ふあり、家屋什器衣類一切坐するに便宜なる模樣に構造せらる、今坐居の風習を改良せんとならば、一切の家屋什器衣類までにも變動を及さゞるべからず、是豈に輕々爲し得べけんや、是等は言ふべくして行ふべからざる論に過ぎざるなり、然れども文化進歩し人の智と富と發達するに至らば、或は此習慣を改良し得べき望みなきにあらざるべし

智慧の躾方　此躾方は幾多の歳月を經たる後に始めて其結果を見るべきものにして、幼稚なる小兒が能く書を讀み能く字を書けば、親も之を喜び他人も之を譽むると雖も、決して一時の怜悧を以て其人一代の知能を速斷すべからず、多少の年月を經過して、其知識の利鈍を徵すべきが如し、近く例せば明治維新の前後、國政の改革に從事せし人は、多分天保弘化の間に生れ、和學、漢學、武道の躾方にて薫陶せられ成長し來る

ものにして、而して彼等の履歴擧動は維新の歴史に明かなるべし、然るに明治の初め我が國人の知識の躾方全く一變して、教育上の一大革命となり、西洋の學問頓みに振興し、彼國より數十名の教師を招聘して、各科の學術を教授せしむ、此時に當りて弘化の末嘉永の間に生れ、二十歳前後の有志者は、相爭ふて此學問を研究し、或は官立學校に就く者あり或は私塾に入る者あり、或は歐米各國に留學する者あり、明治五六年の頃には、留學生の員數凡そ五百名程に及びたりと思ふ、是に於て古風の教育は殆んど廢棄し、和漢學は毫も勢力を有せず、滿天下の青年皆歐學研究の一端に傾向せり、時又歐字を讀み歐書を講ぜざれば、更に青雲の志を遂げ能はざることゝなれり、斯の如く新日本の薫陶を享け、明治文明の教育に人となりし其人々は、今や年長じて博士たり學士たり事業家たり、官吏たり、其野にあると朝にあるとを問はず、文化の事業を執る人幾百名に及ぶべし、殊に著しき證跡は衆議院議員に於て之を視るを得べし、其議員にして三十一年より四十年までの人凡そ百三十餘名に達せり、而して議場の擧動なり議論なり勢力なり、平均にして此等の諸氏の多く占有する所なりと云ふ、是れ維新以來の新教育智識の結果ならずんばあらざるなり、爾來天下の青年子弟の或は原書に就き、或は翻譯書を假り以て西洋の學問を研究し歐米の新智識を得んとする者、日に月に增殖して年々幾萬人の多きに及ばんとす、其多數の者は世の流行に誘導せられ、政事法律等の理論を貴び、實業を賤み、漢學者流の古風に復せんとすと、或は然らむ、其因あれば、其果あるなり、特に疑ふ世間には智育に德育を加味調合して以て智慧の躾方を得たりと考ふる者無きにしもあらざるべし、斯の如くなれば智と德とは錯雜混合して、所謂「ドチラツカズ」の人物を養成し、德も眞の美を顯さず智も眞の能を開發する能はずして一種變性の結果を後日に見るに至らんとす、余は教育家にあらずと雖も、自ら經驗し來りしことを講述して、智惠の躾方の解となす

風儀及び宗教の躾方　風儀と宗教とは大に異なるが如くなれども、其本源を尋ねれば一個の道德に外ならざるべし、風儀なるものは道德經濟土地氣候等互に相關係して、內部より外部に啓發したる結果なり、茲に二三の實例を擧ぐれば、明治維新前の風俗は男子は男子と同行すれども、婦女とは同行せざりしなり、假令夫婦たりとも男女相携へて大道を通行するが如きは、世間を憚かり自らも耻なりとせしが、然るに歐米人の寄留するに及びては、此風儀漸次に消失して、男女同伴は平常の事として、誰人も異樣の感を起すことなく、世間の許す所となりしは、是れ或は人情の自然なるべし、昔の風は野にして今の方は文ならむ、彼の夫婦の威儀正しく、馬車にて行くは優美の風

あれども、男女人力車上に相乘するが如きは善き風體とも評し難し、元來人力車なるものは文明の具にあらず、新聞紙も曾て屢々之を論せしことありしも、慨くは我が國人今日の智識經濟の許さゞるを、余も今日本院に參會するに亦少しく人力車の厄介を免るゝこと能はず、爲に自家撞着の譏りを甘んせざるべからざるこそ可笑けれ、其他頽被りの風體、湯場の有樣、子供を誘引し金錢を貪らんとて、大道を徘徊する飴賣の野鄙異樣なる惡風、(百餘年前或る醫者の策せしことなりと云ふ)喰物店の軒を並べたる有樣、酒宴の果、されど立食の雜沓も面白からず、工夫はなきやと噂せり、其他唱妓藝妓の風俗など、陰に陽に文明風儀の躾方に改良を望むべきもの多からむ、近頃書生がヘコ帶を廢して袴を着くる風になりしは勇々しくて善しと人は賞せり

婚禮の式は今も昔の式に習へるは、改正を企つべき不體裁なきに因るならむ、(西敎信者は特別なり)但昔のは繁に過ぎたるを、今日は稍々簡に趣きたるのみ、儀式は事を祝する形樣に止まることなれば、世間の許す所に從て可なり、(離婚多ければ祝儀も法律も無用の長物になるべし)次に葬式に至りては、大に狀況を異にせるものあり、神葬式あり、佛葬式あり、西敎式あり、是れ宗敎の性質歷史の如何に關する躾方に起因せしなるべし、抑々世間の謂ゆる吾人人間の靈魂と稱するものは、不死不滅なるものにてあらんか、神に化するとせんか、昇天するとせんか、輪廻轉生するとせんか、將た又消滅して空に歸するものなるか、是れ古來哲學上の一大問題にして、今日之を證明する知識を有せざる以上は、宜しく各人の信奉するところに一任するの外、何等の權力か之を制裁することを得んや、されども吾人人類は誰か人の死を哀まざるものあらんや、(支那人の如く泣人を雇聘して空泣せしむるは別なり)然るに近來貴顯紳士の葬儀あるとき、市人の四方より集り來り死者を弔ふにあらずして、觀場の物を視るが如くに、彼は立派なり、此は奇麗なりなど評すれば、葬式は愈々立派を競ふ風あり、以上道德宗敎の躾方の美なりや醜なりや、其美なり醜なり、一っの現象は夥多なる起因あることを知らざるべからず、茲に道德宗敎の躾方に於て、一例を引て之れが解を結ばむ、余曾て見聞する所あり、彼の普佛の戰は、兩國共に互角の勢ありしも、獨人のモーラルは遂に勝を制したりと、又彼のセバストポールの役に、俄兵三萬の朝暮ヶの戰に英の壘兵八千にして危急を凌ぎたるは、全く英國の自由心なりと云へり、今日は先づ之にて講演を畢るべし、富國强兵の說未だ盡さずして、此外經濟及世間の躾方、政治の躾方、人間社會の病、國病、經濟病、知惠の病患、政事の病患等數十條に及ぶべければ、追々演述することとなすべし、

富國强兵

◎富國强兵續

明治二十四年六月十四日東京學士會院講演

本日は正員に差支あり補員なる余が出席して、前回の續即ち富國强兵の事につき申述ぶることゝなれり、偖富國强兵のことたるや、既に前回にも說き明かしたるが如く、もとこれ一の結果にして、草木の着けたる花實とも見るべきものなれば、若し其結局の根原より、之が說明を與ふるが如きは、殆んど能くし難き所なるが故に、余が述ぶる所は、先づ幹ぐらゐの粗大なる說明と見てよかるべし、されば今日は直ちに前回に續きて經濟上の躾方に說き及ぼすべきなれども、これとても、素より之に關する書籍の存するにもあらず、國家經濟上の千狀萬態の現象を觀察すべきスタチスチックなる顯微鏡を缺くが故に、今述ぶる此條も畢竟余が多年見聞する所に因れば、必ず疎漏も少なからざるべし、諸君幸に之を諒せよ

全體經濟なる文字は、實に工合惡き文字にて、實際密に事實と符合せず、唯事柄の如何なることなるかを其心に知りぬれば事足れり、此經濟の躾方は國家の經濟上に於て、色々樣々の種類あることなるが、之を一々枚擧するときは數限りもなきことなれば、今は唯從來言ひ習ひし士農工商につきて主もに之を說くべし、其外漁人鑛夫等も其躾方に違ひはあれども、此等は余が述ぶる所を見て推察する時は、大方は知らるべければ特に省きつ、神官僧侶の如きに至りては、直接に國家經濟上の躾方に關係を有せざるが故に、無論此には之を畧すべし

(一) 士族は我國維新革命前即ち封建時代にありては、彼の農工商業者の如く經濟上の躾方自活的にあらずして、大抵其祿を世々にし、其主人たるものによりて生活を營めり、されば士族は平常生活上に顧慮を要せざるが故に、其常に專ら心を用ゐる所は唯文武の二道にあり、武とは弓馬槍劍兵學の類にして、文とは孝悌忠信の敎より、治國平天下の道を學ぶをいふ、其一心なす所斯くの如くなるが故に、其志氣自ら高ふして、禮義を重んじ廉耻を守り、金銀財寶のことに至りては、更に意を止めざるのみならず、痛く之を賤みて、語若し利得のことに及べば、商賈の事として甚だしく之を卑下したり、現に余の如きもペルリの渡來以前に於ては、屢々これ等のことを實驗し、余の西洋のことを談ずるや、曰く其說はすなはち命を聞く、唯利得のことに至りては頗る取らざる所なりなと言はれ、大に赤面したることもありたり、而して士族たるものゝ經濟上の躾方は、常に奢侈を戒め質素儉約を守り、麁衣麁食にして、木綿の衣に木綿の脊裂の羽織を重ね、木綿の袴を着し、絹布を用ゐることなぞは、人をして柔弱ならしむ、いと奢りの沙汰なりとて深く之を禁じたり、かゝる修業をなしかゝる境遇に於て生活し

來りたる所の此士族は、一旦時運の變遷に際會し、祿高三百六七十萬石を有する三十四五萬の士族は、(改正前の祿高と其人數とは詳かならず、又勳功ありて文武の官職に在る人は例外なり)其祿高の金祿公債證書に換はりしかば、爾來自活の道を求めざるべからざる場合となり、隨て或る生業を見出すの必要を感ずるに至れり、去りとてかゝる習慣に馴致せる士族が、今遽かに職工とならんか、多年の間職を修めざれば能くすべからず、農とならんか耕耘の業に習はざれば又能はず、且二者共に士族より見れば其業の賤しき嫌ひなきにあらず、されば一見其業體も賤しからずして、利益ある者を撰みて、之れに就くは人情の自然として營利社會に入りて商賣を營む者も多かりしが、人世の運不運、幸運に遇ふ者は稀れにして、不運に遇ふ者は多し、元來士族は金錢の事には迂濶に養育せられ、賣買の氣轉駈引なぞは最も不得手にして、或は商賣の競爭に失敗し、或は狡猾詐僞の手段に罹りて破産し、或は自ら禍を招く等數知れず、是れは論外として其救濟法に就ては、政府も非常の盡力あり、又民間の有志者も切に助力せしが、如何せん家族を合すれば幾千萬とも言ふべき大多數の士族、其餘燼の及ぶ所大に國家の經濟上に波瀾を起せるなるべし、是れ畢竟經濟上の躾方に、消極と積極との理あるが故なるべし

(二) 農は諸君の知れるか如く、百穀を種ゑ、桑茶を植ゑ、牛馬を畜ふ等のことをなすものにして、其業とする所の目的は主として自然の利にあり、故に天然時節の來るを俟ち、自然が與ふる所の收穫を得ざるべからず、故に其業にしたがふものは、常に自由進歩よりは舊慣保守に傾くの狀態あり、且つ農業上にありては、天災饑饉時に至り、旱魃水害數々來るが故に、古來の經驗上よりして農人は自ら豫備の念慮を生じ、貯蓄を務めたるの習ありと雖も、其日に勞動する所は如何なる所ぞといへば、多くは廣漠たる原野にありて、遠く都會の地を離れ、都會日新の經濟上の實況を知らず、其感ずる所の關係も至て薄きことなれば、農家は經濟上の躾方に於ては、迂遠にして注意の厚からざるは、是れ其業柄の然らしむる所なるべし

(三) 職工は其初めは弟子入と稱し師につきて職を修め、後普通の職人となることを得て、中間入をなすを常とす、別にかくすべしといふ規則書もなかるべけれども、古來よりの習慣にてかゝるものとなり來れるなるべし、而して其弟子たるものゝ父母は、多くは中人以下のものにして家産の少きがため、如何にもして其子の後來を確かにせんとの愛情(義務とは云はず)よりして、何職なりとも手職さへ覺え居らんには、其身の生涯に衣食の不自由を感ずる如きことあらざるべしとの考よりして、終に種々の緣

故手づるを求めて、大工左官其他意に適ひし其者を師とたのみて弟子づけ、此に約束を整へて其職業を習はしむることゝはなるなり、而して其弟子となるには自ら年期あり、即ち普通七年を以て定めとし、なほ其他三年間は禮奉公として師の職を勤むるを常とす、斯の如くにして師弟の間互に相扶け相親み情好至て厚く、時に相睦しからざるものあれども、これは例外なり、漸く十年を經て遂に獨立の職業を營み、愈々自活の道につくことゝはなるなり、故に職工は多く幼少よりして師の家に養育され使役されたるものにして、其師たるものも亦之と同樣の階段を經て成上りたるものなれば、つまり其師たるものも之に隨從せる弟子たるものも、共に無學文盲なりしと雖も、されども自己のとる所の職業上に於ては、同門の弟子中に於ても又其他のものに對しても、自ら競爭の念慮ありて、藍より出でゝ藍より青き名人の出づることも亦少なからず、然れども此等職人に取りていと惜むべきことこそあれ、そは何ぞといふに彼等は既に自活に資すべき一箇の職業を其手中に有せるが故に、其所有の職業を活用すれば、何時とて其生活の道に迷ふの憂なきが故に、遂に金錢を以て我が手中に在りと安心し、日常得る所の賃錢は多く用なき事に費すも、貯蓄などの考乏しければ困究に陷り易きもの多し、これ畢竟彼等に德義上經濟上の敎育なきに因するならん、これ獨り我國の職工に於て然るのみならず、西洋に於ても亦同樣の有樣に陷るもの多しといふ、此に於て乎其得る所の幾分を貯金せしむるの必要起る、蓋し貯金は其人をして大に儉約ならしめ、德義を養はしむるに與りて力あるものなり、されば其人員の多くして貯金の多き國は、儉德の行はるゝ國として見らるべし、全體職工は唯々其影響の國家經濟上に及ぼすのみならず、又頗る國の光榮を添ふるものなれば、最も當に吾人の心を注ぐべきものなり、近來諸科の學士の率先して職業敎育を奬勵さるゝと聞けば、正に舊來の弊風を一洗して、文化の職工品位高き實業者の輩出するの望あるなり

(四) 商とは何ぞや、曰く需用供給の間に立て人の日用缺乏する所を補ひ、其相互を滿足せしむるものを商といふ、其業たる專ら實際の熟練を要し、學問上の理合を應用して之れを日常賣買の上に活用する者にして、社會の模樣貧福の有樣を見、人氣を察し相場を考へ、其他堪忍を專らとし丁寧親切にして客の心を迎へざるべからず、而して此等のことの學問上より得ること能はざるは明にして、却て丁稚小僧の此點に於て發達せるものあるは吾人の知る所なり、されば商人とならんとするには舊慣にては丁稚奉公と稱して商家に養育せられ、一定の年期中篤實勤勉にして商事に習はし

め、滿足につとめ上ぐれば主人はこれに資本を與へ、暖簾を與へ且つ得意先をも分ちて自由に其業を營ましむ、或は番頭として主人の代理をなさしむるものもありしなり

凡そ商は物品の良否を判別し、時價の高低賣買の駈引を見、特に世人が之を認めて確實なりとして怪まざるの信用正直を重じ、又時々刻々に變ずる所の相場につきて十露盤を手離さず損益を考へ以て其生活を送るものなれば、其用心至て深く節儉を守るの風自然に經濟の躾方に習ひてぶんざいならず、人の祿によりて其生を保ち文武の道によりて其精神を高尚にせる士族輩の商法とは天地霄壤の差ある所以なり、且つ商人の眼前には勝敗損益常に死活の際に處して已まざるが故に、機をみること自ら敏捷に、其利の在る所を知れば身命を顧みず、冒險大膽の勇氣を發し、危き所これ金のある所なるを覺悟し、必ず功を得て後止む、又かゝる眞正なる商人なる者は只利を己に收むるのみならず、萬金を投じて他人の益をなすものなり、古來其人多し、商人の動作の機敏を惡すること、冒險の勇氣を要すること此の如くなるを以て、或は一朝俄然失敗して身をほろぼすもの亦なきにあらず、其進退の活潑なること幸ね此の如きものあり、商の躾方は余の知る所にては先づかゝるものなるべし、而して一旦其國家の變亂、政體の改革等のことあるに遇ふと雖も、公租を出して國費を辨じ、國に務めて家業を數代に傳ふるものは商家と農家なり、是れ全く經濟の躾方の宜しきの致す所に外ならざるべし、例へば德川氏三百年間太平の末一時に破れて政治上の模樣に一大急變を生ずるや、他のものは遽に路頭に迷ひ下りて乞食までもなりしものありしにも關らず、割合に商人と農人のみは今日に存するもの〻多きを見て知るべし

蓋し我國維新復古の大改革なる者は、啻に外形事物上に於て著しき變動を現はしたるのみならず、又深く無形思想上の改革をなしたるものなることは疑ふべからず、而して此改革たるや世界の革命中に於ける特異の例として見るべきものなるが如し、何となれば西洋列國の革命を見るに其改革の主動者となるものは皆國民なれども、我國は之に反して其主動者は却て政府其地を占めたり、即ち上より命令的に人民を誘導したるなり、されば東西の革命は恰かも順逆の差違ありといふを以て、或は大に我國の後事を危むものなきにあらず、然れども若し夫れ國を文明の域に進むるには其主動者の政府たると人民たるとに於て何かあらん、今日の所にては其結果未だ明ならざるが故に、未だ此等の論者のいふ所に信を置きかたし、然れども我國民經濟上の躾方に俄然大變動を起したるは爭ふべからず、先づ封土人民奉還に次て士族の常

職を解かれ、農工商も其舊慣の束縛を免れ、天日は自由の世となり、此に於て乎殆んど三百年の長日月間傳へ來りし所の習慣は、遽に反動の勢を起し之を嫌忌することゝなり、其新奇の情性を誘ふて最も當時の人心に適合したるものは即ち西洋の新說なりき、自由權利の理論なりき、此西洋の新說自由權利の新理論は、漸く益々流行の區域を擴張し、之と同時に舊來の質素儉約の習慣も亦之を破却し去り、漸く奢侈美麗なる西洋新經濟の世態とはなれり、時勢既に此の如くに至れば、弟子丁稚小僧迄も自ら其風を變じ、工商間に行はれし舊慣も殆んど瓦解せんとすと云ふ、抑も我國の人士は古來よりして、漢學佛學の如き無形道德上の敎育により精神を高尙になせし風あるが故に、西洋の新說の入り來るに當りても、先入主となり、自然無形の理談專ら流行し、殊に民權自由平等權利義務の理の花やかなること、遙かに古來儒佛の說の上に出づるが故に、最も靑年輩の喜ぶ所となり、遂に少年子弟が其父母に對して義務を責むるものゝ子のあるに至れりといふ、例へば子にして親の其子を敎育するは、これ親たるものゝ子に對する義務なりなど主張して學資を要求するが如し、加之學者も亦此理を主張して其義務を唱ふるに至れるなり、思ふに此等論者の稱ふる所をきくに、其理固より當然にして、人は義務の體と云ふ最高の道理には、一言の之に反對すべき樣もなきことながら、若し其道理を推せば權利と義務とはもとより相分離すべからざるものにして、權利あれば必ず義務あり、義務あれば必ず權利あるべきものなるに、今父子の場合に於ては、父は唯義務者にして權利なく、子は唯義務なき權利者たるものゝ如し、換言すれば權利者は生產する能はざる少年子女にありて、義務者は生產的の老父母是なり、夫れ老年者の年々に衰へて減少に歸し、少年者は年々に增して其數を加ふるは理の視易き者なり、然らば今日の此無義務の少年者が眞に責任を知り義務を負ひ、國家の繼續者となりて、經濟上の躾をなさゞるべからず、而して此等の繼續者は果して如何なる經濟の躾方をなすべきか、英に倣はんか米に從はんか將た佛か、兎に角今日の有樣は新にあらず舊にあらず混雜の時にして、未だ確然たるの緖に就かざるが如くなれば、唯今日無義務の少年者が立ちて、社會の生產者となり繼續者となりて、更に經濟上の躾方に一新面を創始するを俟つの外なかるべし、然らば今日より此等少年の生產者と成るに至る迄の間、我國の富に如何なる影響を及ぼすべき乎、これ亦講究すべき一大問題たり

茲に一例を添へて此條を終らん、これもとスタチスチックの學理と方法とによりて、社會總體の年齡に分量性質の二種ありとし、此二種の理に本づきて作られたるものな

れば、多少の差は起るべきも大なる違はなかるべしと信ず、其類別數件に過ぎざれども、之を熟視すれば其數字上に活氣を生じ、其常態の大要を知らん、又之に就て更に種々なる調査の必要を感ずること多からんか、因て假りに我國人の員數四千萬と定め、性質上にあらずして、生産と不生産の上より年齢を區別すれば左の如し

但し十五歲より二十歲迄は、或は之を生産者と見る人もあるべし、又見ざる人もあるべければ、姑らく此年齢の條を除きて取捨は讀者の意に任すべし

初生より十五歲迄	千三百四十六萬四千人	不生産の年齢とす
十五歲より二十歲迄	三百八十八萬八千人	
二十歲より六十歲迄	千九百五十五萬二千人	年齢中充分なる勢力ありて職業を營み得べき者とす
六十歲より七十歲迄	百九十八萬八千人	勢力の次第に減少する年齢とす
七十歲以上	百十二萬四千人	再び不生産の年齢に歸する者とす
不生産者	千六百五十七萬六千人	
生産者	千九百五十五萬二千人	

此比例は生産者一人につき不生産者八分四厘二毛に當る

右生産の年齢にして、正業を營むもの益々多ければ、國益々富榮を致すべく、之に反して不正業者益々多ければ、國自ら貧弱に陷るべし、不正業者の種類の如きは別に述ぶべし、讀者自ら撰ぶ所あるべし

◉富國强兵續　政事の躾方

明治二十五年一月十日東京學士會院講演

この躾方の事は富國强兵に大關係あるものと思はる、政權の葛藤よりして內憂を釀し外患を惹起すこと其例多し、これ政事の躾方の善惡によるなり、政治の事は道德と混合すべからず、和漢の歷史には道德と政治との區別なく、動もすれば道德を以て政治を褒貶して、政治の美を湮滅することなきにあらず、故に道德は道德として見、政治は政治として見るは當然なるべし、この段は道德を離れて政治の一偏より論ずる積にて唯其大要を述ぶべければ、此に一言して諸君の注意を乞ふなり

東西古今に特殊なる我日本帝國に於ては、建國以來幾千年の間、我が國民は唯一の帝室を戴き、帝室も亦た唯一の臣民を愛育し給ふ國體にして、政事の躾方も自然の必要より發達して、殆んど君民同治の政體を胚胎し來れるが如し、爾來源平兩氏の時に至て始めて一大政黨の形をなし、源氏は白旗を翻し、平氏は赤旗を翻して、兩氏互に政權を爭ふたるは、恰も後世の外國政黨の所爲に似たる所あるが如し

鎌倉源氏は豪毅なる專制爲政者にして、獨裁專制者にあらず、國亂を治め一統の功を奏し、賦課均一の法を取れるが如し、租稅の重きは之を減じ輕きは之を增し、其治功大なれども功に誇らず、帝室に恭順にして僭越ならず、この專制者は壽命僅に十有餘年なれども、其專制政治の模範を後世に遺せり

鎌倉北條氏は剛直なる保守政を取れり、躬自ら天下の事情を知ることを勉め、勤儉の道を守り、是非を明にし、寃枉の事なからしめ、公私の分を分ち、式目を作りて治國を計れり、特に彼の元寇の時國難に遭ふと雖も內憂なく、確乎として國權を守り國威を辱しめず、神風の加護ありと雖も又その掃攘の功大なり、これこの保守政治家が我が日本の爲政者として名譽あるべし、されどもこの保守者は百四十餘年の長壽を保ちしかば、老年に及びて驕倨なる專制の弊に陷りて亡びたり

足利氏は專制に似て專制にあらず、獨裁專制の風ありて其實權を握ること能はず、源氏の餘慶に賴りて其模範を守ること能はず、內に夸虛を張りて外に阿諛し、國政治る時なし、足利氏は二百餘年の長壽にして、老體に及ぶに從ひて失政愈加はり、遂に國家をして無政府に陷れ、所謂應仁の大亂を釀成し、この時より政權愈活動し、門閥を離れて民間に移り、賤夫も之を掌握することを得るに至れり、非常の時は非常の人の世に現出するは天則の如し、織田豐臣德川踵きて起り、撥亂反正の功を遂ぐるに汲々たり、織田氏は銳氣專制の爲政者にして改革に切なるが如し、大亂の餘英雄割據の時に當り、天下麻の如く亂れ、政權地に墜ち、之を恢復することを圖り、英雄駕御の大才ありて、治國の志向尤も深かりし、其大業未だ成らずして不幸短命なりし、其天使を辱ふせしより凡そ二十一年にして終れり、この專制者は政權を重んじ治國を圖り、皇室に對し國民に對する所は、克く鎌倉源氏の所爲に似たる所ありしなり

豐臣氏は匹夫より武權專制者となれり、專ら武功を重んじて政權を輕んじ、治國の功績見るべき者少なし、唯武功に誇り與奪の權を過用し、當時武威を海外に用ひたるは勢已むべからざる事情ありしならんと雖も、善後の策なくして內外に禍害を遺せしは、武權專制者の常として萬國歷史の敎ふる所なり、獨り豐臣氏の遺物として後世最も稱する所のものは大阪城なり、豐臣氏は非常の時に非常の偉男子の生ずべきを我日本の歷史に遺せりと云ふべし

德川氏は世に獨裁專制者なりと爲す者ありと雖も、余は武門保守の爲政者とす、而して其撥亂反正の功を奏せしより、茲に二百六十七年の長壽を保ち、其間保守の政權を維持するの嚴正なるに因り、專ら文恬武熙に流れて改進赫々の功績に乏しと雖も、國

內の實力を養成せしは亦少なからざるべし、概して言へば國家二百六十七年の治平を保守せし後、大政を奉還して終りを告げしは、皇室に恭順にして國民に信義ありと謂ふべし、是れ保守爲政者たる所以なり、而して今日より之を觀れば鎌倉以來八百年の間、武門の爲政者にして德川氏の右に出づる者無くして、我が封建の末期平和に茲に終れり、蓋し萬國歷史中他に見る所なく、永く我國史上に政權授受の好き躾を遺せりと云ふべし

維新の改革に由り封建の制廢せられ、武門專有の政權も全く皇室に復し、隨て漸次公衆をして之に參與せしむるの緒を開けり、明治初年五ヶ條の御誓文を始とし、八年元老院を置き、十二年府縣會を開き、十四年國會開設豫期の詔、皆公議輿論を諮詢するの聖旨に非るは無し、二十二年に及び憲法發布の詔勅を下し玉ひ、全國和氣雍々として萬歲を歌頌し、翌二十三年豫期の如く遂に帝國議會を開かれ、資格に應じ公衆をして政事を協議するの權を得せしむるに至れり

余窃に聞く西洋の學者爲政者が、我立黨政治の決行せらるゝを聞き、大に憂慮忠告するものありと、是れ誠に文明國士の友誼にして、我國人の深く謝する所なるべし、蓋し彼の國の士人が自國の活史に顧みて、佛國の如く英國の如き、政體の變革に不祥の蹟ありしを慨歎するに困るなるべし、而して我が國は歐の列國と異にして、歐の列國と支那とは、國體の創立頗る能く相似たり、歐の列國と支那とは、畢竟土地と人民とを以て國を立るが故に、彼國の帝王は氏姓幾代を轉換せしか知るべからず、我國は然らず、此事は一昨年當院の講演に於て家は國の本なりと云へる題中にも論せり、我が國民は萬世一系神聖なる皇室を戴き、皇室は大德大權を抱持して、我國民と我が日本國とを念慮し玉ひ、鎌倉以來八百年間世變一ならずして、或は專制の政を取り、或は保守の政を取り、幾多の爲政者を出すと雖も、皇室は時勢に應じ其民心を得るものに國政を授け玉ふ、政權者は國家の大事あれば、一々之を奏聞して敢て私に專裁せず、上を恭戴して下に信義を敷き、中間に立ちて國家の大任を一身に負ふの躾なり、鎌倉以來我が國の爲政者が新陳交代するの狀況は、恰も後世外國立憲の政黨首領の代謝するに似たる所あり、唯々昔は之れを干戈に訴へ、今は之れを政理政署に訴ふるの相異あるのみ、此の如くにして數百年來の躾となり、終に立憲政を施行し玉ひて、全國擧りて其惠に依り、怡々として萬歲を祝するに至れるなり、蓋し彼の國に斯る高尙微妙なる政事の躾方あるを知らざりしが故に、此杞憂を抱きしならん

今や我が國政の舊事業は殆んど廢滅に歸せんとし、其新事業は世界の大勢に相應し

て進歩活動するの時となりしか、古來我が爲政者の樣方の所爲に倣ふて發達すべきや、又一種の新機軸を造出すべきや、其機微妙用に至ては、將來我が爲政者の方寸に在りて存するのみ、茲に我が國政治の樣方は古へより斯の如く成り來りしと思ふ所を述ぶ

◎教育

明治二十五年六月二十五日本郷區教育會に於て

諸君に一寸御斷り申上げて置きますが私は教育の本を除り讀んだともございませぬゆゑ教育會にて演說をするのは甚だ諸君に對して耻るでございますが御勸めに依り平生考へて居る所を聊か申し述べましよう

一教育とは人間の諸能力を引出すなどと廣く申しますれば其通りで有りましようが先づ小兒が誕生すれば此廣漠無限の世界なる學校へ導かれた樣のもので無數の聲音に會ひ無數の物を見て之れに感ずる所の事即ち自然なり社會なり至る所の物は皆小兒の眼前に打開らかれたる書籍の樣にて悉く教訓を與ふるものならぬは無し凡そこれ等の事物は一として小兒の心を教へ之れを勵まし之れを進むるものにあらぬはなきなりなど申すことで有ります畢竟教育とは廣き意味を含むもの故古來よりの言ひ傳へ又書物などは其時代の人が時と場合により發明して言ひもし書きもしたるものなれば廢るのも多く新に興るのも多く有て其中に事實慥かなる發明のものは世に弘まり社會に大益を與へ國家を繁盛ならしむるゆゑ讀本などはよく〳〵吟味し念に念を入れて撰むは第一のことゝ思ひます

一一體小兒は感ずることが鋭くありまず私などは年寄りに成りて感覺が鈍くなり及ばぬことが往々有りますが小兒は見る所聞く所のものに就て何事もよく問を起す者でありまず夫れはどう云ふ譯かと云ふ問題が起るで有りましよう是れは前に申した教育の意味は萬事萬物に渉り無盡藏のものなれば生れて事々物々知らぬことを知りて後の爲めにし成長して追々發明もして人間が開化に進む譯では有りますまいか又人は誰れも惡くならうと云ふのでは無く皆善くならう善く仕ようと云ふの主意目的で有りましよう

一兒童の教育は實に一家一國の基礎にして大切なるは無論のことなれば體も强く智も開け德も厚くなる樣に教育するは誠に結構至極誰もいなむものは有りますまい當局者教育家は此大切なる教育の任に當れば教科書の撰み方規則の改正等に忙がはしく今日迄いくら變りたるや一寸記憶に留りませぬ其改正變更ある毎

に子女生徒の精神上に何等の影響を及ぼせしか種々なる教科書を教へ込むことなれば其記憶と智恵の働きは分に過ぎて却て身體を弱はめ病を起し學費も多くかゝりしなぞと世間の父母は大に歎げき甚だ不評判の取沙汰など屢々聞きましたが近來は段々其不評判の聲も薄らぎましたのは當局者教員諸君に對して其功勞を賞します

一尚又教員諸君に御注意を乞ひたきは子供が本を讀み字を寫すとき机に向ひ頭を傾むけ額をつけて讀み書きするより近眼となり邪視眼となる(此時演說者は字を寫し本を讀む眞似をなす)かうして讀みかうして書くといつとなく癖になりて目の玉がこちらへ寄たり突き出でたりして近眼となり邪視眼となりて終身直りませぬ私なぞは不開化の世に育ちて此癖が付て近眼の上に物がいがんで見へて困りますすいゝ目にしやうとして却て不具となる若し此の樣な癖のある子供あらば御心付ありたし

一又一つ御話し致したきことが有ります近來學問と方法の結果によりて一說が出ました即ち社會には盜の氣が通りて居ると云ふことで有ります社會の現象は表面には立派に見へても裏面にはよからぬことが多くぬすみをする本は小兒の中より兄の物を弟が奪ひ妹の物を姉が取り奪ひ合ひ取り合ふ癖が增長し體も强くなり智恵も增すに從て他人の物に及ぶようになるこれは子供より老人に至るまで此筋を引て居ると申します此道理より見ますれば其惡風は世間に有りましようから諸君も知られることならん私も往々聞て居りますが彼の巾着金臍くり金なぞ云ふは怪しい物だと申しますして之れを旦那寺などに出して和尙に納め佛に向ひ後生を祈り佛も其出處を糺さず貰ふと見へます功德ある佛も賴みにならぬとの噂を致しますが證據不充分にて如何とも致し方なき次第それは兎も角今ま申したる學說もありますから益々子女の教育は大事にせなければ成りませぬ子供に此癖の付かぬよう父母もよく戒め教員諸君も注意して教へられんことを望みます

一一體小兒と云ふ者は國家の繼續者である私なども同樣今日迄は赤面ながら繼續者の末席に居りますが文政年間の生れなればやがて此世を辭して仕舞ふと次の年の人が代りて繼續者となり又其次の時代に移りかはり段々次ぎ〳〵と何つまで人生の代は繼ぐのか其終りの時代はまだ分りませぬ人間の年は實に大事なものゝで有りますから云ふ鹽梅にと(此時演說者は扇をひろげてこんな形で有ると示

す)末廣の所は小兒の數それより段々狹くなるに從て人數も次第に減りて來て要の所に至れば壽命が終り次の年が始る終りて又始まる工合は天機妙用とでも申しましようか何んとも言語に盡しがたきことで有りませんか然るに國に惡風が多くなりたり戰爭が有りたり饑饉が有りたりすると壯者老者の人數が減て此末廣に缺けが多く出來て扇子が奇妙な形に成て用をなさぬと同樣國も大艱難を生じて何つまでも進みませぬ

右の如く人間の年は色々大事の用をなします故惡弊は成る丈け減る樣に戰爭は成る丈け避ける樣に饑饉は成る丈け輕くなる樣に今の繼續者は務めて居るで有りましよう務めなければ成らぬ譯で一體の向も何んに寄らずさうで有りましよう誰れ一人惡くならうと云ふで無く皆善くならう善くしようと云ふ精神で父母が子女を養育し讀み書きはよく出來るか病はしないか怪我はしないようにと看護するは愛情の通例にて四五歲より幼稚園に入れ小學校に移り小學の卒業までは凡そ十一二年もかゝる其間父母の丹誠敎員の勤勞實に言語に盡すことも出來ぬ位な大層の骨折も日々去つて仕舞ふから何んとも思ひませぬが速記先生を一人や二人御頼み申しても書ききれぬことゝ存じますして又子女養育敎育に費す所の金額も莫大なことでありましよう是れは父母や敎員諸君が御注意下さつたならば分りましよう私の臆算では子女一ヶ年の入費は凡そ一人平均四十圓計りも掛ると思ひます救育所の貧民一人に付月に三圓入ると聞て居りますして見ると通常の敎育を致し通常の物を出して子女の成長を祈る所の父母の費すものはもうちつと多くして先づ四十圓位と積りました此算用で全國小學校生徒の人數に掛けますれば一ヶ年に何千萬圓かゝると云ふことは知れますが其人數を知りませぬので假りに全國の上より見ますれば總人數を四千萬人とすれば凡そ其三分の一は生れてより十四才までざつと一千三百三十萬餘の子女の數に成ります一ヶ年一人の費用を四十圓とすると五億三千三百餘萬圓を要する譯に成りましよう此莫大の金額を年々費やし歲々出して居る財源は諸君どうお考へなさるか知りませぬけれども私の考は子供を善く仕樣と云ふ父母等の一念が相集りて此財力を生じて居ると思ひます是れは子供は國家の繼續者となる自然の譯からでありましよう尙諸君の御考を煩します

一經濟の上より申して見れば子供は費す計りのもので消費者なり負債者なり此負債者が年を取るに從て職業を營み自己の負債を償ふて往かなければならぬ若し

貧つて往かなければ國家の年々貧乏困難に陷るのは怪むべきことでは有りませぬ當然の譯で有ります先年手島精一氏などが歐米にて小學校のことを取調ました所が佛蘭西などでは生徒に貯金をさせる仕法を設けて居る小學校が有ると聞きました成程是れは只今申し述べました通り小供は負債者にして後日は繼續者たるものなれば子供の時より儉約の仕法を習はせるので子供の時より妄りに費す癖を付けますれば其癖は成長の後も直りませぬ今日我國にては其實例は澤山有りましよう封建時代には私も主君より給米を貰ひ衣食して金錢のことは商家の業と賤みて見下しましたが今はそうで有りませぬ金錢が欲しく成りました小學校にても筆墨紙其他の物を妄りに費やさぬ樣にして一錢なり五厘なり夫れを教員が預りて貯蓄し生徒が必要品を需むるとき渡してやる仕法にし生徒自ら物を粗末にせぬ樣の心を持たせる習ひにしたならばどうで有りましよう何ぞ一錢なり五厘なりを吝む譯では有りませぬ生徒が自然に其處に氣が付て儉約すれば自身の爲めに成ると云ふ樣に仕掛けたらば後日國家の繼續者として社會に立ち働くに都合宜しからんと思ふので有ります尤も生徒にさう云ふ習はせを致させますと或は吝嗇に成り或は惡事に流れ易いから其弊害のない樣に注意を能くするが肝要で有ります道理は善くても仕方が惡しければ却て弊害は大きくなりますす故に注意に注意を加へねば成りませぬ

一今日はよき序に御一禮を申うし述べたい事が有ります私のみならず他の父母も喜ぶことゝ察します私の子女は誠之學校の生徒でございますが近頃は以前と違ひまして學校用の紙など白き所を無用にせぬ樣に用ゐよと先生方が教へて下さつたと申して書學紙などは以前は表ばかり書きましたのを裏まで書を寫し字を習ひ紙を無駄に致しませぬ夫れは善いことだと譽めました子供も譽められて悅びました

一子供と云ふ者は正直なもので惡い者でない能く教員諸君の申し付を守ります時々逆らつて見ると云ふと中々承諾致しませぬ夫れは先生がかう仰せたさう云ふ譯で有りませぬ先生に聞かなければならぬと申します先生の教を守る樣子は私も試み他人へも聞て見ましたが同樣でございます今まで申しましたことは誠に小さい事で有りますが小さい事より大きな事になります水もさうで水の形は圓いと申します其圓き形は顯微鏡でも見へぬ位の極めて微細の水が集まれば洪大の力を起します電氣も其通り引力も其通り人界も物界も小さいものが集まりて

洪大な力を生ずるのは同樣のやうに思ひます其實例を擧げますれば多きことで有りましようが餘り時刻が移りますので先づこれで演說を畢ります

◉富國强兵の妨害

明治二十六年四月九日東京學士會院講演

今日の講演も相變らず富國强兵のことなり、過般來屢々富國强兵の事を說きたるが、其終りに富國强兵を妨害する病弊あることを述置きたり、富國强兵の事は屢々述べたる如く俄に行ひ得べきことに非ず、國を富まさんとせば國を富まし得べき原因あるに相違なし、余は其原因を探究し試みんと思ふなり、其原因にして發見せられ其病弊にして除くことを得ば、自ら國も富み兵も强くなる譯なればなり、富國强兵の原因の事は既に申述べたれば、之より其妨害の病弊に就きて述べん

さて富國强兵を妨害する病弊を說くに當りては、甚だ緣遠くして殆ど關係なき如く思はるゝことにまで涉ることあるべし、是れには種々箇條あることにて、其箇條は明治十八年の頃當學士會院の雜誌に揭げたることなり、然れども當時は其解說を添へざりしが故に何となく事足らぬやうに思はれ、且箇條中に其後少々不都合と思ふことをも發見し、又其頃には了解し得ざりしことも、其後に幾分か了解したる如く思ふこともあれば、今日は其解說を試みんと思ふなり

此材料はスタチスチックの上より集めたるものにして、其材料の中にて此事は無くなりたり、此事は增し來れりと云ふ如きこともあり、今諸君と共に之を講究せんと欲するなり、然れども此事たるや關係極めて廣きが故に、余の如き淺學なる者一人の力にて穿鑿することは到底覺束なし、故に說く所幾分か間違等もあるべし、御遠慮なく訂正あらば大慶に存ず

偖て單に此社會を見渡せば誠に平穩無事なるが如し、然れども其實決して然らざるなり、今一々其病弊の箇條を擧げんに、其內には舊聞に屬して除くべきもの多く、新に加ふるが如きこと無きは諸君と共に願ふ所なり

今日此問題を說くに當りては、天體と地球とに關する事、人間社會の生活に關する事、人間體(國人を一つの人體と見て)に關する事、經濟上に關する事、精神活動に關する事、道德宗敎に關する事、政治に關する事、社會に關する事、其他社會公衆の相互の間に關する事に及ぶ可し

先づ天體と地球とのことに付き一言すべし

天體と地球とのことを說くに當りては地球上の水土農事に關する事、地球上の衛生

保命に關する事、時勢の關係及び一時大流行の關係等の事を說かざるべからず

地球上の水土農事に關係する事を述ぶるには、天文學に關係する事を述べざるべからず、然れども地球と大陽との關係とか、太陽は二百萬年の後に熱を失ふとか云ふ如き事を言ふに非ず、極卑近なることを述ぶるなり

誰も知る如く地球は遊星の一にして、遊星中最も大なるものは木星なり、此木星と地球との關係が、我地球上の農業商業上に影響を及ぼす事はなきかと云ふことなり、先年來農作を爲せる人商業を營む人などの話を聞きたるに、彼の十二支(子丑寅卯辰などの年順に隨ひて農作の豐凶商賣の景氣不景氣あり、己年よりは追々に農作も出來善く商賣も繁昌なり、明治二年は己年にて其以前は農作も商賣も甚だ惡しく、己年より世の中持直り世間にては御維新の世となりて豐年打續き誠に有難きことなりなどと噂させしは今に忘れずに居るなり、九年(子)より又惡しくなり、十四年(己)に至りて又直り、二十一年前後より惡しくなり、昨二十五年(辰)終りて今二十六年(己)より世も繁昌すべしと云へり、余は最初は空に考へ居りたれども能々考へ見る時は、其儘に捨て置き難き道理あるが如し、慶應年間には農作宜しからずして南京米二千八十萬圓斗入れり、其餘にも入りたるに相違なけれども、貿易表出來居らざるが爲め能く分らざれども、何にせよ餘程の南京米が入りたるに相違なし、然るに明治三年頃より其輸入も減じたることは余の現に記憶せる所なり

是れ等のことに就きては、農業者商業者に於て種々の言傳へあるべし、尤も言傳へは學問上の方法にて觀察せしものに非れば誤りあるべし、我國の言傳へに人間僅五十年と云ふことあり、成程人命に平均の數あるは相違なきことなれども、能々穿鑿を爲したらば人命の五十年と云へるは正しきものには非るなり、殊に我國に於て綿密なる穿鑿も爲さずして、只昔しよりの言傳への儘を傳へて、學問上の觀察は捨てゝ問はざりしなり、歐洲學者の觀察に據れば、平均の人命は三十年より四十年までの間なるべしと思ふ、左すれば平均命數を五十年と取りたるは、所謂不法の穿鑿にして合法の者にあらざるなり、之と同じく今述べたる農業商業に從事せる者の言傳へも、學問上の方法にて穿鑿せしものに非れば、俄に信ずること能はず、殊に其年限中には人爲の故を以て、大に世間の不景氣を釀せしこともあれば、自然と人爲との區別を明瞭ならしめざれば慥かならず、然れども斯る經驗は捨てずして研究する時は意外なる好結果を得るに至るも知るべからず

今述べたる十二支と木星と如何なる關係ありやと云ふ事を述ぶれば左の如し

木星は遊星の中にて最も大なる星にして、其直徑は我地球の直徑の十一倍ありて、其實積は地球の千四百倍程ありと云へり、木星が地球を去ることは最大距離五億六千七百十二萬三千里、最小距離三億八千四百二十六萬三千里ありて、其差は一億八千二百八十六萬里なり、(斯く差の甚しきは楕圓に回轉をなす故なるべし)

地球は三百六十五日と六時九分にして一周す、木星は四千三百三十二日と十四時二分にして一周すと天文學者は言へり

地球の一回轉は三百六十五日と六時九分にして、之を十二倍するときは四千三百八十三日と一時餘となるなり、即ち地球の十二回轉が殆ど木星の一回轉に當るなり、尤も地球の十二回轉の方が木星の一回轉より五十一日ばかり多けれども、此五十一日を十二年に割當るときは、一年僅に四日餘を餘すに過ぎざれば、大數の上より見ては瑣々たることなり、斯の如くなるを以て地球の十二回轉と木星の一回轉とが、十二支に符合するの理ありと云ふも敢て空論にあらざるべし

左すれば木星の大小距離に依りて、我地球上に寒暖水旱の常を異にし爲めに農作豐凶の變を生ずることは無きや、本年の如きは何れの國も寒かりしと云へり、余の緣者にて米國シカゴ市に在る者あり、其書信にシカゴ市の寒氣非常にて水道の鐵管内凍りて水通せず、飲用水に缺乏して大騷ぎを爲せしとのことあり、歐羅巴にても本年は寒かりしと云ひ、我日本も近年に無き寒さなりし、是れ等の事を考合はするときは、木星の回轉と關係ありとの說も亦漫に非難する能はざるが如し、此疑問を決するには天文學者氣象學者及スタチスチック學者の力を藉らざるべからず、此三科の學理方法の觀察に據らざれば其關係の有無如何は判然ならず、然れども此觀察は僅に一回や二回の事實を以て決定し得べきにあらず、先づ十回も經驗調査したらば或は了解し得べし、一回の經驗を十二年とすれば、十回ならば百二十年を要すべし、百二十年と云へば餘程長きが如くなれども、我日本國を文明に進步せしめて萬世に傳ふると云ふ點より見れば、百年や二百年は數ふるに足らず、人間の命數は短し事實は長し、今日の人にて充分に穿鑿の道を開き置けば、後の人之を研究するに善き材料を得べし、而して愈々功成るに至れば農業商業は勿論政治を料理するにも大に便利を得、他にも又意外の好結果を得て國を富ますの道益々開くべし、若し一向注意もせず用意もせざるときは、富國も强兵も求むること能はざるべし

序でに申し置きたきは天文學者の事なり、天文學は世間にて貴き學問と思ふ人少く、隨つて天文學者を尊ぶ者少きが如し、然れども余は天文學の貴くして天文學者の尊

ぶべきことを信ずるものなり、先づ我々は里程を計算するに一里を一位に置けども、天文學者は百萬里を一位となし、之を「ミルリオン」と稱し、此「ミルリオン」の「ミルリオン」を「ビルリオン」と稱し、此「ビルリオン」の「ビルリオン」を「トリルリオン」と稱し、此「トリルリオン」の「トリルリオン」を「クオトリルリオン」など稱して、天體のことを測算し研究せり、我々の如き通常人は唯々此數を聞きたるのみにて腦中に悶着を起し、容易に區別の出來得ざることを天文學者は之れを腦中に運用して天體を測算せり、斯る數を用ひて天文の事を研究するは容易のことにあらず、又中々世間の事などに頓着する者にあらず、天文學者の目より見るときは、此地球などは微塵に當るか當らぬ位のものなり、左れば斯ることを研究する學者は國に於て養はざるべからず、斯る學者の觀測したる結果は社會のために如何ばかりの幸福を與ふるや知るべからざればなり、世人余が天文學者が富國强兵に關係ありと言ふときは、架空の說なるが如く思ふ人あるかは知らざれども、天文學者の觀測の結果によりて、地球と木星等の關係など明なるに至らば、人々注意して凶歲其他の準備なども爲し得る樣になり、禍を轉じて福となし隨つて國も富む譯になるべし

次に地球上の衛生保命に關する事を說くべし、我國にても幾多の例あるべけれども其調査の結果を知らず、外國の調査を見れば佛國の一部には多く白痴を生ずると云へり、又土地に依りて小兒の多く死する所あり、或は割合に死亡者の少なき所あり、彼の愛爾蘭は饑饉の多き土地にして馬鈴薯の外には餘り何も出來ざる土地なりと云へり、然るに彼地は他の地方に比して割合に死亡少しと云へり、斯ることは土地と如何なる關係ありや、今學者の調査中なり

歐羅巴にては北部と中央と南部とは死亡數の上に甚しき差違あり、南部は北部中部に比して死亡數少く、西班牙などは所に依りて死亡數少くカナリヤ島邊は死亡數最も少しと云へり、日本の事實は余の關係せる學社にて穿鑿を爲し居るが、調査の材料不充分にして困却し居れり、海岸沼地抔と高地とは大に異れるが如し、琵琶湖の周圍にては瘧に罹る者多しと聞けり、東京大坂の脚氣の如きか、先年人別調のため甲斐を巡回したるときに癩病患者の多き村あることを聞けり、是れ等は種々原因あることなるべし、近來は海岸を海水浴場に利用すること行はれ、熱海大磯など繁昌になりたるが、是れ等のことは衛生保命に關する事項なれば委しき調査を要すべし

次に時勢の關係並に一時大流行の關係を說くべし

時の勢力は人間業（ワザ）にては左右すること能はざるなり、社會の中に時の勢力と云へる

もの必ず存するが如く思はる、古アリヤン人種が亞細亞より歐羅巴に移りしが如く、其後北人が羅馬に攻め入りたるが如し、又十字軍の大擧、佛國大顚覆の如き大變動などは誰が爲せしともなく、時の勢の趨く所遂に斯る結果に至りたるなり、左すれば君主獨裁より立憲政體に移ることも矢張り時勢の關係によるべし、世の政に與るものの廣く注意すべき要點なるべし

一時大流行は政治熱、投機熱等より虎列刺の流行に至る迄其害惡の及ぶ所甚だ多し、是れ皆原因あるに相違なければ之を究め豫防せざるべからず

又社會に大變動あるときは、種々の發狂者等一時に顯れ出づることあり

人間社會の生活を妨害する事及び其病患に付て說くべし

人間社會の生活を妨害するもの種々あり、疾病に罹る者の素質及び原因並に其妨害の有樣を研究し之を除かざるべからず

又傳染に因て病の蔓延する廣狹及び其妨害の有樣をも調査せざるべからず、近來九州地方に赤痢の流行甚しく人を害ひ家を亡ぼし國の富を損じ國の力を減ずること幾干なりや、斯る病氣にて流行の區域を廣むるときは國の富其れだけ衰ふることになるなり、醫學士諸氏は切りに斯ることを研究し居らるゝことゆゑ、其原因を究め其豫防法を發見せらるゝこと遠きにあらざるべし

又病患と妨害との經過の次第を研究せざるべからず、例へば虎列刺の如き其流行の區域廣きも病勢の極めて弱きものあり、又流行の區域狹きも病勢の極めて强きものあり、僅に一地方に流行する病氣にても其病毒猛烈なるときは多くの人命を奪ひ去る、是れ等の事は宜しく研究調査を積み其豫防を爲さゞるべからず

人間集合體の病患及び妨害のことを說くべし、人間集合體とは例へば鏈鎖の如く其原因互に相關連するを云ふなり、此事は一昨年の大津事件にても明瞭なるべし、大津事件の起るや恐れ多くも　宸襟まで惱まし奉り國民皆大に心配したり、此一事を以ても社會は鏈鎖を以て相繫ぎ居るが如きものたること明瞭なるべし

國人の殖え過ぎること、この調査は尤も大切にして多く生るれば多く死するの道理ありて國の害を爲す研究せざるべからず、(これは大事の關係あるを以て他日更に說明することあるべし)

國人の減消すること、例へば現今蝦夷人布哇人の如し、布哇の如きは百年前航海者クックの渡航せし頃は其人員二十萬なりとありしが、今は大に減じて三萬餘になれりと云ふ、これ歐洲の文化を誤用して淫酒等に暴み遂に此現象の原因をなせりと云ふ、

又米國の土人は昔時ミスシッピー河邊より墨西哥灣に至る數百里の間に繁殖せしが、今は僅に往時の遺跡を存するのみと云へり

又既に支那は鴉片の爲に國害を受け其損する所幾干なるや計り知るべからず

我國人は夙に文化の弊を知り文化の實を擇び開明に進むの勢をなすが如きは慶ぶべき所なり

人種が變性して如何なる人種を生ずべきか、現に米國に於て印度人と白人種等との事に付き穿鑿を爲せる事甚だ密なり、即ち日本にて言ふ合ひの子なり、此合ひの子は人種上に如何なる變動を及ぼすべきや、又此合ひの子は將來如何なる性質上の變化を受くべきや觀察せざるべからず、併し是れ等の穿鑿は多年の觀察を積まざれば詳にすべからず、怠るべからず

經濟病及び其妨害に付て說くべし

經濟病及び其妨害は富國强兵に關係あることなり

森林の荒れること及び其衰微に傾くこと、維新の際には濫りに伐木して森林を荒らし水害風損等の害ありしが、其後森林の制度を施す革弊の事擧がらば、數十年の後は水害風損の豫防成り赭山も綠を帶び、材木の供給亦充實して日用の便をなすに至らん

農業の危險なること、我國は古來農業盛にして時に水旱不作等の害あれども、農業上の危險甚だ少し、特に近來は農會等の擧ありて農學者農業家等の協力によりて、種子の交換肥料の改良等に注意し、益々農業盛大の勢をなしければ國產の米穀食料に足るを以て、歐洲の如く之を米國に仰ぐを要せず、且生糸製茶の輸出年々增加するに至りしは、誠に富國の一原因たりと云ふべきなり

牧畜の危險なること、余嘗て歐字新聞を譯せし時、歐洲に牛疫大に流行し猖獗を逞ふして、一時に數十萬の牛斃れければ、各國にては各々境界を防禦して、他國の牛の通行を許さず、警固甚だ嚴重にして宛も戰時の有樣の如し、其損害の莫大なるに驚けり、是れ今より三十年斗前のことにて、實に牧畜の危險恐るべきことを知れり、我國にても牧畜の業は昔より全國に及びたりしが、牛馬の如きは專ら耕作や運送に使用せしのみにて、今日の如く牛肉を食膳に供するは稀なりしは、我國人が多く米穀魚類を常食とし、衣服も木綿絹布を常用とし、五穀は年に稔り魚類は沿海に富み、未だ衣食に大に缺乏を感せず、寒地の歐洲諸國の如く牧畜の業盛ならざれば、隨て其危險に遇ひ國の經濟上に大損害を蒙りしこと、を聞かず、然れども人員增殖し肉食盛に行はるゝに至

らば牧畜の業盛大となり、其の蒙むる經濟上の危險もこれあるべきなり

河海漁業の衰ふること、河海の魚屬繁殖の保護を盡さずして專ら人の捕獲するに放任するは不可なり、我國近年水産組合、水産調査所等の設立あり、共に魚屬繁殖の保護捕獲法の改良併び行はるゝを以て、將來其盛大を致すの希望あり、先年より聞く所によれば北海道などにては、外國船の密獵をなす者ありと云へり、此等は當局者の大に取締を嚴にすべきなり

鑛業の衰ふること、我國近來銀銅石炭等の採掘年々其額を加ふるは、技術の進歩によるものにして甚だ嘉みすべきことなり、然れども石炭の如きは其採掘高の多きにも拘はらず事業或は不振の傾あり、これ個々競爭の弊によるものなりしと云へり、宜しく革弊の工夫を要すべきことゝ思はる

職業の危險なる有樣に陷ること、此弊は社會急變の際に多し、今一例を擧ぐれば我國の釘など其一なるべし、我國の釘を職業にしたる者は洋釘の輸入の爲めに其業を失ふもの幾干なるを知らず、我國の家屋は悉く木造なるを以て總家屋數七百萬と見て年に一戸五十錢づゝの釘を用ふるときは三百五十萬圓となるべし、本邦にて釘を造れば其れだけの職業を恢復し、其れだけの金を內地に運轉する譯なり、此種類の危險は獨り釘製造のみに限らず、他に亦其例甚だ多かるべけれども悉く述ぶるに遑あらず

專賣の流弊のこと、專賣の流弊は近年米國等に專ら行はるゝ所にしてこれ資本を一に集めて小佑を併呑するものなり、之をトラストと云ふ、所謂占賣の義なり、我國未だ此弊の著しきものなしと雖も、資本競爭の甚しきに至らばこれなしと云ふべからず、豫め大に注意を要することなり

工業の危險なること、我國は古來手工に長じ大仕掛けの工業も近來長足の進歩をなし種々の製作をなし、維新後專ら海外より輸入せしものも今は之を彼に仰がざるものあり、マッチの如きは其一例なり、故に益々我手工技術の應用を求め、彼れの家具等をも製作輸出するに至らば、將來工業不振の憂なかるべし、去りながら大製作業の盛なるに隨て弊害また之れと共に生じて、許多の貧民を奴隸にし人倫を紊す等、後患を忘れて利に走るの弊あれば當局者は右等の弊に困む外國の有樣を察し、豫め其利弊を熟考して宜しく之を保護すべきなり

貿易の危險なること、これ專ら海外貿易のことにして、輸出のことは官民共に盡力し貿易に際する各會社も務めて惡弊を防ぎ、製品の精良を奬勵するを以て大に面目を

改め、從て幾多の物品は盛に輸出すと雖も、只開港場に止り、彼を待て後ち貿易するが如きは、我商人の未だ世界貿易の道になれざるによるべし、これ或は貿易の危險を招く憂なきか

交通運輸の危險なること、これ文明の一機關にして其運用自由自在ならざるべからず、特に外國の船舶年々我開港場へ航海運送の便を開くと雖も、我には一の郵船會社ありて、近來支那、マニラ、オーストラリヤ、邊に航路を開くのみにて、廣く見れば甚だ危險の憂ありて、憂國の士の大に注意する所あれば、他日其結果を見ることあるべし

精神活動の病患に罹る事、及び其妨害を受くる事に付き説くべし

世間一般に智識の淺薄になること、凡て深く事物の利害得失を勘へずして輕率の風俗に陷るが如き等のことなり

高尚なる教育の衰ふること、高尚なる教育の衰ふるときは、社會の元氣衰へ、學問退歩し技術進歩せず、社會の萬業萎微して振はざるに至るべし、學問の効能は多くは漸次に現はるゝものなれば、人の注意するもの少なければ、其効の大なること他に比すべきものなし、學問の研究によりて一事の發明あるや、之によりて社會の面目を一變することもあるなり

草味の世の事のみを探りて開明の代の事を輕んずること、世人神變不可思議の事を好む情ありて徒に草味時代の事を附會して、世間の無識者を迷惑せしむるものあり、未開の國には此弊ありて國の進歩を妨ぐるなり

學問藝術に於て物質主義を取ること、物質主義は物の道理を説くに精神を云はずして物質を主とす、故に無味淡泊に失して社會の妙機圓滑を缺くの弊あり

尚ほ餘す所多けれども本日は時刻も移りたれば餘は次回に於て陳述せん

◎富國强兵の妨害（其二）

明治二十六年四月十四日東京學士會院講演

前會に於て「富國强兵の妨害」と云へる講演を爲したり今日は其續きを述ぶべし

道德及び宗教に關する病患及妨害のことを説くべし

道德宗教其基づく所一なり左の箇條の如きは皆道德宗教に關する病患たり妨害たり

働くことを嫌ふこと　其身に職業あるも勤めざるものなり道德及び宗教の病弊多きときは斯るもの亦多く生じ社會の損害を招くなり

職業なきこと　即ち遊惰の民にして亦道德及び宗教の教化足らざるに由りて生ず

何心なく世間を見渡すときは働ける人多き樣なれども職業なき遊民も存外に多くして種々の罪惡をなして大に社會を傷害するなり

嗜欲の度なきこと　飲食衣服の美に耽るの類にして亦道德及び宗敎に關する病患の一なり

奢侈に流るゝこと浪りに費すこと　共に道德及び宗敎の力薄弱なるより起るものにして他の弊害となること例し多し

財寶を貪りて歷かぬこと　此くの如きもの世間に增殖するは道德及び宗敎の病患に罹るの徵なるべし

家人及び世間公衆の風儀善行の亂るゝこと　此弊害の大なるは諸君の善く知らるゝ所なれば別に余の說述を待たざるべし

罪を犯す心の增長すること　罪を犯して耻とせざるの風流行するは道德及び宗敎の敗頽尤も甚しきものとす

信心の無くなること　善き敎を信ずるは人の性なり故に信心の無くなることは宗敎の力足らざるものとするなり

神無しとすること神を輕蔑すること　道德は人の思想に在りて神の立てたる法に非ずとなすが如きは宗敎を妨害するものなりとの意なるべし

寺院の敎義を頑信すること　宗敎は自由なるべきに儀式の末節に拘はりて宗敎の本旨を忘るゝの類なるべし

神の名に恭順なること　神は如何なるものにて如何なる効驗あるものなりやを知らず唯々其名を聞いて信仰するの類例へば佛と云へば其實の如何んを知らず唯々有り難きものとのみ思ふて妄信する佛敎徒あるが如し

他宗を宗敵とすること　宗敎は元來道德を主とすべきものなるに宗敎者にして互に誹謗し互に攻擊するが如きは共に自ら道德を妨害し宗敎の犯罪者たるべし

僞り飾りの信仰　外面に信心を裝ひ其實名利の爲めにするが如きは亦宗敎の妨害たるべし

宗敎の多くなること　漫りに派を設けて分立するは宗敎の弊害なるべし

法主の主權を遵奉すること　法主を神聖とし其敎儀命令は一も過りなきものとして偏信するは宗敎の病患なり

次に政治の病患及び妨害のことを說くべし

自由の權を誤り用ふること　自由の權は之れを法律に用ふるよりは政治に用ふる

こと廣し故に政事上往々之れを誤り用ふることあり例へば言論の自由を得たりとして暴言を吐き又は讒謗し終に人身攻擊に及ぶの類是なり元來自由は精神上高尚にして順序あり責任あるものなり若し其順序なく責任なきものは自由にあらずして勝手我儘なり諺に勝手我儘が自由の範圍を犯すと云ふことあり政治上此弊多し

理論政治者流　政治上のことは理論のみにて行はるべきものにあらず然るに理論政治者流は理窟通りに行はんとするが故に政治の發達に妨害をなすこと多し是れ政治の病患なり

無政治になること　實に恐るべし我輩も維新の際には江戸にて豊間に白刃を提げたる者又は强盜の道路を横行する等を見たり實に無政治の恐るべきは今之を思ふも肌に粟するを覺ふ

下民の政權を左右すること　政治は高尚なるものにして其機微妙用は政理政術に由りて施行さるべきものなり然るに無智の下民が自己の利益を謀り多數の附加雷同を得て政治を動搖せしめ妨害を爲すが如きの類なり

貴族專制武權專制同族同類政治　之れを概言すれば政治を蹂躙し或は私權を恣まゝにし或は政治の機關を遲鈍ならしむる等なり此等は諸君の能く了知せらるゝ所なるべければ余の解說に及ばざるべし

保護の實を失ふこと　社會活動の上には保護すべきことゝ否らざることあり爲政者其人の時と模樣を誤察するより此弊を生ずること多し

臣僕主義　政治の發達を害し卑屈に陷るの弊あり

陷穽政略　此弊の例多かるべしと雖も余能く之れを知らず諸君の尋思せられんことを請ふ

抗抵主義を取ること　凡そ事の善惡邪正に論なく理窟を附けて反對するは政治の病患なり

名利の爲めに官職を得ること、公用の公費の爲めの富を爲すこと、賄賂を以て交換すること　是皆政治の病患にして其害の及ぶ所は殊更に言ふに及ばず

集權の狂躁、分權の狂躁　此狂爭は多く權を中央に集めんとし又多く權を地方に分たんとす元來中央には中央の權あるべく地方には地方の權あるべく一郡一村には一郡一村の權あるべし然るに其輕重利害を窮めずして徒に權力の多からんことを爭ふは政治の病患なり

政治の過度なること　政治は其民智と國力との程度に從ふべきものなれども動も

富國强兵の妨害

すれば政治の程度を過ぎて後難を釀すこと多し

役人の威權　役員は職務上自ら職權の備はるものなれども分外の威權を張るは政治を妨害すとなり

書付主義　役人が無益なる事を多く書き立つるは政治を妨げる病弊なり

無上權の精神　國家は吾れなりとは佛王ルイ十四世の言にして無上の權力一人の掌握に歸すとせり時勢大に異なる所ありと雖ども其子孫の果は頗る秦の始皇の末に似たり

政治を輕忽にすること　是れ所謂爲すに任せよ行くに任せよの類なり

國家を自覺する精神の消滅すること　是れ幾多の原因相湊合して生ずべしと雖も爰には專ら壓制の政策に因て國家の元氣自然に萎縮して振はず國民たるの本分を知らざるに至るの病弊を云ふなり

租税を搾ること、財政を亂すこと　思ふに是れ一對の政弊にして財政の混亂は租税を搾るの急なる時にして租税を搾るの急なるは財政の混亂するの時なり佛國の大顛覆も財政亂れざれば其甚だしきに至らざるべし何ぞ只ルウソウの學説のみに因らんや

法律の確實ならぬこと　法律は慥かなるものなれども不慥かにして法律に安んずるの心を失はしむるは政治の妨害なり

各種租税の賦課平等ならざること　租税は國民の重荷なれば其賦課の法は最も慎んで之れを行はざるべからずと雖ども政治の病患ある時は其不平等重荷の困難に陷ること多くして意外の惡果を生ずべし

次に社會の活動を妨げる病患及弊害のことを説くべし

同位仲間の爭、族類の爭　是れ大同小異にして本家並家督相續財産名譽等の爭ひにより其小なる者は一家親族の衰亡を招き其大なるものは社會の變亂を釀成す是れ等は社會の薄弱にして堅固ならざるの病患なるべし

地方に封建主從風の行はるゝこと、食邑者流　昔は封土侯地頭の借地法に束縛せられて今は黄金侯に制せらるゝにより名は異なれども實は昔の主と從との如き關係をなすの風俗あるは社會發達の妨害たるべし

工業に封建主從の風あること　世の開くるに隨て獨立自活の小工業は漸々大工業に併呑せらるゝ運命に向ふことなれば大工業に從はざれば衣食を得ること能はざるにより職工は從の主に隷するが如く又工場の器械の如くなるのみならず金力の

壓制を受くる等既に前章に述べたる弊害並び起りて社會の病患を釀すなり

商業に身分品格を固守するの風俗、商賈に等級制限の風あること　商業に品格等級などの別をなすの習俗あるは自ら賣買の不融通を生じ商業の發達を妨ぐる等社會の病患なり

婦人の樣に從順なること　此風俗は社會を柔弱にし萎靡せしむるの弊は殊更に說明にも及ばぬことなれども或る說に男が女の樣になれば女よりも劣るものとなると云へり

金錢の奴隷になること、貧乏に安んずること　一は金錢を神聖として拜崇し一は貧乏を因果として安心するの類にして社會は斯の如きの病患に罹れり

經濟の大結合に背きて一己分立するの風俗　箇々分立して私利のみに汲々とし結合をなして經濟の大益を謀らざるが如きは亦社會の病弊を免れず

次に社會公衆中互に發する病患及弊害の箇條は左の如し

自國を誇りて他國を侮るの風習

尊大倨傲を好むこと

迷想者流、想像者流

合併押領を好むこと

分離割據を好むこと

本國人種の爭

血統種族の爭

右箇條の病患と弊害に罹る社會は余が一々細說を待たずして其凶徵たるは明瞭なるべし

他國間の戰爭　其結果は左の如し

敵に掠奪せらるゝこと

城を圍まれ港を封鎖せらるゝこと

軍費を徵課せらるゝこと

放火の難に遇ふこと

國を吸ひ取らるゝこと

海賊の難に遇ふこと

分捕船の掠奪に遇ふこと

此外人命を失ふ等後難を遺すこと尙ほ多し

國政と宗教との間に起る爭亂
國政と自國社會との間に起る爭亂
國政黨と宗教黨との間に起る爭亂
右三箇條の爭亂に於て其禍害の及ぶ所は諸君も古今の歷史上事實を了知せらるゝことなれば解說を畧す餘は他日に讓る

◎社會の病弊

明治二十七年一月十四日東京學士會院講演

題して社會の病弊といふは余が前來論述し來りたる富國强兵に關する續論なり是より以下に陳述せんとする所は主として自然が社會に及ぼす所の病患及び妨害に關する箇條なり

自然の社會に及ぼす病患及び妨害　凡そ我が地球は非常の速力を以て大空の內を回轉し居るものにて隨て各種の自然力が其間に社會の上に病患を生じ妨害を與ふることと決して少からざるものなれば人は宜しく此の妨害を除き病患を醫することを謀らざるべからず今此地球面は大分して之を陸界、水界の二となすべきが故に此等の病患、妨害も亦此二種として漸次左に講述すべし

陸界及び水界に關する妨害　先づ陸と水との妨害を區別すれば左の如し

地震、山崩、地面の陷沒、火山の破裂、雪崩、雪卸、海嘯、洪水、雲卸等なり、又風、火、雹、霜等の動產及び不動產を損害すること　此中地震の如く火山の破裂の如く暴風、野火、霜の如きは我國の損害最も多きものにして、其他山崩は彼の吉野山の崩壞の如く又美濃の地震の如し近來の學者は此美濃の地震の原因を以て之を地面の陷沒に歸する由なり雪崩、雪卸に至りても每年幾多の人命を損せしが鐵道開通以來は其害を蒙ること漸く少きを得るに至りたるが如し是れ即ち人力により て自然の災害を防ぎ得たるものといふべし

次きに水に關しては海嘯の如きは年々現はるゝものにはあらざれども彼の鎌倉大佛の堂は之がために奪ひ去られしものなりといふ先年は下田の津浪あり近年は伊勢、三河の海岸も之が爲めに莫大の損害を蒙りしと聞く津浪の事年代記に載する所の數十三を見たり洪水に至りてはその害更に之より甚だしきものあり、歐洲にては雲卸と稱するものありて作物の損害を受くること極めて大なりといふされど日本にては嘗て此事あるを聞かざるは幸なり

これ等の中に就きて地震は既に今日學者をして大に調査せしむる所あり水害も

亦土木工學者の頗る力を盡す所ありと聞けば之がために從來受くる所の損害は必ず漸々減少し行くことならん然れども風損霜害に至りてはなほ大に研究を要すべきものあり昨二十六年の春群馬埼玉兩縣の霜害はその損失二百萬圓にも及ぶべしといふ利害の關する所此の如し況んや此等各種の水陸の諸妨害を除去する學術應用の道開けて一を防ぎ一を除くことを得るも我が國家の富に關すること實に尠からずといふべし次に

植物界に關する妨害　各種植物の病害に罹ること

森林の風損或は野火虫害のために荒らさるゝこと、我が國は元來農國なるが故に農事に關しては頗る進歩したるものあり國民の生命は主として實に此農產物に關係するが如き狀態にして米の產出高は年々四千萬石以上に達し其他の穀類菜蔬の類極めて莫大なるものなるべしといへども自然が之に加ふる妨害も亦決して尠少にあらず「オンカ」と稱する虫の如きは若し米穀につきしときは饑饉に至ることありといふ程のものにて其他植物にかゝる虫害の恐るべきこと今更にいはず從來農家の經驗によりて除害の功尠からざるに似たりと雖もなほその各種の原因と損失高とを詳に列記して之を世間に示し大に公共心に訴ふることゝなさば望外の助力を得更に大なる功あるべし大なる功を治めんと欲せば大なる公共心を興すよりよきはなし米國にては林檎の虫を除かんがために互に力を合して喞筒を用ひて藥品を注射し毎年期日を怠ることなく以て虫害を去りその地の產物を保護するといふ我が國にても之れと等しく唯公共の心を興すことに注意すべしこれ獨り互に相助力して此害を除くことを得るのみにはあらず學者に研究の材料を與へて兼て學理上之が驅除法を發見するの緒となるべし

動物界に關する妨害

各種動物の病に罹ること　牛疫流行肺病蹄瘡の如し近來牛疫流行して損害の一部の社會に及びたるとあるも唯一部のことにして國家の富强に大關係あるものとも思はれず然れども水產界に關する妨害に至りては陸地の植物界に於けると同樣にその利害の關係する所共に極めて大なるものあるなり曾て聞く所によれば品川より大森沖に至る僅か四五里の間に於て淺草海苔を製作するの高毎歲實に七八十萬圓に及び之がために要する所のソダのみにても二十萬圓を費やさゞるべからずといふ僅々數里間にして海苔一品の產此の如し北海道沿岸の水產の如きは大漁の年は一千萬圓に達し不漁の年と雖も四五百萬圓に及ぶといふ海國

なる我が日本の沿岸及び諸島の水産の利益の大なる恐くは世界にその比を見ざるべし特に此大富源を有する我が國の如きは最も十分の注意を加へその科の學者、當業者も亦詳密なる研究を積むに至らば無盡の富を興すべし

人類の自然の妨害を蒙ること、各種の流行病、古來惡性流行病の爲に人命を奪はれ財を失ふ等社會のその禍を蒙ること蓋し戰爭の恐るべきよりも尙ほ甚しきものあらん是れ實に吾人世々の怨敵なり戰爭は唯一時のことにしてたとへ一敗するも亦勝利を得るの望みなきにあらず獨り此怨敵は累世如何ともすること能はず然れども近來醫學、衛生學等未曾有の進歩をなせしより爲に大にその猖獗を挫きその勢力を衰弱ならしめ之によりて人命を救ひ富を增したること頗る多からん之を智識の勝利と名く智識とは曰く學術上の智識是れなり古昔の人々は此等の災害を除かんがために神佛に祈誓しその冥助を仰ぎしと雖もこれ學術上の智識なきが故にその目的を達すること能はざりき今日は之に反して學術上の智識を以て怨敵を退治し勝利を占得するの時來ると謂ふべし

自然の元質にて人類の害せらるゝこと　自然の元質とは火、水、氣等の如し人の熱火に苦み病死するものあり雷死するものあり水に溺るゝものあり風に害せらるるものありて人間の災難幾何なりや知るべからず皆此自然の元質なる無情暴力の所爲なりとす未開の世には之を天災、地妖に歸し無爲唯神佛の加護を祈るのみなりしが開明の世には學術の進歩すれば其避難の方法を研究して人命を救ひ富を增すの望みなきにあらざるべし

以上述ぶる所の社會の病患及び妨害は、全體に關するものあれば、局部に關するものあり悉くその徵候を以て之を論理的に類別したるものにて以下述ぶる所はその徵候に就て原因を探求し之を治するの要を擧ぐ

人間生體一般の病患及び其妨害の徵候婚嫁數の減ずること、○夫妻の子を生ずるの力漸く衰ふること富國强兵も人ありてこそ必要あれ然るに人の次第に減却し行く有樣なる時は宜しく速にその原因を探り之を持續して世界最後の日に迄達するの策を講せざるべからず今その人員減却の理を考ふるに婚姻數の減ずること及び夫妻の子を生ずる力の漸く衰ふることにあり此等のことは何によりて能く之を知り得べきやといふに唯事實を調査するより外その道あるべからず我が國人の如きは唯人員の年々歲々增加することをいふ然れども唯之れを數字を見て言ふのみにては余の甚だ疑ふ所なり果して快く心に安んせんと欲せば宜しく大

に事實の調査に手を盡し所謂百年の計をなすべし西洋各國にありてもその獨立を維持せんとするがためには實にその學科を講究しその方法を精確にして年々費用を顧みず此調査に從事し居るなり佛蘭西にては數十年間毎年の割合百人中僅かに四厘の增加に止るのみにて同國の學者、政治家等の最も心を勞する所あり獨逸の學者は佛人の此事に意を注げるものを目して愛國心の人民と稱せり然るに我が國人の如き斯る事に關して餘り心を留めざる所以のものは畢竟學術の進歩の未だ十分ならざるに因る國人たるもの大に顧慮する所なかるべからず

一般に死亡數の多くなること殊更に小兒の死亡の多くなること、小兒は一國の繼續者なり然るに此繼續者にして死亡し去るに於ては一國の保持には容易ならざる影響を及ぼすべしされば亦十分に實際につきて調査を遂げざるべからず

凡そ文明と稱する各國にては五年目或は十年目にして全國の現在總人員を調査するを必要とし其費用の如きも次第に增加して北米合衆國などは夫が爲めに一回殆んど三百萬弗を費すに至れりといふ其重きを置けるや以て見るべし

來住人、往住人の分量及び性質、來住人、住往人には學術上分量と性質との別あり米國にて支那人放逐を唱へたるが如きは其分量の餘りに過多なるに兼て其性質も亦好ましからざるものあるによるならん、我國も今日は未だ內地雜居の問題未決の間にありと雖も內地開放の曉にも至らば最も此點に注意せざるべからず大に支那人も來るべし西洋人といへども共產黨の如く社會黨の如く玉石混淆して來ると覺悟せざるべからず是等の說は社會を破壞するものにして余輩の殊に擯斥するものなりといへども又之を信ずるもの決してなしといふべからず、人の不養生なる者は多く病の襲ひ來るが如く社會も之と同じ若し社會に病弊の徵候ありとせば其病根を救治して之を堅固ならしめ外弊の侵入すべき餘地なからしむるにしかざるべし

徵兵補充の分量及び性質、軍兵は國の强弱に直接に關係するものなるが故に徵兵補充の數は年々の割合如何なるべきや年一年にその數の增減如何適齡者の身體の强弱長短は毎に如何の割合なるか且つ適齡者の性質の善惡等皆一々明かに當局者の取調あるべし

經濟の活動に係る病患及び其妨害の徵候

過大なる園囿所有及び過小なる耕地所有のこと、過大なる園囿を所有するは、地面を使用するの力をして減退せしめ過小なる地面を所有するは小に安んずるの風

に墮つこれ亦一國の經濟上に大なる影響あることなり一時我國にも之をして大ならしめんとの說ありしかども從來の習慣其根深くして容易に變改すべからざりしことならん其過大なると過小なるとを平均して中を得るは到底得難き所なるべければ寧ろ其の小なるも多數の人の所有し得るは我が國に取りて恰當なるものならんと思はるゝなり將來は知らず現今我が耕地の割合過小なりと雖も多數の人の所有し易く之を日用衣食の資とする者と彼の耕地も所有し得ざる多數の職工にして日給を得て衣食をなす者と何れか其國の安寧なる、西洋の工業國の職工にして、年々百千の「ストライキ」の時々暴起するに比しては頗る我が國家に幸ひなることならん只我が地租の徵收上に手數の煩雜なる費用の冗多なる憂ありといへども其方法の宜しきを得ば手數も省くべし隨て冗費も減ずべし其將來の利害に至ては經國の君子經濟の大家之を看破せらるべし

森林等を切賣りにすること、森林の地は廣からざれば、大材良木を培殖して多量を出すべからず森林地等を切り賣りする、の弊は小利に安んじて大利を謀るの妨害たり山國なる我が邦にして之を利用するの道愈々開くれば其益も愈々大なるべし此弊のある所は當業者の知る所にして、余が如き素人の知る所にあらず

人を夫役に使ふこと、我が國にも先例ありといへども近來既に其跡を絕たんとするものなれば今更にいはず

田畑借受人及び農作稼人の缺乏すること、農業國にして一たび此現象を顯はすに於ては、農業既に衰ふるの惡兆にして、其原因も一ならず必ず雜交して來るものなるべければ、之を未崩に防がんと欲せば常に方法を以て之を調査し其調査の結果をして治術の用に供し豫防の策を施すにしかざるべし

不動產の危くなること、○質入書入物の不慣になること、○信用の無くなること、國若し此經濟病に罹るものは財貨壅塞して通せず富むの力ありて富むことを得ざるべし是れ亦大に治術を要することならん激劑も功を見るべし一たび其功を奏すれば天下の財貨融通して富まざらんと欲して富まざるを得ざるに至らん

質入書入の直段よりも安くなること、○公賣物の夥くなること、我が國にても曾て此經濟病の流行せしを聞く近來に至りては餘り耳に入らず是れ施政の其宜しきを得たる良兆なるべし

全體の工業整はざること、今や鐵の世にして我が國產鐵の缺乏よりして製鐵の工業甚だ振はざるのみならず釘針の類に至るまで其業の衰微を促したり殊に釘の

需用の大なるもの世界中我が國の如きものありや否や其釘にして之を外國の供給に待つが如きは工業の整へりと謂ふべからず尚ほ少しく之に蛇足を添ゆべし

その整ふとは組立法を云ふなり組立法とは例へば一つの工業なれば機械も揃ひ原料も備り資本も足り又需用供給の增減、捌口、爲換、運送の仕組等又技術家職工及び事に熟達して、機敏才畧其人ありて義務を調理する等の如し、總て此組立法は必要なり工業の盛衰も其組立法の備はるると備はらざるとに因るべし

總して工作品を過分に造り出すこと、○一品一物を除り多く製して平均を失ふこと、近來我が實業家は盛んに紡績業を起して綿絲の輸入を防ぎ又大に之を輸出し其事業を擴張せんとの企望を抱けりと誠に喜ぶべし然るに外國の某紡績會社も亦何年の間利益を配當せずして大に競爭を試み日本の紡績機械の針をして銹腐せしむべしとの計畫をなせりと云ふ、或は恐喝の策ならんか眞僞は知らずと雖も世界は競爭の時なり若し此事あらんか彼は常に組立法を以て我れに逼まるならん當業者此經濟活動の妨害を防ぐの策あるべし

職工の力を恣まゝに役して利を貪ること、○賃錢の代りに日用品を給して倍利を得ること

烈しく物價の動搖すること

諸物品及び信用の不安心になること、○空手形に乘せること、○詐欺の手形を出すこと

手形割引の利子を大に違はすこと、○爲換の相場を動かすこと

紙幣及び銀行手形を是非なく流通せしむること

資本家などが相場を狂はせて利の高低を賭すること、○空相場をすること、○株券等を出して利益の配當を名として詐僞をなすこと

保險山師

詐僞の自火

交通運輸の災難と稱して利を奪ふこと

右に列記する所の箇條を一目すれば、條々皆經濟の活動を妨害するは固より明了なるべけれども殊更に說くに及ばざるべし世開けて經濟の活潑運動するの際には社會の此病弊と妨害とに罹るは免るべからざることならん去れども務めて其病魔の働きを弱めて經濟活動の勢力を强からしめば國の富は益々廣大に至るべし

昨年政府の施行せし會社法は、或る部分に於て幾許か其魔力を制するの効あるべ

し但右種々の病弊妨害は各々同じからずして或は其大なるものもあれば小なるものもあるべし或は其強きものもあれば弱きものもあるべし文明の學術は方法を以て其大小輕重を計り得べし文明の智識は其方法の結果を見て彼れを制するの力あるべし

學事職業者の過多なること　學事職業とは醫學、法學、代言、兵學等諸學者の類なりこの學者輩非常に多く需用の外に餘り、官も之を用ふる地なく社會も之を用ふる所なきに於ては必ず他に其業を轉ずるの困難に逼り經濟の活動を助成するにあらずして反て之を妨害するの弊に陷るべし

給料及び賃錢を直上げせんと騒動すること　これ大製造の盛んなるに至れば職工等も隨て益々增加すべし時に其業に盛衰あり、物價に變動ある等、自ら業主と職工等との給料賃錢の爭ひを起すべし是れ恰も我が小作人の地主と爭ふに似たり彼れは猛なり我れは寛なり、其寛なるも猛なるも共に皆經濟上の害をなさゞるはなし我が國も大製造の擴張するに向ふ時なれば、歐米の製造國の此大患に罹り困苦する所以を探索し之れが原因を知るに至らば、豫め之れを救治するの法を得んか

智識の發育に係る病患及び妨害の徵候

小學校の數の減少すること　小學は國民學校とも稱すべきものにして國民たるものゝ一般に必ず經ざるべからざる所とす即ち世の繼續者たる幼年者を養成すべき所なり小學校の敎は幼年者をして言葉も正しく話し字も讀めるやうに書き又讀むとも慥かに讀み得及び算盤も誤りなく算せしむるやうに授けざるべからざることなるべし茲には智育の事のみに關して修身のことは言はずこの話し方、書き方、讀方、算術等は幼年に適當の旨を主とし成長の後日用自辨事を缺くの憂少き樣の規則に從ふを要するものなれば到底家庭にて完全に之を施すことを得べきにあらずこれ文明の國として小學校の設けあらざるはなき所以なるべし既に此の規則に從ひて敎育を受けたる幼年は直ちに其業に就て生活を營み得べく、或は其業の種類に依り其人の志す所に依り器量次第にては他の高等の學校にも進み得べきことを要するなり若し小學校の敎を受けざるもの多き時は文盲無算の者も隨て多し文盲無算のもの多數なる時は其國の文明も富饒も望むべからざることは固より當然なり昔時は大家學者すらも全く了解すること能はざりし空氣も水も電氣も引力も大陽も地球の形も今は唯敎師の談話の上にて幼年者に知ら

しむることを得べしこれ智識の進める力なり智識進めは國の文明も進み文明進めば富饒も致すべし文盲無算のもの多數なるがため國の進歩の滯り富の減じたる例は東洋諸國にも多かるべし朝鮮の如きは其一なるが小學校は斯る大切なるものなるに其數の漸次に減じ行くは其國の衰微に赴むく前徴なれば必ず之を救はざるべからず

小學の初歩たる實用の敎衰へて虛飾に流るゝこと　小學の衰微は國の衰微に關するが故に能く其衰微の原因を明らめて之を救ふの策を講せざるべからざるとは前言の如し然れども小學の盛なるは唯其外形に就ていふにはあらず外形のみ盛なるも內實全からざるはこれ實用を去りて虛飾に就くなり然るに實用は常に面白からずして且つ困難なるが故に難きを捨て遂に虛飾に流るゝに至るは免れ難き通弊なり我が國の言葉の混難なる書法の種々なる文章の雜多なる是等のことを整ふるさへ專門家の苦心容易ならずと思はれたり西國人と東北人と相遇ふときは全く言語の相通せざるが如きことある皆人の知る所なりかくては電信電話も誤りを生ずるの媒となりて文明の利器は徒らに害物となるの恐なしとせずこれ言葉の規律整はざるによるものなり又從來小學生徒の習字は唐樣風の手本を習ひ讀本は往々名家の文章を載せ脩身の敎に至りては最も極端に走り壯言熟語等の陳列一見快を取るに足るの趣向はあれども通常人の行ふべからざることのみ多し古來の難問とせられたる所のものが今は輕々しく讀本の上に記載せられて幼年者の行ひに當て篏められ作文は花を訪ひ柳を尋ね暑を竹蔭に避く虫聲野に滿つ月明にして星稀なり抔の類ありと聞く若し然らばこれ虛飾に流れたる弊にはあらざるか毫も世の繼續者を敎養する所以にはあらざるなり況んや修學旅行などと號して鎌倉江の島などを徘徊するが如きは最も好ましからぬことにあらずや寧ろ田舍地方の農夫又は製造場等職工の苦心勞働の狀態にても見せしめなば修學旅行も世の繼續者を養ふ利益ともなるべけれ徒らに名稱を美にして旅行遊覽するとも何の益かあらん皆これ虛飾にあらざるなきやを疑ふ近來漸く矯弊の擧ありと云ふ敎育家の勞を感謝するなり小學の新敎育の施されたるは明治五年に始まる今に至る迄既に二十餘年經驗を積める少きにあらず蓋し幼少の時は想像の力甚だ發育すといへども事物を經驗すること少きが故に其想像力は妄想に似たりといふ想像力は記憶より來り事物を見聞して之を記憶すれば之より種々なる想像を逞しうするに至るなり余は明治の初年に盲目の音曲者を集めて

聊か之を救ひしことありしが其二歳或は三歳頃より盲目となりしものに夢みることありやと問ひしに夢とは何の事にや確かには知らざるが如しこれを以て想像力の如きも見聞せざれば出て來らざることを知れり然れば幼年者の想像が即ち妄想と記憶の關係又智恵と身體との發育する程度は年一年に如何なりや又教育の爲めに幼年生徒が如何なる病を起せしか若し其病に罹れりとすれば教育過度のために身體を弱めたるものなりや或は然らずして元來身體の虛弱なりしものか又小學生徒にして父母の手元より出すべき衣食と學費の入費は何程なりしや余の臆測に依れば生徒の衣食學費等を平均して一人に付一年四十圓と積りたり去る二十四年の統計年鑑によるに官立公立私立小學校の學生及生徒の總數三百十五萬三千八百十三人なりと若し一人にして四十圓の費用を要するとすれば此等の生徒の費用一年總計一千二百六十一萬五千二百五十二圓となる大約此費用の是の如しとするも亦少からざる金額といふべし是等の成績分明なるに至らば教育者の利益となること多かるべしと思へども余は未だ之れを表記するものを見ざれば其曲折を說くこと能はざるなり

高等學校及び大學校の寂しくなること　凡そ各々の業各々の職に從事する者は其學科を修め其理に通ずることは固より必要なるべし啻に其專門の科目を修學するのみならず亦其應用に熟達し社會に活役せざるべからず學問は區域責任及び規則を定めて此道を外れざらしむる骨組ともいふべく之に肉を與へ皮を被らしめ智識の生命を賦與するは則ち實用なり高等學校の設けある所以は此智識を與へんがためなり故に此學校にして寂寞たらんか其國の各業各職共に振起するに由なく益々衰微に赴くの徵とす○大學校は智識の門なり碩學鴻儒輩出して學界の首座を占め廣く學問の疑題を講究し眞實を解釋し未發の玄理を發明して自國の利益を弘め光榮を耀かすのみならず其餘澤は普く世界に及ぶ此大責任ある大學校にして寂寥の徵候を顯すに於ては國の任として宜しく隆盛を圖り其基礎は確乎不拔として動かざる樣せざるべからざることなれども動もすれば智識の發育に病患を生じ妨害を蒙ることあり

高雅の演劇衰へて下俗の演劇盛になること　劇は戲に通じオドケ座興の事といへり重野先生の講述せられし風俗歌舞源流考を見るに演劇は初めオドケ座興に初まり後漸々沿革を歷て智識も開け名人も出て技藝も上達せりと思はれたり一時の座興を取り欝を散ずるの樂みは我々社會に於て無用の長物にはあらず世の文

明に進むに隨ひ文明は人殺しなりとの西人の言の如く人々の苦慮勞働も自ら增加する道理なるが故に時に耳目の娛樂を取るの必要もあるならん高雅なる演劇素より善しいやしくげすなる事にはいやしくして憚るべき言葉も用ふべければ聞きながしにして給はるべし賣物買物廉物買ひの錢失ひとやらん譬の如く世は高價の物を買ふ人は少なくして廉物を買ふ人は多し演劇も亦之に似たる者あり智識の發育廢れて卑陋なる社會の人情人氣に投じ鄙俗猥褻の末技に陷るもの多し余は元來演劇には甚だ迂なるものなるが故に其詳細を知ること能はずと雖ども多年聞く所によるに演劇は最も婦女の好むものにて俳優も婦女に阿りて技を演じ爲めに女德を亂し惡弊甚しきものなりと彼等は固より國家社會の觀念あるものにあらず唯自己の衣食のみを求むるに汲々として甞て猥褻なる亂技に陷るを顧みざるなり故に舊幕時代に於ては河原者と呼び穢多非人と殆んど同樣に見做し町家も之れを敷居の内に入るゝを嫌ひ武士の如きは演劇を觀るを以て非常の恥辱となしたりし程なり彼の近松が曾根崎心中を讀で「七つの鐘が六つなりて殘る一つが今生の鐘のひゞきの聞きおさめ」と云ふに至りて卷を擲つて物徂徠が嘆じて近松が妙處この中にあり外を問ふに及ばずといへりとなり心中の事口外に出すも憚りあり人生の無悪醜狀これより甚だしきはなかるべし近松が心中道行の有樣を記せずして只に一筆に鐘の響にかけて暗に死途を述べしはさすがに近松の筆斯る無悪なる淫事は曲折を問ふに及ばず斯く書くべしとの意匠ならんか是れ彼の社會にては智識の練達したる名文樣式として見るべきものなるべしと雖ども之を戯に演べ粉粧して道行の曲折を盡し狂ふは智識の藝にあらずして人情の亂技に陷り醜を極むるに至れり世に廉物買ふて身を失ふもの社會の下層に多し是れより少年男女の身を過まるもの殖ゑしと聞く時に鐵道四通の便利に乘じて都會の俳優が僻村邊鄙に徘徊して無邪氣質朴の少女少男を傷け淳樸の德風を亂るに於ては其害勝ていふべからざるなり世は文明に進み人の智識も發達して下流より上流の品位に登るの氣運なれば智德の發育に妨害を與ふべからず近來昔の芝居も名改まりて歌舞伎となり演劇となり演劇改良の擧ありと聞くにより作者も苦心工夫して智識の伎倆を顯はし高雅の戯を演ぶることゝなるべし宗教を强迫すること　宗教は道德なり智識は智識なり宗教としては宗教の範圍あるべし智識としては智識の範圍あるべし此二者の兩立するは人間社會自然の常道にして混一にして論ずべきものにあらずと思はれたり然るに宗教家は宗教

の見を以て智識の範圍を犯し智學者は智識の說を以て宗敎の範圍を犯して互に理非有無の論爭をなすに至る宗敎家は道德の敎義に據りて智識の說を駁し智學者は智識の眞理に據りて宗敎を無に歸せんとまでに强迫す是れ智識の發育に關する病患なり今の世は宗敎は空理の說に墮落して文明開進の道に伴はず死者には甚だ厚うして生者には甚だ薄く功德の實行を法外に措て問はざるに似たり智識は益眞理の光に向ふの時にして宗敎の智學者の强迫に遇ふも畢竟これ宗敎家自ら招くの罪にあらざらんや佛法の如きもまさに大革命の時來るべしと思はれたり

學術著書の減ずること　學問藝術も世と共に進步するものなり其進步するに隨て之に關する各種著書の或るものは增し或るものは減ずるは固より當然なり此等の著書を取りて分類するときは社會の進步する有樣を知るの便あり社會は何の學科に向ふか又何の技術に傾けるか等のことを察することを得べし然るに著書の減ずるのみにて增すことなきは國の文明の退步の徵候なり

新聞紙の賤劣になること　新聞紙は智識の業なり其記載する所は專ら事實なり其及ぶ所は甚だ廣し世人が之によりて得る所の利益は決して尠少ならざるべし今一例を擧げんに我が國開港の始め金と銀との貿易起り大に金價の騰貴を促し金の價は日に昇りて遂に一步金は一步銀一兩一步の交換にて止まりしなり當時世人の驚き一方ならずといへども其譯更に知れず數年の後西洋の貨幣論を見しに西洋にては金一銀十五に當れり左すれば我が國は嘗て金一銀三の割合にてありしことを數年を經て後ち始めて知ることを得たり然るに近頃世界の銀價大に下落し新聞紙は時を移さずして其相場の高低を報知し來るを以て我々銀貨國のものゝ我々の財產も今日金に對して殆んど半額以下に墮落したりと我々之を知る新聞紙は旦夕我が國人に注意を促し大に將來を戒めたり是れ全く新聞紙の効なりと思へば自ら昔日の愚を笑ふなり新聞紙は斯くの如く大にして且つ貴ふべき智識の業に屬するものなるに此新聞紙にして卑陋猥褻の狀態を記し無智下等の人氣に阿り或は諂諛讒謗虛誣輕侮等外聞をも憚からずして醜惡を載するに至ては貴き新聞も貴からずして反て賤劣に陷りたる徵候なりと知られたり是れ新聞業の智識發育せずして病患に罹りし時なり

風儀品行に係る病患及び妨害の徵候

留置所は變じて無宿者の爲めに滿ち授產所は空手無賴者の爲めに塞がること

凡そ學術上に於て社會の現象を說明せんとするには先づ其現象の智識に屬する部分と道德に屬する部分とを區別せざるべからず前段には智識に屬するものを說きしかば是れより道德宗敎に屬するものを述ぶべし今病院に入て種々なる患者に會し盲啞院に入りて盲啞なる不具者に接するが如くなは此社會には眼見るべからざる精神上の病者不具者の伏在することを知る此等の病者不具者は固より社會の多數を占むるものには非ず若し此等の徒にして多數を占むるに於ては其社會は終に滅亡に歸せざるべからず故に眞正なる文明の爲めには宜しく此等の病者不具者を驅除することを要す而して此多數健康なる社會の間に伏在する少數の此病者不具者を見るものは即ち學術の眼なり此眼によりて少數の病者不具者を見るときは一方に於ける多數の健康者をも知ることを得るなり

今留置所の無宿者の爲めに滿たされ授產所は空手無賴のために塞がる是れ即ち社會に病者不具者の增加せる兆なること疑なし

それ社會の生業を務め勤儉を守る等の所爲は一見するときは或は智識に屬するが如くなれども其實專ら宗敎道德に關するものにして如何に巧みなる工人も怜悧なる職業者も道德心なきものは社會は決してその巧手怜悧を用ゆること能はざるを以て知るべし故に宗敎道德盛なるときは風儀も自ら整ひ品行も亦必ず正しきを得て生業を勵み勤儉を守り家富み國盛なるに至るべきは自然の道理なるべし之に反して宗敎道德の衰ふるに及びては風儀亂れ品行不正に陷り無業遊惰無宿無賴の徒益々殖ゆるに至らんこれ社會の貧病に赴くの徵候なり現に近來朝鮮人の有樣を見るも其道德に薄くして徒らに私慾に迷ひ義務の心なく狡猾の心のみ盛なるが如き其國家の貧弱も亦由來あるを知るべし

乞食流民の幼年者壯年者の殖ゆること　乞食流民等の著しく增加するは饑饉の年にあれども平常にても其數決して少きにあらず泰西學者の言に遊手懶惰は惡事を爲すの始なりといへり元來人類は始より何事をか爲さゞるべからざる樣造られたり故に若し人空手爲す事なくんば終に惡事を爲すに至るべきは殆んど自然といふべきなり世間には身體も强健にして敢て羸弱なりといふにあらず十分働くべき手足を有しながら好で正業に就くことを爲さず市街を彷徨し郡村を經廻り金錢食物を乞ひ或は乞食して諸國を徘徊し甚だしきは强談して金錢をゆすり取るものあり若くは掏摸を爲し詐欺を爲し盜を爲し故買を爲し有らゆる惡事を爲すもの其數殆んど幾百千の多きに及ぶものあらん彼等の所業は斯の如く種

々雜多にして其名固より各々異なりと雖も皆等しく有罪の賊民にして互に仲間を組み諸方に蔓延し其間には一種の言葉ありて殆んど文法を成せる迄に發達し言語の音調は甚だ惡しく悪く罪を含める文字なりと云へりこれ我が國にても歐洲にても同一にて近來我が國の如きは鐵道連通以來東西の掏摸互に連絡を通ずるに至りたりといふ即ち彼等は皆此一種異樣の言葉の手段により相互に鎖の如く連絡せりとなり又近頃聞く所によれば我が國の掏摸の族は支那の故買と通謀し電報を發して賣買をなすと云ふ實に恐るべきことゝいふべし斯る有罪の所業ある流民には精神上一定の模型を有するものにて即ち德義心の缺乏すること濫りに費すこと極めて迷ひ易きこと正義を嫌ひ邪惡の働きを好むこと等の性情を具ふるものとす普通の人情より考ふれば此の如き邪惡の所業をなすには其心配骨折も一方ならざる理由なれば此れ丈の骨折心配を以て他の正義に勤めば十分自主の出來得べき筈なれども斯る族には一種の邪惡の模型によりて形造られたる精神ありとすれば到底正業に就かんことを能くせざるものとせんか是れ難問なり此等の病弊妨害のために社會は年々歲々幾何の禍害を蒙るやも知るべからず先年賊のために盜奪せられたる金圓のみを計算せしに實に一年百何拾萬圓の

多額に上れりと思ふ此の如き病弊妨害は何によりて之を治せんか唯道德宗敎の敎化にあらずんば醫すべからざることならんこれ決して智識の能くする所にあらず又嚴に警察を施行するの必要あるべしこれにつき事に序に獨逸の或學者の所論を引きて聊か參照に供すべし曰く社會の變遷に連れて各種の職業の舊慣も共に破壞せられ專ら利己主義の世に推遷り私利に偏し私慾に流れて社會に奇怪なる有罪の現象を顯し來れり昔日は職業の組合は自由の運動をなして自ら働き自ら養ひ風儀の良きものなりしが其風儀は何時しか失せ果てゝ親和實意の貴ぶべき仲間も離散して其子弟は諸國を流浪し無賴なる職人恥知らずの仲間と雜居し土地の貧乏者と合同して惡事を働き掏摸詐欺の所業をなすの惡窟に陷れり此流民の一類のみならず彼鑄掛師、鋏磨師、點燈者、遊藝者、猿廻師、人形遣の類も社會の安寧秩序を保つに危きものなり又一方を見れば貧乏なる事業者貧乏なる雇人と共に廉恥なき學者技師が敏捷なる詐欺をなし流民同一の所行も亦甚し彼の有功の賞牌も詐欺の之に伴ふものあり且つ四科の大學も警察の監視を要す哲學の「ドクトル」宗敎の「プロフエツソル」も假面を被れり其所爲の流民に等しき奇怪の事あり凡そ社會の表面は種々なる形をなし種々なる義務あるに依りて彼等は之れを

奇貨とし己れが惡事を働くの方便となせりと此報道は實に社會に對して有益の警告なりしなり

酒樓及び遊戯場の增加すること　人の萬物の靈長たる所以の其一は火を發明して物を煮て食するを以て也故に人を火食の動物と云へりこれ決して他の動物には見る能はざる所也蜘蛛、蟻或は蜂の巢の如きは極めて巧妙なるものにて學者も皆賞贊する所なれども彼等は果して智慧に依て之を造るものなるや否やは兎も角も古來彼等の巢は未だ嘗て改革せられたることあらざるなり人の事業は之に反し智慧に依て發明改革さるゝものにて火の發明の如きも實に人間の靈妙を現はす者といふべし先年獨逸の學者にして眞の開化は生物を食ふにありしといひし人あり斯くては牛肉豚肉野菜の類に至る迄悉く生食せざる可らず然れども人の身體の組織は火食に非ざれば生命保安の久しきに堪えざる樣造られたる者ならん是は餘論として今文明の敎育に於て三大綱を擧げて體育智育德育と云ふ文明の人にありて敎育上の此三大本の一をも缺くこと能はざるは勿論にして殊に體育上衛生に關係するものは最も此火食にあることは言を俟たざるべし然らば人の火食する所以の者は常に身體を保養して壽命を長く存し社會の人となりて各其勤を全ふするにあるなるべし凡そ人の務は文明に進むに從て着實にして輕忽ならず勤勉にして怠惰ならざるとならんには飲食遊嬉も亦適度なかるべからず抑も飲食は人の喜ぶ大欲の存する所にして吾人の生命を保存し社會の幸福を致すべしと雖も若し其大欲にして節度を失し放恣なるに至れば種々なる惡害も亦隨て增加するなり遊嬉に於ても亦然らん其現象の社會に顯はるゝものは即ち料理屋、飲食店、待合茶屋及び遊戯場等の增加するにあり斯の如きは其國人の風儀淳ならず品行美ならずして病患に罹り妨害に遇ひたる徵候なり

娯樂なる祭り祝ひ抔の爲めに質入物の增すこと又同時に節儉貯金の引き出し多きこと　信仰は人に存して自由なりとすれば神を祭り佛に賽するは人の禮なるべし又吉事ある時は之を喜び祝ふも亦人の情ならん然るに濫りに之を以て娯樂の具となし金錢を浪費し甚しきは產を傾け女子を典買する等種々の惡弊ありしは昔時山王神田の祭禮の時に於て嘗て見聞せし所なり今日文明の時にありても斯る弊習の遺存することあらば忽ちにして質入物は增加し貯金は減少し娯樂の祝祭は反て信仰の禮を失ひ勤儉の德を亂すの徵候を顯はすに至らん此の如きは決して文明の風俗と稱すべきものにあらざるべし

自殺する者又自殺せんとする者の殖ゆること　人の生存は義務の者なりと云へり人は各々生存して其業務を行ひ人たるの滿足に至るべき義務あればなり故に人は我が身體を保存し之を養成する自然の性あり是れ人のみに限るにあらず禽獸も亦之ありと雖も其義務を行ふの責あることなし人の忍耐と勇氣とは躬自らの生存競爭に克ち其義務を遂げ得るなり之に反して我が生命を自ら害する者は不義不德の所業とす其第一は自殺なり自殺のことは一部の書も尙之を盡すことを得ざれば只其原因と見るべきもの數條を掲げて以て諸君の一覽を乞ふ

世を厭ふこと○政事及び宗敎の爲めに精神の激昂すること○激烈なる怒○甚しき心痛○失望すること○戀の不運○嫉妬○功名を貪ること○酒飲み○放蕩の果○博奕好み○博奕の失敗○遊惰○悲哀○家內喧嘩○家計の困難○地位の不平(殊に軍人に多し)○惡事後悔○恥辱○刑罰の恐れ○人を殺して

此外病苦等自殺の原因あれども省く一々之を事實即ち數字に表示するときは其多寡に依り其國の道德宗敎に於て其敎化の至ると至らざることを知るべし又大に其國の富强に關係すること實に少からずとす

賣淫女の殖ゆること○夫婦離緣の多くなること　夫婦室に居るは人の大倫なりといへる言は今日より之を見れば固より漠然たる立論にて何故に大倫なるかを知ること能はざれども其夫婦の道を重んじたるの意は明かなり彼の一夫一婦の說に至ては議論紛出或は一夫一婦の理は信ずべきものありと雖嚴に過ぎて實際に行はれずとし陽に信じて陰に之を斥く者あれば或は斯る議論は寧ろ人生の蕃殖を妨害するものなりとて大に非難の聲を鳴らすものあるより終に之を以て一時の空論に止めず實驗上事實上頗る學者の苦心研究する所となり研究の道も亦漸次に開けて男女出生の數より年齡に至る迄精密の調査を施し幾十年の經驗をなせし後婚姻の年齡頃に至て大數上男女殆ど同數に至るの結果を見たり彼のバックルは男女の產出數を同一なりとしたれども固より粗笨の調査にて實際上男の產出數は遙に女に踰ゆると雖結婚年齡に及ぶ比ひ大數漸々同一に至るの傾を示すものとす是れ從來道理より事實を見たる想像法に反して事實の上より道理を觀察したる實効にして實に學問上に一新生面を開きたるものといふべしこれ今より僅に百五十年以前のことす此に於て始めて一夫一婦に對する非難は漸く迹を隱し加之此等婚姻上の調査は又賣淫と離緣とに互に正比例をなし賣淫女の增加するに從て離緣も亦多く離緣の增加するに隨て賣淫女も又增殖し兩々互

に相俟て社會に種々なる病弊を醸すものなることを證するを得たり

今明治十八年より二十五年迄八箇年間の婚姻及び離緣の數を擧ぐれば左の如し

全國の結婚及び離緣の數

	結婚數	離緣數	結婚百に對する離緣
明治十八年	二五、九四九七(組)	一一、三五六五(組)	四三・七六四(組)
同十九年	三一、五三一一	一一、七九六四	三七・四一二
同二十年	三三、四一四九	一二、〇八五九	三三・一七七
同二十一年	三三、〇二四六	一〇、九一七五	三三・〇五八
同二十二年	三四、〇四四五	一〇、七四七八	二一・五七〇
同二十三年	三二、五一四一	一〇、九〇八八	三三・五五一
同二十四年	三二、五六五一	一一、二四一一	三四・五一九
同二十五年	三四、八四八九	一一、三四九八	三二・五六九
平均一ヶ年	三二、二三六六	一一、一七五五	三四・六六七

此表記によるときは三偶の婚姻につき殆ど離緣數一偶の割合なり夫婦は一家を組成し社會の元素をなすべきものなるに其年々離緣の增加し行くは以て社會內部の混雜を推知するに足るべし中に於て斯く離緣の最も多きは社會の如何なる種類階級に屬するやを調査せば更に一層有益なる結果を得るとあるべしと雖我國にては未だ此等の研究あらざるは遺憾といふべし

獨逸の學者は云ふ離緣の發意は有罪の私慾なりと又云ふ離緣の裁判に於て社會は自ら不名譽とし不德として眞實なる考案を下さず其結果は多く嘲弄の話柄となり離緣の社會風儀の頽敗たることを各人自ら之を恥とし其責に任せざるは社會の心情輕薄なるの證なりと

賣淫の弊は自殺を增長せしめ又私生兒は不健康の者多く痴愚の者多く自殺其他種々の罪を犯す者も亦多く及び梅毒の蔓延する恐れも多しと云へり我國に於ても此弊害の無きにあらざるべきを以てこれ等のことを精しく調査するに至らば意外なる結果を發見し之を救治するの道を立つることを得て大に社會の幸福を增益々富强を致すの素を養ふことを得べし

囚獄所懲役場等の充ち除ること　此條は所謂法國に於て第一の保護に係る生命と財產とを殘害するものゝ比較上の多寡により社會の風儀品行の厚薄良否を知ることを得べきを明かにす左の表は之を知り得べき寒暖計とも云ふべし尙ほ之に犯罪の種類、犯者衣食の入費、監獄費幷に係り役員の給料等及び社會が生命財產の

損害を受くる所の事など詳細に之に添へんと欲したれども之れは他日に讓て今は唯粗末なる寒暖計を用ひて其昇降する所を示すのみなり

在監人員　毎年十二月三十一日現在

年次	囚人	懲治人	刑事被告人	別房留置人	携帶乳兒	合計
明治二十一年	五、四一二六	一七三	五四六六	一〇六四	二二八	六、一〇五七
同　二十二年	五、四四〇八	二三一	八一七三	八五〇	三四六	六、四〇〇八
同　二十三年	五、七六一五	二五八	九三七八	一八二九	三六六	六、九四四六
同　二十四年	六、一五九五	二七四	九七二八	一六五六	三四一	七、三五九四
同　二十五年	六、四一五三	二四四	九二九二	二〇〇一	三六七	七、六〇五七
平均	八、五三七九	二三六	八四〇七	一四八〇	三三〇	六、八八三二

此等の人々は皆法人(法律の保護を享くる人)に害を與へたる者と見ざる可らず斯る現象は畢竟何に因て起るものなるやを考ふるに亦唯宗教道德の力薄弱にして彼の罪惡消滅の實行擧らざるを示すもの也加之又淺薄なる唯物說我欲なる利己主義も亦罪惡を增長せしむるの恐れなきやこれ宜しく講究すべきとなるべし

次に述ぶる所は專ら政治に關して他に存せざる箇條なり然れども余の想像する所によれば朝鮮支那の如き政治は實は政治としては誠に價値なきものにして若し其病弊其妨害を一々數へたらんには殆ど數限りもあらざるべければ今は姑く之を措き所謂文明の政治なるものにも其病弊妨害あれば之を醫し之を救ひて國富み兵强く國家安寧の基を建てんことを希ふ所以にして西洋學者の心を勞する所を茲に述ぶるのみ

政治の活動に係る病患及び妨害の徵候

○新聞紙等の公事訴訟○新聞紙の發行停止　政治は活物にして死物にあらざるが故常に活動して停息することなければ時ありて病患に罹り妨害せらるゝことありて其澁滯を致すことあり此の如きことは前會に述べしが如く智識の業にして事實の報告者たる新聞紙の上に公事訴訟又は發行停止等の異常の現象を呈出するものとす固より新聞紙にして虛妄の事を構造し或は他の隱事を暴露し人を輕蔑し詐言を記するが如き場合に於ては自ら發行停止、公事訴訟の起るべきは當然の事也と雖かゝる場合以外に於て智識上に關して此等異常の現象を見ることあり例へば政治上の企望に關する言論の政府に否認せられて新聞紙か此等の災厄に遇ふときの如しこれ皆政治の病患に罹り氣息の滯塞して妨害せられたる徵候なり

○選擧の爲に騷動を起すこと○選擧のために賄賂を使ふこと○選擧のために不正を行ふこと　選擧のことは立憲政治の一大事なり宜しく謹んで之を施行し以て其機能を圓滑にし其美を擧けんことを務めざる可らず選擧の制は騷動を起すべきために設けたるにあらず賄賂を使ふて私を謀るべき爲にもあらず又不正を行ひて事を求むべき爲にもあらず然るに今起す可らざる騷動を起し使ふ可らざる賄賂を使ひ正しくせざる可らざることを邪ならしむるが如きは文明の政治に無能にして不適當なる所業とし國家の觀念の缺乏せる病弊の現象なり若し其最も甚だしきに至るときは國家を自殺せしむるの恐れある病徵なりと云へり

○政治上の集會又は結社を權力を以て解散せしむること　此條の解は難物なり既に權力を以てと云ふこれ最早尋常の事にあらず故に其事情に通せずして妄に想像を逞うし解釋を施じ難き所あり然れども兎に角政治上の集會結社が權力によりて解散さるゝが如きことあらば政治の發達上に妨害物の存在するか又は其病患に罹り居るの徵候なること疑なし

○政治に係る新聞紙の流行及び政談の熾んなること　政治は政治なり新聞紙は新聞紙なり新聞紙の職とする所は必ずしも專ら政治にのみ關するものにあらず新聞紙は智識の業にして事實の報道者なること前に屢述べたる所の如し然るに社會全體に關する新聞紙が專ら政治をのみ論議するもの愈々多く又熾に政談の流行する等は皆是れ政治の活機滯て健康ならず病患ある徵候を示すものなり

○內閣の維持すべからざる危難　これ歐洲に於ては屢見る所にして政治病の徵候なり凡そ人間社會の大勢は常に進歩の傾向を有するものにて古來の歷史は實に明に之を證せり東洋諸國の如きは從來古を尊び今を卑むの遺風あり支那の如きは今日なほ此陋習を脫せずと云ふこれ固より誤謬の見なること論なし社會は此進歩の流潮の間に於て時として大波動を起すことあり例へば人民の大移動の如く十字軍の如く亞米利加發見後の如く佛蘭西大顚覆等の如し我が國今日征淸の如きも亦其一に數ふべきものなるべし今や十九世紀の末年將さに終て二十世紀に遷んとするに際し俄然として東洋の一端に於て此大波瀾を出現し世界を變動せしむるの勢をなす斯くて十九世紀末年の上に如何なる結果を現はすべきかは今より豫測すること難しと雖文明は益進みて野蠻は益衰ふべし究極世界の進歩に外ならざるべし人間社會は此の如く常に進歩の傾きを有せり爲政者は其波動中にありて政機を操り其針路の順逆を觀察し事順なれば功を奏し逆なれば敗を取る

べしかゝる場合に於て最も多くこの病徴を發すべし

○國會を不時に解散せしむること　此政治病の解は未だ見當らざれば後日に讓るべし然し國民の政治思想の文明に上達せざる間は屢此徴候を顯すとあるべし」

○國會が豫算を拒絶すること　是れ歐洲に於て見る所の例にして一種の政治病なり即ち國會と政府と折合惡くして不調和の時などに發する病徴なり

○豫算のなき政治　余の如きも豫算のなき政治の世の中に生れたるものにして佛國大顛覆以前は即ち此狀態にありしなり豫算なきは唯一見したるのみにては事甚だ重からざるに似たりと雖實は政治家學者の此點に於ける苦心は決して少からざる最要の問題にして無豫算の政治は稅法整はす濫に國財を費し收斂益多くして費用益辨せず徵收愈重くして終に歷くことを知らず國民漸く窮厄に迫り國家殆ど衰頽に傾くものは此豫算なき政治病の徴候なり抑國政の無豫算の時代より有豫算の時代に移りしは國家經濟上の一大進歩にして世は幾多の艱難に遇ひ政海の大激波を凌ぎて漸く茲に至りしものなり是れ立憲政體の功にして其績眞に大なりと謂ふべし我が國に於ては既に高尙なる立憲政體を設けられ共に豫算の制も定められたれば國家經濟の基礎益堅固なるに至れり現に征清の軍費の如きも之が爲めに大に便宜を得しとならんと思はれたり今立憲政外の各國殊に支那朝鮮の如きは此政治病の大患に罹りて困苦の狀あるべし朝鮮は論なし支那の大國にして不生産の國費の爲めに僅少の外債を仰ぐか如きは其無豫算の時代にして政治は此病弊に陷りたる徴候ならん

○政府か豫算の上に遣ひ過ぐること　豫算の國家經濟上最重要なるものなるとは前に述べたるが如し豫算は國家の歲入歲出を計り法律規則に從ひ兩議院と行政府と相互議定に依て成立せるものにして秋毫も動かす可らざるものなれども動もすれば歲出の歲入の上に超過するの弊あるは政治の病患に罹りし徴候なり」

○歲入缺乏の經濟　是れ國債を募るに切迫なる場合にして國家の經濟の不整理所謂平常の不用心不始末より來る所の政治病の徴候なりと云へり

○書付主義　これ無用なる書付を多く出すことにして政治に伴ふ病患の徴候なり茲に御斷り申すべきとあり當院雜誌第十五編中余の演說したる政治の部に書付主義の解ありこれは此條に出すべきものを彼條に載せたり右第十五編のは多くの政治といふ條なり多くの政治とは多く役員を用ひ政治を過多ならしむるの政治病なり故に多くの政治と書付主義との間には確然たる區域なし役員多ければ

種々の事を考案し種々の書付を出すに至るされば多くの政治の條は原因を述るものにして書付主義は其結果なり

○政務の延滯すること　政務は元來最も敏活を要す其延滯するは又これ政治の病患に罹る徴候にして其活動を妨害し恐くは社會の營業を萎靡せしむるの弊多かるべし

○行政上の免職及び懲戒の多きこと　これは監督の其法を得ざるより來る所の政治病の徴候なりといへり

○不免換紙幣及び負債の爲めに國債の増加すること　若し此現象ありて増長せんか其及ぶ所は國家を貧弱にするのみならず亂を招くの禍となる人の能く知る所嘗て佛國の財政亂れて國債益増加し國費を補ふの術なきに至れり是時にして邪説も妙案として行はれたり外國人なるジョン、ロウ來て策を献じて曰ふ幾億の國債を負ふも一二年にして之を償却せんしかのみならず現金を得ると亦多からんと其策忽にして用ひらる則ちバンクを設け紙幣を發行し紙幣は國債額面と同價たるを約し尚ほ更に現金を得んか爲めにミスシッピー金礦會社を起し兼業して曰ふロッイシァナに金銀礦あり産出夥しその株劵の利は百に四十に當れりと人の慾情速に富有ならんとの空望に驅られ紙幣株劵を千金よりも重しとし片々たる空紙を買ふ者佛國のみならず外國に及ぶ固より無より有の生すべき理あるとなければ數年ならずして鈞金の策は瓦解しミスシッピーの江水と共に流れ去て跡なし只遺す所は王家衰滅の禍種となれりと云ふ我朝にては全く之に異なり其時代が殆ど同じうす我が國の爲政者たる有德公が施政の始め第一に貨幣の改造に着手せしと古來金銀の改造は國幣缺乏の時にして或は量目を減じ或は他物を混じて之を多からしめ以て其缺乏を補ひしが如し享保の時も財政甚だ困難なりしに粗貨を却けて良貨を造れり今に世人の享保判と稱して寶藏する者多しと聞く彼と我との比較斯の如し我が爲政者の陰に我が國の未來に及ぼせし功績は尚ほ多かるべし

○租税の常に拂ひ殘りあること○脱税の弊あること○訴訟を拒んで受けぬこと○訴訟の權を擅にすること○司法權と行政權との葛藤○公衆の心と反對したる裁判の言渡等　右に列載する所のものは何れも政治の活動を妨害する病患の徴候たるは固より明瞭なりと雖今一々例を擧げて之を詳に説くと能はざるもの多し概していへばこの病患の徴候は一の現象にして或は社會の智識未だ開けざる